

前肥新景

特116

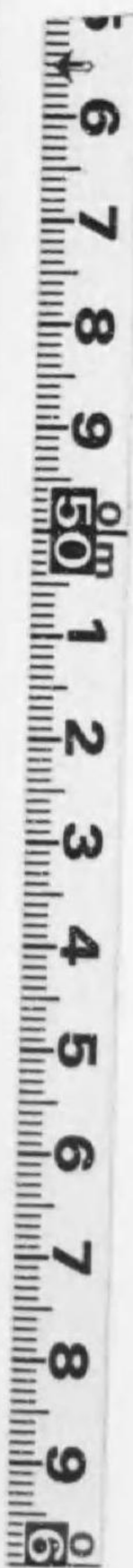
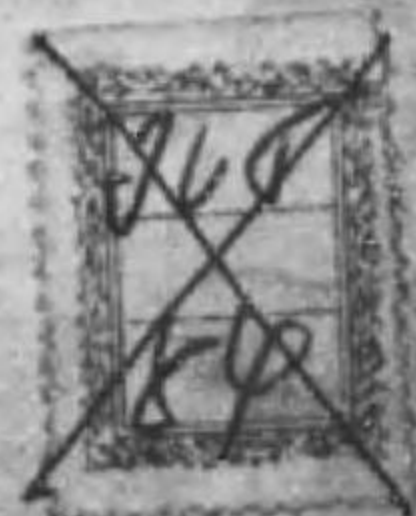
991

精義

第二篇

著者

井上一



始





特116  
991



# 祝發刊

佐世保海軍工廠長中將

木村剛

陸軍少將

武富牧太郎

陸軍少將

武藤信義

子爵

五島盛光

男爵

大村武純

衆議院議員

川副綱隆

佐世保市長

加藤八太郎

佐賀市長

野口能毅

佐賀商業會議所會頭

牟田萬太郎

大正  
10 1.17  
内交



自序

顧レバ不肖蠹ニハ最新肥前ノ精華第一編ヲ編纂シテ幾多名士先輩ノ援助ヲ辱シ今亦其ノ後篇ヲ發行スルニ到リ蠢兒今日ノ光榮ヲ負フ深ク感謝措ク能ハザル處ナリ  
由來肥前ノ地、我對外關係ノ門戸ニシテ文物夙ニ進ミ偉人傑士ニ富ムハ三才ノ童兒ト雖尙且熟知スル處ナルガ吾輩本書編纂ノ舉ニ出デ親シク此ノ地ヲ踏ムヤ益々欽慕尊敬措ク能ハザル巨材ニ接スルコト其數ヲ知ラズ、吾輩硯石ノ苦ヲ積ム茲ニ年余、或ハ東西ニ奔走シ其ノ人ニ接ス加フルニ數多名士ノ後援ヲ得漸クニシテ今日第二編ノ稿ヲ脱スルニ至ル思フテ茲ニ至ル吾輩感慨無量ナルモノアリ其困難ト闘ヒテハ臥薪嘗膽ノ苦ニ獻歎シ其稿ニ對スルヤ幾度力篤逸ノ才ナキヲ憾ム、然レドモ吾輩其趣ヲ顧ミテハ湧然トシテ不屈ノ精神ニ蘇ク、之レ實ニ直接間接多數紳ノ助力ヲ辱フシタル賜ナリト思フニ至ツテ、然カモ本書ガ九牛ノ一毛、後進者ノ奮發興起ニ益スル所アランニハ予ノ本懷將何物カ之ニ過ギンヤ

終ニ苟モ本書ヲ繙クノ人、冀クバ志ノ存ズル處ヲ諒察セラレンコトヲ茲ニ聊カ本書編纂ノ主旨ヲ陳ベ以テ其序ニ易ヘント欲ス

大正十年一月

日

著者

井

上

一



例言

本書ハ伊呂波順ヲ以テ掲載スベキハズノ處寫眞其他材料蒐集上ノ都合ニ依リ順次不同ヲ以テ掲載ス

本書ハ各位悉ク英姿ニ評論ヲ附シ掲載スベキハズノ處遂ニ出像ナキモノアルト又御出像ノ寫眞ニシテ鮮明ヲ欲ギタルモノ多カリシトニ依リ寫眞ハ本書口繪トナシ掲載ノ止ムナキニ至レルガ英姿ヲ欲ギタルモノ亦アリ

本書ハ第二編トシテ發行シ第一編ノ増篇ニ觸由スルモノナルヲ以テ其内容ハ前編ニ類スルモノアリ其ノ第一編ハ大正八年十二月發行セシモ今亦本書ヲ公ニス其内容ニ至リテハ著者ノ意ニ副ハザルモノアルヲ知ルモ遺憾ナガラ不完ノ譏ヲ甘受シテ之レヲ發行ス

偏ニ諸賢ノ寛容ヲ乞フ

本書ニ寫眞記事其他ノ廣告等掲載シアルモノ亦前編ニモ掲載シアルハ一般ノ認ムルトコロナルガ本書ノ内容ニ記事又ハ口繪ノ寫眞掲載ナキモノ、前編ニハ掲載セシモノアリ

本書ハ祝發刊ニ依リ廣告者ニ限リ本書ノ實費金壹圓ヲ以テ頒布ス

大正十年一月 日

編者識



最新肥前之精華 第二編拔萃

向テ上段右ヨリ

- |    |   |  |    |                                   |   |
|----|---|--|----|-----------------------------------|---|
| 段一 | 佐賀市長<br>巖ノ佐世保要塞司令官<br>勳一等侯爵<br>陸軍少將<br>佐世保市長(大正九年十月任期滿退)    | 野口能毅君<br>武富牧太郎閣下<br>大隈重信閣下<br>武藤信義閣下<br>加藤八太郎君 | 段四 | 藥劑師<br>醫師<br>教育家<br>實業家           | 青井伊吉君<br>平島芳平君<br>伊達木憲章君<br>松井彌一君<br>黒木清君       |
| 段二 | 九州礦業界之霸王<br>實業家(縣參事會員)<br>九州石炭合資會社取締役<br>西海銀行取締役<br>實業家 伊萬里 | 高取伊好君<br>山ノ内喜兵衛君<br>藤田與一君<br>山村直太君<br>吉富半兵衛君   | 段五 | 向テ左醫師<br>醫師<br>樺島村<br>三重村<br>神ノ浦村 | 野副主一君<br>渡邊研作君<br>小川源次郎君<br>岩繼松君<br>村島喜平君       |
| 段三 | 西彼杵郡福田村<br>迎山炭坑々々長<br>中越炭坑々々長<br>大野炭坑々々長<br>伊萬里町實業家         | 萩原時太郎君<br>内藤佐次郎君<br>吉原梅吉君<br>伊集院兼吉君<br>池永榮助君   | 段六 | 全醫師<br>全醫師                        | 中村九郎三郎君<br>三浦丈太郎君<br>山本袈裟太郎君<br>稻松志可太君<br>岩永觀吉君 |







最新肥前之精華第二編 抜萃(向テ上段右ヨリ)

- (ア) 伯爵 松浦厚閣下
- (イ) 子爵 五島盛光閣下
- (ウ) 男爵 大村武純閣下
- (エ) 衆議員 橋本喜造君
- (オ) 佐世保市會議長 川副綱隆君
- (カ) 實業家 田中丸善藏君
- (キ) 米倉魚市場主 米倉喜太郎君
- (ク) 海軍用達商 安部彌八君
- (ケ) 鍼灸學士 山口秀松君
- (コ) 實業家 中島嘉則君
- (サ) 海軍用達商 瀬野喜五郎君
- (シ) 海軍用達商 中道厚君
- (ス) 東彼杵郡長 小野七五三藏君
- (セ) 日字村 丸田正之君
- (ソ) 全上 迎文太郎君
- (段四) 佐世保倉庫主任 永尾愛次郎君
- 藥劑師 佐藤秀春君
- 妙法寺住職 湯川泰雅君
- 大僧都

- (段四) 早岐村醫師 中村利一君
- 福重村實業家 峯俊秀君
- 全上 吉川雄次君
- 全上篤農家 原田平作君
- 長興村醫師 長澤承德君
- 大村町醫師 高木細君
- 縣社大村神社々司 江頭彦四郎君
- 早岐町醫師 橋川百一君
- 全上 今邨貫逸君
- 彼杵實業家 池田三郎君
- 醫師 長岡文太郎君
- 松原村酒造家 上野常春君
- 松島村 勝谷德市君
- 浦上山里村 田川源造君
- 全宣教師 青木義雄君
- 全宣教師 山下甚五郎君
- 雪の浦醫師 佐藤寅藏君



- |  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| (段四)                                       | (段三)  | (段二)                                    | (段一)                                       |
| 陸軍一等軍醫 西松浦郡南波多村 川添昇君                       | 伊萬里圓通寺住職 有田町澁川醫院主 有田町醫師 全上 全上酒造家  | 雪の浦村 瀨川村 高島村 江の島村 淨專寺住職 平島村             | 故陸軍歩兵少佐正六位 日露戰役戰死者 江島村醫師 高島村 瀨川村 浦上山里村 教育家 |
| 赤井義勇君                                      | 赤井義三君 本土地三郎君 正司東三郎君 樋波優策君 西山積助君   | 島山又藏君 井手仙太郎君 佐藤種一君 石本喜右工門君 萩原時太郎君 山崎友市君 | 大江保君 青木謙吉君 海野房二郎君 楠本丹次郎君 松本莊助君 小須賀說二君      |
| (段八)                                       | (段七)  | (段六)                                    | (段五)                                       |
| 六角村酒造家 山口郵便局長 橋村上野醫師 西嬉野村實業家 山口驛前實業家 山口村獸醫 | 六角村藥劑師 朝日村高橋町醫師 武雄町 住吉村醫師 東松浦郡相知村 杵島郡橋村々長   | 東川副村醫師 製材業 東川副村 唐津村大島 全上                | 波多津村酒造家 松浦村酒造家 唐津警察署長警視 西唐津大島造船業 湊村醫師 滿島村長 |
| 田中時次郎君                                     | 成松幾次郎君 宮田德三君 毛利源三君 山口善次郎君 伊藤喜代太君 森靜吉君 山下善太郎君 河野謙助君 菅兼次君 角田利吉君 江口淺次郎君 廣木七郎君 百武光太郎君 石井與太郎君 栗山半次郎君 古川義人君 齊藤鶴治君 田中英治君 | 坂井源六君 富永良作君 坂井德太郎君 森德太郎君 稻富虎一君          |  |







最新肥前之精華第二編 坂奉向テ上段右ヨリ

(段一)

肥前小城清水山住職  
 塩田郵便局長  
 久間村商業家  
 全上  
 藤津郡古枝村醫師  
 塩田町醫師

倉永圓海君  
 原口利秀君  
 白川八十八君  
 平野米藏君  
 高野木薰君  
 杉野逸馬君

(段五)

北松浦郡福重村軍醫  
 全星鹿實業家  
 全生月郵便局長  
 志佐村醫師  
 平戸齒科醫  
 田平村醫師

前田元真君  
 内野義男君  
 益富要一郎君  
 田中登喜次君  
 富永權三君  
 田中修君

(段二)

多良村醫師  
 濱町醫師  
 志田西山吳服商  
 塩田町醫師  
 鹿島町寫真師  
 志田西山實業家

鏡德太郎君  
 矢川四郎君  
 宮崎運吉君  
 雪竹健太郎君  
 淵上左京君  
 山下德市君

(段六)

南田平村醫師  
 全上  
 平戸薄香水産業  
 私立平戸高等女學校長  
 世知原村醫師  
 大島村

鴨川松太郎君  
 石田源藏君  
 友廣伊之助君  
 佐々澄治君  
 間宮滿夫君  
 山田長三郎君

(段三)

杵島郡須古光明寺  
 光明寺母堂  
 佐賀市唐人町實業  
 縣社稻佐神社々司  
 神崎町齒科醫  
 北松浦郡佐々村東光寺

神隆教君  
 神ヨ子女史君  
 宮崎三郎君  
 菰田虎市君  
 松永甚作君  
 谷口虎山君

(段七)

大島村  
 佐賀縣東川副村醫師  
 全杵島郡須古村  
 在朝鮮大邱府醫學士  
 在朝鮮馬山府醬油釀造家  
 北松浦郡生月村醫師

大浦長作君  
 永田美代春君  
 江口傳君  
 吉村剛君  
 江口兵作君  
 那須直治君

(段四)

全生月村法善寺  
 東彼杵郡福重妙宣寺  
 北松浦郡洞禪寺  
 東彼杵郡福重村  
 北松浦郡礦業  
 全上

池田竟瑞君  
 小佐々惠照君  
 西山隆芳君  
 山本平作君  
 麓政太郎君  
 川野平八郎君

(段八)

全上水産家  
 全吉井村實業家  
 肥前吉田皿山  
 北松平島  
 在朝鮮慶北清道雜貨商  
 本書著作者

森壽太郎君  
 青木孫三郎君  
 相川茂吉君  
 浦上喜三郎君  
 井上源治君  
 井上堂滿君



# 精華

## 第二編

### 東彼杵郡

**男爵大村武純君** 男爵は舊肥前大村藩主大村純顯の二男にして嘉永二年八月九日を以て生る夙に勤王の志を懐き維新の際國事に奔走して功あり明治四十二年十二月特旨を以て華族に列じ男爵を授けらる亦男爵は平素武道を好み劍道に長じ又和歌を善くし漢學の造詣深し今は悠悠自適玖島郷櫻田邸にありて詩書を侶とし絶へず地方公會の席に臨み後進の指導に任し居らる元氣尙壯なり祝すべし。

**陸軍少將武藤信義君** 少將は佐賀縣杵島郡龍王村の人明治元年七月を以て生る幼にして群童を抜き志て東京に遊び明治二十五年陸軍士官學校を卒業し同二十六年陸軍歩兵少尉に任ず同二十七年日清の戰爭には旅順口攻撃に參加して功あり凱旋後陸軍士官學校區隊長に補せられ明治二十九年遂に陸軍大學校に入學し同三十二年卒業直に參謀本部出仕となり明治三十六年迄露國駐在を命せらる歸朝後日露戰爭開始せらるゝや近衛師團參謀鴨綠江軍參謀として滿洲の野に戦ひ平和克復後は露國公使館付武官として露國に駐在する事二ヶ年歸朝して參謀本部課長に進み大正元年近衛歩兵第四聯隊長となり大正四年參謀本部課長兼海軍々令部參謀に任じ大正五年五月陸軍歩兵少將に昇進、同時に歩兵第二十三旅團長として現職に在り君は資性勇往果斷にして正義を愛し膽略あり部下を愛するに恰も慈父の子に望めるが如しと唯一度軍律の下に立たんか秋霜の如く儼乎として冒すべからざるものあり洵に恩威双ながら兼備せる好個の將軍と稱すべし。



### 吉野澱粉製造所

抑々吉野澱粉所は西大村馬場崎に在り大阪天満貿易商吉野嘉七氏の經營に係るものなり澱粉は各種工業及び食料として用途廣きに拘らず北海道並に千葉縣地方にて僅かに製出するに過ぎざりしが其品質の粗悪なるのみならず産額亦多からず到底一般の需要を充たすに足らず年々巨額の外國製品を仰がざるべからざるを氏は遺憾とし之が製造は國家經濟上忽諸に附すべきにあらずと所主は人をして各地に調査せしめたるに目下の位置に於てするを最適なりと認め明治四十一年鹽田定右衛門氏を支配人とし田野純三氏を營業主任として前掲工場を創始兩氏に經營を委ね爾來塩田、田野兩氏は或時の如き美望的將た嫉妬的迫害を受け其他經營上種々の苦辛に遭遇せるも克く守つて動かす凡ての精根を傾けて事業の發展を圖り相勵まし相勉めて遂に地方的事業と認めらるゝに至れり之と同時に品質の改良に留意し在來品の純白物に使用するに適せざりしを研究して新漂白法を發見し如何なる純白の物に應用するも支障なき優良品を得聲價の發揚と同時に需要増加し注文に應じ能はざるの盛況にあり同所は敷地千五百坪建物七百坪を擁し六十馬力の吸入瓦斯發動機を据付け二百名の職工晝夜間斷なく製粉に従事しつゝあり其原料たる甘藷は一日十萬斤以上を要し長崎、熊本、鹿児島各縣より蒐集和船を以て運搬せしめ海岸より倉庫までは私設トラックに依る、而して之より製出する澱粉は年々額實に五百萬斤を超ゆると雖も而も供給の不足を感じ先年鹿児島縣肝屬郡大始良村に野里澱粉製造所なる分工場を設立し又近く營業主任たりし田野氏職長たりし名村氏各鄰接地に工場を起し相應して盛に製粉し隆昌に向ひつゝあり製品は大阪の所主吉野氏の店に送り各地の需要に應じ其販路は内地は勿論英、伊、支を初め歐米各國に涉り大戰勃發の反映は急激の輸出増加を促し殊に從來巨額の輸入を見たる瓜哇産タピオカ澱粉を驅逐し輸入品の跡を絶つに至りたるは同所の與つて力あるものなり同所は九州沖繩八縣聯合共進會、臺灣南部物産共進會、長崎開港記念博覽會大典記念博覽會等に出品して金銀牌を受領せり以

て又其製品の優越せるを知るに足るべきなり近時同所に倣ひて同業者續出す異に邦家の爲め將來一大輸出品たらんこと必ずしも期待されざるに非ず。

### 名村以久治君

夫れ一藝を以て立ち一事業を成功せんと欲せば必ずや熱心ならざる可らず若し夫れ此の二個の條件を欠ぐものあらん乎其成功の光明を見る事甚だ難し今や本郡澱粉製造業界の名士名村以久治君は本郡に於ける斯業の恩人として將た品格高潔なる其手腕家として名望隆々業務繁盛を極むる君は明治七年二月二十一日大阪市南區鴨目町に生る幼にして雄圖萬障を排して田次澱粉製造所に入り熱心能く萬苦に耐へ強志能く忍び此の如き業の知識を研練する事六箇年遂に甘藷澱粉のみならず諸雜穀よりするの製法に至る迄悉く其蘊奥を究む茲に於て斯界の大工場たる吉野澱粉所よりは君を迎へて職長たらしむべく懇懇せられしを歴し難く入りて職長となり奥蓄の才を揮ひ裁斷處理誤らず銳意熱心同所の發展に心血を注ぎ之が改善發達に寢食を忘れて貢獻する所少からずと共に又斯業の爲め卒先指導者となりて舊來の面目を革む是れ即ち斯界に推尊せられる所以なりとす又先見卓絶なる君は大正四年歐洲戰亂の風雲に鑑み遠觀して新に工事を起し獨立自營以て劃策するところありたり、明や偉なり、爾來進運隆々として多幸を極む、尙年齒春秋に富み今や僅かに四十有五君が將來の活劇功利は刮目に値す。

### 吉崎仁右衛門君

明治十二年十一月十五日日本郡鈴田村に生る、志を立て長崎縣師範學校を卒業して大村尋常小學校に教鞭を執り大村町外二ヶ村聯合學校の分離に際して大村町尋常高等小學校々長に任ず、君資性温厚思慮宏遠體態亦極めて偉大、容貌一箇の才腕的威風を具す然も英敏にして高潔なる意志を在じ格勤精勵自から範を示して部下を卒ひ、村民の智徳上進を圖るに努めて兒童の出席獎勵内容を充實せしむ、故に大正四年本縣知事の選獎を得た



る敬掬すべき育英家たり。

峰 俊 秀 君 偉才と卓見とは實業の樞機、膽略と志氣とは業務の關鍵而して能く之を一身に具備して日進繁劇の實業界に立ち世の趨勢を洞見し後來の方針を定め心算已に成りて着々歩武を進め以て里閭を潤し自らも亦盛運隆々たる君の如きは稀なり、君は舊大村藩士峰柳一氏の一男を以て其家に生る嚴父は藩主の愛寵殊に厚く大村藩計勘局詰又は同局支部助役を勤務し廢藩に際しては藩地引繼方となり明治七年佐賀の亂には長崎縣守衛として出征翌八年福重村地租改正調査役を拜命治績あり同二十六年本村々長に推舉せられ格勤奉公能く公利利福に努む其の功績顯著なり今は家に在りて老軀を慰す君も亦夙に東都に遊び學を修むるに怠らず器略傑出して義膽秀で學殖豊富にして理想深く烟眼遠く未然を察するの明あり見よ福重澱粉製造所の如き君が第一歩の出陣に過ぎざるも獨力經營者々發展しつゝあるものなるが同所は初め株式會社にして經營困難を極め遂に解散せるを大正六年之れを買収し至難なる創業と守成とを見事に達成せしめ今や歐洲戰亂の趨向を鑑み多くの職工を督勵し堅實なる奮闘を以て着々盛運に向ひつゝあり實に地方の爲め欣幸に堪へざる所にして如何に君が先見の明なるかを知ると共に記者は是れが多々益々發展せんことを希望して止まざる次第あるなり、夫れ好漢君の春秋頗る多し幸に健在多幸あれよ。

福重村 澤田秋君、吉川雄次君、原田平作君、原田惣吉君、山本米作君、福田近次郎

君、中尾吉三郎君 諸氏は模範の篤農家にして資性温良能く勸農に努め夙に地方公共の爲め盡碎淺からず澤田秋君の如き現福重村長にして郷黨の敬愛最も厚く息子も亦前途有爲の教育家を以て矚目せらる吉川雄次君は福重村戸長時代より村政に參劃し公共事に盡すところ老の至るを知らざりしが如かりき原田平作君村収入役或は村助役を經歷し常に村會議員村農會會長其外村公共の榮職を帯び専ら地方福利の増進に力を竭す原田惣吉君は農事の傍ら水

産物仲買商を營み躍如たり常に自村の福利に留意し村會議員として兼に愛せらる山本米作君は農業の天地生々の化育を補成する大原素たる要旨を了解し且つ是れを重じ終始一貫此の業の啓發誘掖に努む常に村要路の職に在り村制實施以來の村會議員たり福田近次郎君性頗る温良勤儉亦熱心ある地方産業の振興者として篤望敬愛を受く中尾吉三郎君天資活達覇氣に富み天資の才勇機宜の畫策は措置誤らず近時米穀肥料商を兼業して躍如たり家運發展の氣運に喬ふ。

上野 常春君 方今資産家を以て稱せらるゝもの直に紳士縉商と稱すべからず凡そ世の紳士縉商と稱するも

の多くは是れ權門に出入して貨材を貪り或は人の艱苦を奇貨とし高利を掠め私利を網し貧民を泣かしむるもの比々皆然り偶々敏慧奇智の士一朝風雲に會して名を天下に成すもの或は父祖餘慶の恵に浴して徒らに陶矜の富に甘んずるものに外ならざるなり而かも多くは皆放縱逸惰に流れ祖宗の膏血に成れる貴重の資産を蕩盡し其極遂に産を失ひ家を破るにあらずんば則ち鄙吝陋劣極りなく徒らに父祖遺産を固守して失はざらん事を務め利用厚生之道を知らず殖産興業の策を立てず一意守錢の賤奴と成る終るに慨するに耐ふべけんや個中東彼杵郡の素封家上野常春君地方門閥の家に生れ祖父の遺業に成る酒造業を營み更に造船業を起し堅操能く遺産を保ち鄙吝に失せず陋劣に流れず拮据勉勵して家運を振興せしめ陶矜の富を致し一方には銀行を經營して地方金融を圓滑ならしめ亦私財を擲ちて公利公益を冀圖するに汲々たり、加ふるに惠愛仁慈能く下を惻れみ能く恤くしむ人皆其德澤に潤ひ夙に郷黨の推重を受く而かも君が達識の才智と前途の豊富なる春秋とは今や郡中一位の實業家として名聲赫々遠近に轟く、記者は君が將來の勇躍利目に値すべきを信す好漢夫れ自重せよ。

福田 喜作君 我が日本は往古豊葦原の瑞穂國と稱す、稻の良く出来る芽出たき國柄なるを意味す、農を以



て立國の基礎とせるも亦故無きにあらざるなり、其精神既に此の如し、農事も亦尊からずや、農産の道振興せざるべからず、大和民族としては何物を以てするも之れに勝るものあらんや、福田喜作君は松原村の人、明治十四年四月を以て生る、終始農業に従事するの人なり、君は天性頗る實直にして精勵の風あり然かも能く人と親しみ人を愛し又國家を思ふの念に富む、君専心農業に學生の心血を盡ぐは蓋し人生の趣味と人間の徳操とを此の中に發見せんとす然も決して尋常人と同じからざるものあり、然り地方公共の爲めに盡す是れなり、亦君が養父善右惠門氏の如きは貧窶に身を起し粉骨碎身晝夜兼行多年苦役勞務に従ひ漸次産を興して遂に名をなせり、君は山下林右工門の二男にして明治二十三年福田善右工門に見込れ養嗣となり明治四十二年、年甫二十九歳、其家督を相續して家事萬係を理め専心其業に精勵す、養父母に對す至孝なるは亦世の模範に足る、近世地方篤農家を以て愛せらる、尙ほ叙すべきもの多々あるを知る然れども事煩累に屬するを以て唯其一斑を記し茲に擲筆す。

### 時多一郎君

絶好の教育家にして天資温厚苟も人と角する事なく宏量寛大、識見卓絶、而かも相親しむべく相犯すべからざるの正容自然に品性と相伴つて身邊一異彩を放ち常に勤勉力行を以て其分となし多年育英の爲めに相勞するも毫も倦色あるを見ず積年の勤勉其天職を全ふし聲望隆々たるもの即ち、時多一郎君の如きは罕なり、君は明治八年を以て郷里千綿村に生れ同三十年三月長崎縣尋常師範學校を卒業し翌月長崎尋常小學校訓導を拜命して爾來、恪勤十年、同四十年千綿尋常高等小學校長に任じ、大正三年千綿農業補習學校を兼任す、精勵其職に盡し訓練教授宜しきを得大正三年二月學事獎勵の本旨に依り賞與を受く、又傍ら地方青年指導の任に當り舊來の弊風を芥除し智識向上の機運に向はしむ、君元氣旺盛、趣味恬淡温容自から嬌情の溢るゝものあり、尙君が性行逸歴の叙すべきもの多々あると雖君元來恭謙其功を語るを厭ふ依て記者は其意を體し唯其梗概を記するに止む。

### 妙法寺

(日蓮宗) 寛文四年大村純信の建立に係り開基は日忠上人なり、寺は三根郷の山麓に在り信徒一千三百戸を有し、現住職は湯川泰雅と云ふ、師は明治九年十月を以て西彼岸郡村松村に生れ同村自證寺立花泰亮師に就て得度、進んで第八區檀林を卒へ身延大學院に學び同三十五年選ばれて現住職となり來任す、師性温厚、態度謹嚴にして辯舌秀で佛典の造詣最も深く數次各地に布教して信仰界の爲め將た又現社會の實際上に示導貢獻する所多し。而かも、上求菩薩、下化衆生、の聖意を體得して物質的慾求に薄く其天職を全ふするの外眼中更に何物もなきが如き眞に怨親平等の觀たり、誠に得難き大導師と云ふべし。

### 長岡文太郎君

郡中先進老練の刀圭家として郷黨の尊重を受くる君は安政四年四月二十七日舊大村藩士、高尾家に生る、幼にして穎悟夙に學を好み志を醫學に注ぐ、明治十五年彼岸村長岡家に養子となり同十八年三月笈を東都に負ひ其道の大家に就き醫學を専修すること數歳、以て各醫術の蘊奥を究む、同二十二年十一月縣下北松浦郡鹿町村よりの招聘に應じて其年開業し大に辣腕を振ひ人氣を博す、同三十二年歸郷して家政を修め自宅に開業せり君資性温厚にして眞摯人に對して圭角を露さず一片仁俠の氣を負ひ進んで力を救世濟民の事に竭す亦郡市町村制の施行以來地方衆民の推す處となり村會議員、村學務員等に就任し是等職務の爲めに侃語の意見を以て貢獻する處又尠なからず過ぐる明治四十四年君が其功績は長崎縣より撰賞せられ金三十圓を賜ふ、是れ即ち君が地方人士に尊重せられて名聲籍甚たる所以なりとす。

### 池田三郎君

堅忍不拔の志氣を有し秩序的の進歩を計り一步一步に確實に進一進に步調を定めて其業の發展を企畫し毫も急進蹉跎の行爲なく人をして其誠實堅確に心服せしめ其沈着正節に首肯せしめ以て其業の高隆進運を謀り日に月に向するもの之を池田三郎君となす、君は文久二年六月五日嚴父佐藤彌兵衛の二男に生れ故ありて池



一、名乗る、二十五歳より吳服太物商を営み堅固能く精勵して茲に三十年即ち此の間一勝一敗苦心慘憺の痕なきにあらずと雖、誠實勉強を以て其武器とし、時機を見て計畫をなし世人の意に投ずるの策を立て而して秩序を追ひ歩調を定めて行業し其顧客に對する着實正直、而して最も信用を博し業務日に進み月に盛に向上の一途を辿進するに至れり是則ち君が堅忍不拔にして誠實可尊に其業を營むの結果に外ならざるなり。

### 森山健太郎君

實着温厚の實業家として夙に其名を知られたる森山健太郎君は文久二年六月二十八日を以て本郡彼杵村に生る、嚴父を宇兵衛と稱す、先代宇兵衛は米穀仲買商を以て主業とせり、幼より柔順開敏にして能く嚴父の意に随ひ日夜家業に勉勵し長するに及び信義は志を立つる大体にし片時も信義を離るべからざることを悟り人に交る着實篤厚にして未だ曾て信義に背かず誠實を以て業を營む、君は二十歳より嚴父の業を授け傍ら諸雜貨を商ひ只管信義を大体として微軀を其業に委ね機敏と膽略とを練磨し經驗を重ね漸次功を奏するに従ひ店舗を擴張し吳服商を兼營せしが銳意熱心其發展に孜々として奮闘努力毫も專處せざる功は業務頻繁近時の殷盛を極むるに至れり、又近時ライジング・サン石油特約店、愛國生命保險株式會社代理店を兼業し頗る信用を博す而かも君は居常質素を貴び勤儉貯蓄の心に富み自から奉ずる甚だ薄く人に對する謙讓亦博愛の志甚だ厚し此の故に其徳を感ずるも尠なからず常に推されて村會議員たり其他村公務に推せられ盡瘁せしこと多々あり。

### 三根文雄君

勸業の道一ならず從つて實業の腕を揮つて專攻するも亦同じからずと雖も其尊ぶ所は公益を興し世利を導くに在り而も世の所謂實業家なるもの多くは個人の利慾に眩し嫉妬の野心に驅れて世評の如何を顧みず他を排除して漫りに自他の營利に汲々す、嘆するに勝ふべけんや、個中獨り三根文雄君世潮の表に聳立し腐氣に染まず毅然として國家實益を振興し孜々勤勉毫も專日なきものゝ如し、偉なる哉君は東彼杵郡彼杵村の人、元治元

年十一月六日を以て生る家世々舊大村藩士にして地方の門閥たり幼より穎悟夙に學を好み大村中學校在學中途にして帝都を志し明治十四年四月上京學を慶應義塾に學び洋學を專修す、同十七年歸郷するや身を教育界に貢獻するところあり明二十三年二月教育界を退きて爾來地方自治政の事に力を傾注し窈かに心身を勞し永恆無究の社會に立て地方公共の爲めに大になす所あらんとす、即ち同二十三年所得稅調查委員に撰拔せられしを初めとし村會議員、村學務員、村金收支調査員、東彼杵郡々會議員、自村々長等是等の職に歷任する多年、村治に郡政に教育に衛生に經濟に勸業に盡瘁治績少なしとせず近時又農家副産物の獎勵を劃し大正三年十一月定期家畜市場を郡内川棚村に開設し毎月二日三日四日十二日十三日十四日二十一日二十二日二十三日の八日間市場を開き自から開設者兼管理者として如斯の示導獎勵に專職す、是れ愛國厚生の人材と稱すべし記者は君が益々健全を祈るや切なり。

### 橘川百一君

誠厚至篤にして謹謙抑遜博愛仁慈にして寛容宏量の士之れを早岐村の開業醫橘川百一君とす、君は佐賀縣杵島郡西川登村の人、幼より慧敏夙に醫學に志し明治二十八年長崎醫學專門學校を出で一時郷里に開業せしも更に上京して各専門の大家に就き研鑽する所あり明治三十一年八月早岐村に開業し積年研練せる經驗と敏腕とを揮ひ一視同仁懇切至らざるなきより今や來診を乞ふ者日夜踵を絶たず頗る隆昌を致せり、君が來歴に付ては尙ほ記すべきもの多々ありと雖も、性來恭謙口を緘して語るを厭ふ故に唯其梗概を叙するに止む。

### 川尻政五郎君

武門は名業に生れ時勢の進運を看破し夙に醫學を研究し學業富にして才徳兼備既に身を軍籍に置きて殊勳を奏し今や地方に在つて牛耳を取り其の爛々たる智機の活火は能く時運變遷の微を照し其潑々たる神靈の敏手は能く地方醫界の進運を圖るべき卓見明識を有せり然かも其卓見明識を以て傍ら地方公共事に盡瘁す嗚呼川尻君が今日赫々の偉名を揚げ斯界の達人として將た地方の泰斗として敬仰せらるる所以なり、君は慶應三年三月



を以て生れ幼にして異才あり長じて學を好み醫學に志す夙に身を軍籍に置き累進して陸軍三等軍醫正に陞る、日清日露、日獨の三役に従軍して勳功あり勳四等功四級に叙せられ四十一年依願豫備役に入り現地早岐に開業して一般患者に接す、君常に地方公共の職に推せられて其盡瘁至らざるなきと共に又帝國在郷軍人分會長として在郷軍人示導の任にあり、亦偉ならずや。

**城谷關太郎君** 早岐村町部に醫術を開業し今や其名聲は佐世保又は佐賀縣内迄に及び堂々其名を恣にす、君は早岐村の人幼にして穎悟夙に郷校に於て學績優良既に英才を以て群童に卓出せり漸次進みて中學校に入り更に醫を長崎醫學專門學校に學び業を卒へて直に長崎縣立病院に職を奉じ實地に研學すること四年間、眞に其學として學ばざるなく術として極めざるなく大正六年四月現今の地に開業す記者は刮目して君が大飛躍の時機を待たんとす、夫れ好漢幸に自重を望む。

**中村利一君** 温良恭謙の士にして天心珍瓏掬すべきものあり人と交はるや城壘を設けず叮嚀篤義貴賤老幼貧富を以て其言行を二三にせず行ひ輕飄浮薄の行爲なく事に不信不實の措動なく眞に赤誠言行一致の人なり、君は佐賀縣杵島郡西川登村の人、夙に醫を長崎醫學專門學校に學び明治三十三年を以て卒業するや更に上京して小石川區明治堂眼科病院に職を奉じ眼科を實地に專攻す、進んで帝國醫科大學に入り眼科を專修すること久しく其蘊奥を極め歸郷するや直に鹿兒島縣仙臺川内病院主任として聘せられ應じて同病院主任となり蓄奥せる其手腕を揮ふ、明治三十七年日露の平和破るゝや君は陸軍々醫として出征し同三十八年凱旋して二等軍醫に昇進せらる、同三十九年四月早岐村現地に開業して眼科を標榜す、爾來其手腕と懇到叮嚀を以て患者に接し其令聞四圍に喧傳せらる、君資性磊落邊幅を飾らず功名を求めず時流に投せず一意自己の天職に精努す、誠に高風欣すべき名譽兼備の刀圭家たり。

**醫今村貫逸君** 起死回生を以て其職とし救世濟民を以て其分とし夙に令名を博する君は現地早岐に醫術を開業して以來二十數星霜の間博愛仁厚を以て起死回生能く其職に勵み至誠至篤其職を完ふせり、君資性温良にして仁義を重じ恭謙心に富む、人と交るや舊知と生面とを問はず貴賤の別なく懇切丁寧をして博た敬慕の念を生せしむるの特技あり、蓋し衷心深く養ふ所ありて然る乎、居常清澹絶て他に嗜好なく、又醫家の通弊無し、復た以て其人物を知るべし。

**森撰三君** 早岐町の中央に一際目立つ壯宏なる藥店あり、森撰三君の經營なり家地方有數の名望あり家系連綿今日に及び藥種卸商を以て主業とせり、當主森撰三君は唯に其業に知られたるのみならず天資聰明にして多年身に公私の職を集め劇甚を以て敢て勞とせず村治に實業に教育に勞瘁卓偉の功績を奏し偉名四方に喧傳せられ、現に早岐郵便局長の外大小幾多の名譽職を負ひ前途遼遠たる好紳士たり、君が地方の爲め將來愈々活動盡力せんことは衆人等しく期待する處あるを以て記者は筆を後日に譲り茲に擱筆す幸に自重せよ。

**吉居恆四郎君** 博愛仁術を施し救世濟民を以て世に立ち其名地方に洽博せらるるもの吉居恆四郎君とす君は北松浦郡皆瀬村の人、明治四年十二月を以て生る、明治三十二年度長崎醫學專門學校出身の俊才なり、君は校門を出するや帝國國樞位の軍港たる佐世保の咽喉日字に開業す、爾來今日に至る、其間超然濁流の外に卓出し高潔なる理想清廉なる感情を有し患者に接して懇切而かも名利に走らず其職を以て地方の爲め力を竭す亦欽すべき哉。

**一瀬市次郎君** 開業醫一瀬君は醫才一世に傑出し春秋深く文勢に長じて義膽秀で胸宇快濶直裁淡泊能く人を容れ能く談ず而かも烟眼遠く未然を察し其意思、雄略高く世評に出ず卓見遙に常人の上であり、君が衆に擢んで名聲噴々たるもの偶然にあらざるなり、而して君が其職務に執掌する上に下に能く其職責を盡し一意専心忠實毫も



他を顧みることか、其患者に對する如き薰風人を襲ふの感あり、此故に一度君の診療を受けし者は其患軀を君に委して安んずるを得べしと謂ふ、君は西彼杵郡の人、明治十八年四月二日を以て生る、幼にして穎悟、所謂近きを知つて遠きを察するの明あり、亦學を好み、蠶桑雪案勤學怠らず在校中に學績優良、大正元年東京日本醫學校を卒業す、爾來東京に於て諸大家の直接指導を受け大に研學し造詣する所あり大正六年五月現地日宇に開業せり。

**折尾瀬村長山口丹五郎君** は天資明敏活達俠氣に富み頭腦明晰、活機に對して應酬其所を誤まらず、諸事に處して熱誠、成す處極めて敏捷なり、就中君が罕れに見るの村利民術の情圃は茲に啓らけ村民皆君の徳に漂ふ而かも君が年既に傾むかんとするも傾むけず日々佐世保より參勤するが如きは其熱心の如何に至誠なるかを諒得せしむ、故に近時愈々郷黨の間に推尊せられ名聲噴々郷閭に轟く、君安政三年生、折尾瀬村の人、近時佐世保に住す、尙君の性行逸歴に付ては叙昆に傳ふべきもの多々あると雖も界才却て君が徳行人格を傷けんことを懼れ茲に贅せず、諒せよ。

**迎 顯義 君** は折尾瀬村の人、幼にして穎悟、勤勉の資を有し夙に情輩と異なる處あり、人となり自治の才に長じ常に村治に參劃し村利民福の上に拮据勉勵一日も之れを怠ることなく治績現著なり、現に折尾瀬村助役たり、君は度量寛厚能く人を容れ更に城壁を築かず、尤も友愛の情に富めるの人にして一度君に接するものは恰も春風駘蕩の裡にあるの思ひを爲さしむ、爰に於てや衆諸其徳に服し交りを結の士甚だ多し、此の如きを以て自村の爲め終始一貫す茲を以て郷黨皆君の風を慕ひ尊敬すること最も厚し、君尙前途に富む將來の抱負は如何ぞや。

**深山千太郎君** 多年身に公私の職務政を集め、劇甚を以て敢て勞とせず治政に實業に勸農に教育に殖産に之己が職務なし卓偉の功績を奏し名聲四圍に治博せられつゝあるは本郡下波佐見村現時村長深山千太郎君なりとす、君は文久三年其郷に生れて爲人り聰明にして慧智、氣才庸衆を抜ぎ明治三十年四月選ばれて同村々長となり格勲二

十一年に及び其間常に郡農會役員、縣農會議員、地方森林會議員等の榮職を兼攝して汎々公利民福の上に殊功を奏せり、亦日露戰役に際しては其所置宜しき功に依り勳七等に叙し瑞寶章を賜はる、君が嘗に良村長として才識手腕共に其人物の郡中に傑出せるのみならず資性温厚にして謙讓の美風を深へ素行端正、身を持す極めて儉素、加ふるに博愛慈仁の念最も厚く常に隱徳を積むに怠らず、眞に名利の爭奪を事とせざる今の世君の如き恭謙直亮にして仁厚の士、果して幾人かある、誠に異數の人とならず。

**江上尋常高等小學校** 本校は明治七年十一月の創立にして當時松島小學校と云ふ、後差方小學校と改稱せられ更に江上小學校と改め同十九年更に江上尋常小學校に改稱、同二十五年江上尋常小學校に改められ同四十一年義務教育の年限延長せらるるや高等科を附設して江上尋常高等小學校と改稱す、當時吉井卯重校長たり、大正三年同氏退職するや現校長織田與市其後を襲ひ校長に任じ現職に在り、現校舎は明治四十一年の新築に成り其敷地總面積八百十八坪、建坪百八十七坪餘あり現在兒童尋男女三百四十人餘、高男女四十七人、擔任教師八人なり、現校長には織田與市君あり。

**喜多川榮治君** 世運の趨勢を洞見して自治政の樞機に參し國家民生の權義を主張し地方公共の福利を圖り什麼營々數星霜に涉り着々革新改善の途を講じ其實を擧げ功を奏し其名を遂げて夙に聲望を博するもの即ち喜多川君其人なり、君は江上村の人、地方屈指の素封名門に生れ夙に郷黨の推尊を受く、君幼より穎才を以て稱せられ大村玖島學館に學び次で久しく東都に學し歸郷するや既に頭角を郷黨の上に卓出せり、其志す所公利民福を以てし早くも村要路の職に擧げられ大に成すところあり、所謂梅檀は二葉にして薫しく寸蛇人を呑むの慨あり、君が超俗の天稟は常に衆人の意表に立ち名望閭閻に轟き遂に郡會議員を経て明治四十四年縣會議員副議長の榮職に昇り縣政の



履単に力の小壯雄辯家として侃諤の論議情量に重んぜられ野に在りては躬行卒先地方經濟界に盡瘁し現に針尾島貯金株式會社(資本金二十五萬圓)社長として地方一般の金融を圓滑ならしめ殖産興業の實を擧ぐ、君人爲りや着實にして穩健風采厚寛而も義氣仁俠の氣魄常に溢れて慈情滾々として滴らんとす其德行亦尠ならず、嗚呼君が前途は頗る多し、將來益々發展雄飛するは斷じて疑はざる處あるも當代好個の模範紳士となられんことを。

**喜多川 甫君** 由來富裕の家に生れ人となるもの多くは放縱逸惰祖宗の膏血に成る貴重の資財を蕩盡し其極終に家を破り産を失するにあらずんば即ち鄙吝陋劣極りなく徒らに父祖の遺財を固守して利用厚生の道を知らず殖産興業の策を立てず一意守錢の賤奴に終る、獨り喜多川甫君地方門閥の家に生れ能く其産を運用し鄙吝に失せず陋劣に流れず汎く眼を財界の消長變移の上に注ぎ専ら心を地方公同の上に致し地方金融の利便を考へ針尾島貯金株式會社の創立に際しては卒先大株主となり斡旋盡力するところあり、衆望寄して取締役に擧げられ斯界の進歩發達に盡力す、亦君は地方公職の信任最も深く常に樞要の地位に重用せられ村民福の上に盡瘁して幾多の功績を擧げたるは世人の皆能く知る處あり、資性温良にして寛裕、而かも公共慈善の爲め義捐せしこと殆んど屈指すべからずと聞く、眞に當世多からざるの人物たり、希くば君の前途の益々多幸ならんことを爾云。

**吉井 卯吉君** 資性温厚にして敦朴宏量なり其言行往々龜鑑とすべきもの多し其人に接する温和懇切婦女子無識の者と雖其言ふ所を盡さしむ、其人を愛する親疎を以て輕重せず唯だ理に通ずるものを最も愛し理に違ふものを愛せず其の公務の爲めに事を執るや叮嚀周密毫厘も假借せず公共の爲めには自己の用務を擲つも之を盡されば止まず其爲す處公私の別を明らかにして悉く理に背戻することなし君が嘗に江上郵便局長としての適材たるのみならず本郡模範の人材たり、地方人の君に禮を厚くする所以ありと云ふべし。

**民福 虎市君** 川棚 尋常小學校訓導兼校長にして熱心職務に精勵し功勞あり資性温厚淳朴居常偏幅を飾らず常に思潮の變遷を洞見して新時代に後れざらん事を努めて己ます従つて生徒及父兄の信頼厚し。

**大和田野 幸治君** 折尾瀬尋常高等小學校長にして終始一貫よく育英の爲めに力を致せり性沈着にして秀才を以て開ゆ加之郡内熱心なる教育家として令聞あり日夜校紀の嚴肅と教育の發達に心を潜む。

**辻 淺太郎君** 現任宮村尋常高等小學校長にして明治三十七年以來育英の爲めに没頭し功あり、君明治十三年生、資性温厚頭腦明晰なり、本郡教育家に名聲高し。

**中尾 榮太郎君** 資性温厚篤實にして態度悠揚人格高尚なり其人に接する城府を設けず功して驕誇の風に染まらず一意専心育英の事に力を竭す是れ即ち君が本郡教育界に名聲高く世人の信頼厚き所以なり尙君が功績に就ては叙すべきもの多々あり然りと雖君元來恭謙其の功を語るを厭ふ依て記者は茲に擲筆す。



## 西彼杵郡

### 福圓寺

(真言宗香焼村に在り)弘法大師初開之道場にして延暦二十三年の開創なり、大師入唐の際難風に遇ひ本島に避難せられて護法諸天の神祇に祈誓して曰く若し吾れ無恙入唐求法の素願を遂げ歸朝の上は最初此の地に於て所傳の法を修す可しと誓ひ玉、依て大同元年歸朝の時再び當山に來て真言護摩の密法を修する事一萬座其香氣崖窟に留て去らず故に此の山を香山と云ふ、開創以來八百七十年間を経て延寶甲寅の年舊領主鍋島志摩守茂春公の歸依に依り賢外和尚を請して改めて曹洞宗となす、往年火災の爲め什寶過半を焼失せり今存する者は大師の袈裟奥之院御眞體辨財天葦駄天尊像等は皆御自作なり御眞筆の般若心經山門の額岩石に刻し有る雲巖石、金剛窟、不動岩、鏡巖、伽藍石、喝碎巖等は皆な山中岩石に散見する處なり其他曹洞宗以來の緣紀什寶等數多ありと雖も今は繁を恐れて省略す、現住職木下達玄あり信仰熱烈の人にして同宗界に於ける傑出の人物たり眞に凡俗を超越せるの感あらしむ。

### 觀音寺

(曹洞宗脇岬村に在り)行基菩薩人皇第四十三代光明天皇の御宇和銅二年一字の堂を創建ありて數ヶ所の寺院を置き南の濱邊に大門を構へ十王堂仁王門等立ならびて誠に伽藍具足の勝地なりき今は空しく跡のみ存せり本尊は大悲千手十面觀世音菩薩御長八尺の立像なり地藏菩薩は四天王十六羅漢等皆行基菩薩の御自作にして肥後國宇土郡に一架の橋あり夜々光を放ち往來の人を惱す諸人恐懼すること甚だしく時の人は是れを殺生橋と名く或時行基彼の地に至り斯る奇怪のことを聞き惘然に思召し其橋木を七ツにきり海中に放つ則ち此の橋木漂流する所に於て七軀の觀音の像を刻み惡縁をして善縁とならしめしと誓ひ給ひしに果して彼の橋木七ヶ所の浦々に漂流す則ち當

所は此の七觀音中の一なり一刀三拜の調彫にして靈驗効能甚だ多く七觀音中佛鉢最もなり、當山現住職には松永道麟師あり師は性質温良淳朴にして宗教の眞意に徹底し熱烈なる信仰を有す師が時代の布教は同宗精神界の重鎮たり  
**山本袈裟太郎君** 誠實至篤にして謙謙抑遜博愛仁慈にして寛容宏量の士山本君其人なりとす、君は明治四十五年二月蚊焼村々醫として居を其郷に占め醫術を開業す、明治十年四月を以て東彼杵郡彼杵村に生れし人なり、君は學術共に造詣する處深く郡内刀圭界中敏腕家として名望甚だ高し。

**山下幸三君** 來世氣運の趨向を看破し眼を國家公同の計に注ぎ事々物々社會に率先者となりて勞碎至らざるなく卓偉の功績を奏し令名閩郡に洽博せらるるもの君の如きは實に異數なり、君が功績中特擧すべきは香焼村を獨立せしめたること是れなり、初め君は香焼總代として深堀村政に關與せしも斯くては部落民の永久不利不便宜ならざるを看破し同志と共に分離を計畫し奔走盡瘁の結果遂に一村の獨立を享有するに至れり斯くて第一期名譽村長として創設の難關に當り百事整理するに及び後進に譲りて圓滿に退任せり、而かも絶へず村會議員郡會議員其他の公職に従ひ専ら村民福に盡さん志は始終渝らざりき、更に特記すべきはコークス製造業に腐心し大決心と大資本とを以て其工場を設置し其輸入を防がんご苦心せり而して堅忍不撓の結果は今や一箇年の産額優に三十萬圓に達せり、尙孜孜として研究を怠らず縣下有數の實業家にして徳望信用共に兼備せり、眞に偉なりと云ふべし。

**小川源次郎君** 君は樺島村の人現代的奮闘兒なり青年期に於て教育界に盡し後自村々長を拜命し地方繁榮策に腐心す、大正四年八月職を辭して水産業を營み専ら斯業の發達を圖り推されて自村新町海産物製造同業組合長となり又樺島、野母、脇岬三ヶ村海産物聯合組合長として盡碎貢獻する所あり常に斯界の重鎮として敬仰せらる、家には海産物販賣業及大阪商船、深川汽船の代辨店並に海産物委託問屋を營み日々隆昌に向ひつゝあり。



森 喜三郎君 樺島村の重鎮にして此の人ありと知られたる君は佐賀縣の出身なり夙に自治に與り村會議員、名譽村長、郡會議員等の譽職に擧げられ公共事に盡瘁すること頗る熱心にして功績顯著なり、目下漁業組合長、學務員、縣水産組合聯合會代表者たり。

藏 德 寺 淨土宗野母村に在り……元龜二年公春座元法印の建立にして定譽上人を開基とす、爾來幾多の星霜を経て堂宇興廢寛政四年十五世示道和尚の代に至り本堂の再建あり、十六世天山和尚の代庫裡再建並に本尊宮殿兩大師宮殿の新設、十七世鷺山和尚の代鐘樓堂再建、十八世勇全和尚代宮殿修繕、十九世實圓和尚本堂屋根修繕、二十世勇承和尚の代庫裡再建、本堂屋根修繕、本尊宮殿の大修繕等あり勇承和尚は天保十三年正月二日長崎市に出生し樺島村無量寺住職三譽上人に就て得度し芝増上寺に學を修め慶應三年當時の長崎代官より藏德寺住職を推任せられ同三月二十一日齡廿五歳を以て當山に入り住職となれり、爾來宗界の爲め貢獻する處多く總本山よりは同宗出色の人物として信任厚く明治四十一年九月權大僧都に任せられ、大正五年二月十七日入寂、現住職には林田勇惠師あり、師は勇承和尚の長男にして明治七年の出生なり大正五年六月權少僧都に叙せられ大正五年七月藏德寺住職を拜命せり、資性温厚法務に熱心にして檀徒の信頼最も深し。

山本仙吉君 富者にして其家を維持せんとす是れ決して容易の事にあらざるも貧者にして一家を起すに至りては一層困難なるものなくんばあらず而かも此の難事を成就して兄弟相共に苦心慘憺の運命を開拓して功を朝鮮統營郡蛇梁島に立て兄弟相睦しく水産業に躍如たるもの山本仙吉君兄弟なり、山本君は野母村の人嚴父柴原福太郎の次男に生れ後山本家の嗣子なる君貧窶苦楚の逆境より身を起し辛酸酷苦馳驅奔走焦心苦慮あらゆる勞苦を嘗め盡し能く其艱難に耐へ終に柴原兄弟商會を起し今日の盛運と信用を贏ち得るに至る、豈一朝の故ならんや、嗚呼君が

半面の苦心談を窺へば決して世の成功者なるものと容易ならざることを了得せしむ、誠に現時適當の成功を夢想しつゝある輕薄才子の青年に對し一大箴言無二の好模範たり。

山口愛三君 西彼杵郡野母村熊野神社、日山神社、金比良神社、稻倉魂神社の社掌にして敬神の念厚く熱心社務を執り氏子の信頼深し性温厚篤實なり常に地方の模範たり。

三嶋源太郎君 野母村の奮闘兒にして野母沃度工場工主たり君資性活達、清廉潔白、精悍にして機略あり常に四圍の形勢に鑑み劃策する所あり今や日々隆盛に赴く前途有望の實業家を以て目せらる君が將來刮目に値す。

萩原時太郎君 明治六年十二月福田村に生る夙に雄志あり明治廿七年長崎商業學校を卒業す、時恰も日清の風雲急を告げ遂に平和破るゝに及び君は佐世保に於ひて海軍の用達商をなし大に貢獻する處あり其局を結ぶや長崎税關吏に任じ其職に盡す七星霜、奮然支那朝鮮を視察し歸朝後長崎縣樟腦專賣局に奉職す其間劃策する處あり二ケ年にして職を辭し躍進朝鮮に至り鋼網を以て水産業に活躍し大に利する處あり、歸朝長崎市飽浦に居を構へ質屋を開業す、今は郷里福田村に住し悠々家政を修め熱心地方公共事に盡瘁す、君尙前途深く元氣旺盛性格良善なり。

石本吉右衛門君 君は主義を奮闘に定め勤儉を以て家憲とし躬行實踐の一本鎗を振り翳して日進繁劇の社會に立ち苦役勞務に惡戦苦闘する事久しく耐忍不屈塞々として克く努め遂に今日の信用を得るに至れり君が今日の資産の如き悉く心苦の餘財にして未だ曾て煩を他に及ばざりしは以て君が如何に奮闘心に富むかの一般を窺ふに足れり而も温厚の性を有し慈善公共に富む、齡正に七十二元氣尙旺なり、亦欣すべき哉。

正 林 寺 (眞宗大谷派)三重村に在り現住職を松林と云ふ、師は資性温厚態度亦謹嚴にして人をして襟を正ふせしむ常に讀書に親しみ佛典に涉獵し學殖の富贍なる人格の崇高なる同宗界出色の人物にして眞に宇宙の眞



理に徹底し熱烈なる信仰を有せり、師が道德堅固にして學識の深遠なるも時代の布教相俟つて親覺傳道の目的を達しつゝあり吾人は近き將來に於て必ずや師が其人格と民衆の歸依渴仰とは地方思想界を支配するに足るものあるを信じて疑はず。

**岩 繼 松 君** 三重村の人、少壯志して商業を營み漸次進運して店舗を開き吳服類並に日用品を以て經營せり、君は商務に熱心にして經驗深く而かも顧客に對し着實なるより店頭常に殷盛を極め商運益々發展しつゝあり、君資性温厚にして頗る元氣に富む今や齡六十八未だ一度も醫藥を服せしことなしと云ふ君平素村治に趣を有し爰に至る十五ヶ年間一日の如く村會議員として村治に盡瘁變らざるが如きは眞に好模範として推稱するに足れり。

**無 量 寺** (淨土宗) 樺島村に在り現住職は土橋圓祥師と云ふ信仰の熱烈なるものありて檀徒の信頼厚く誠心法務に没頭せり。

**石井重市君** 樺島村郵便局長にして傍ら村公共事に盡瘁して威望あり資性温厚通信事務に當る最も適任なり君が事務的才腕は其の處理する所明快流るゝが如し。

**平野福松君** 樺島村屈指の資産家にして海産業を營む、嚴父重太郎の長男にして明治十五年十一月を以て生る、君は幼より實業に志し商才敏にして弱氣に富む、人となり資性温良衆と和し仁俠なり常に地方繁榮策に盡瘁し曾て村會議員、村水産製造組合副會長たりしことあり現に同組合理事たり亦日露の役に功あり勳八等を賜ふ。

**岩 永 林 作 君** 着實温厚の刀圭家として夙に其名を博せる君は累代醫界の貢獻者にして作林に至る數代の醫なりと君幼より伶俐賢明にして學を好み才智衆童に過ぐ、偉なる哉君は明治二十年福岡甲種醫學校を肄業凌ぐの成績を以て卒業す君茲に見る處あり進んで神戸東京に於て各大家に付専修する事二ヶ年業大に成つて歸郷し郷里面高

に開業す、果せる哉君が學識技術と經驗を重ねし結果は所謂影の明鏡に映するが如く物を箱中に見るが如く能く其病源を看破し其條得せる治術を施せるが故に治績著しく此の故に家政益々揚り業務愈隆盛に鞅掌せり、齡五十四氣力旺盛醫業の傍ら地方公共事に盡瘁す。

**加 瀬 忠 一 君** 郡中第一流の刀圭家にして面高村天久保に醫術開業し聲望高く夙に郷黨の推尊を受けつゝある君は資性磊落にして活潑積科研練せる經驗と敏腕を揮ひ一視同仁病客に接する懇到盡せるを以て嶄新偉名を醫流界に博し今や地方一流の刀圭家として聲譽噴々たり君が衆庶の信頼厚き寔に所以ある哉。

**吉田寅太郎君** 舉世滔々として黃白の爲めに出頭没頭しつゝある間に於て獨り巍然として醫の本領の發揮しつゝあるものは面高村の開業醫吉田寅太郎君是れなり君は醫は仁術たる所以を解し實際に是を體して患者に接す亦學殖富贍手腕研練郡中の一異彩なり。

**久松永左衛門君** 聰明英智にして公共心に富み能く勉め業を起し能く衆を恤み名望閩郡に高きもの蓋し吉田君其の人なり、家は地方稀れに見る舊家にして寅太郎君に至る十代、二百年を繼續せり、君郡内屈指の資産を擁し博愛にして濟生の道に盡し地方公同の利益を圖るに汲々たり其他公務に關しては嚮に郡會議員、村學務員、漁業組合委員に推され現に明治二十二年以來の村會議員として其職に在り常に地方重鎮を以て目せらる、亦偉なる哉。

**廣瀬六平君** 中學校卒業後嚴父廣瀬謹一の後を襲職して神の浦郵便局長に任じ現今に至る傍ら學務員信用購買組合長兼理事として村公共に力らむ亦在郷軍人會神の浦分會長に擧げられ在郷軍人の指導に任ず家は世々屈指の農家にして資産名望あり。

**本田隆一君** 累代醫を以て繼承し來る其家に生れ博愛仁術を施し救世濟民を以て聲望隆々たる本田隆一君



其人なり、君幼にして敏才あり、暫時郷里を出で醫術の勤學怠らず、漸次進んで長崎醫學專門學校に學び、精勵勤學、雪の効空しからず、天晴れ成績衆を抜き卒業さるや、郷里神の浦村に開業す、爾來業に勉勵診療に勵み懇切周到なるを以て、業務日々繁盛、方今患者絶ゆることなく、地方名醫として聲望噴々たり。

#### 村島喜市君

天資清秀にして才德兼備、志操堅實、抑遜恭謙の士之れを、村島喜平君となす。君西彼杵郡神の浦に居住し、世々農を以て業とす。君幼にして聰明夙に青雲に志し、長崎師範學校に入學せしも、不幸病魔の塞架する所あり、郷里に靜養の故を以て中途退學し、療養怠らず、瘥癒するや、事情家政を修めざるべからざるに至り、牙籌を埒り、家政を修め、至誠の孝道を盡し、一身を犠牲として終生子弟の教養に盡さむと、明治二十一年十月、小學校教師を奉職し、爾來二十有餘年、其職に盡す而かも其間一日の欠勤なきは如何に、君が其職を重んずるの厚きを知るに足れり、即ち君が長崎縣知事より表彰せられ、二回の賞與金を得たるは其功茲に存す、亦郡當局は君が伊王島學校在學中、毎年金十圓以下の慰勞金を贈與して其功を賞せり、亦自村よりは木盃一組を賜ふ、近時職を辭し、専ら自村青年の指導に當り、風俗の矯正、産業奨励等に力を竭す、眞に君は後進青年の龜鑑として、其一舉一投足は後進の模範たり。

#### 渡邊長吉君

豪氣堂々たる快男子、渡邊長吉君の家は地方有數の門閥にして、亦有數の資産家なり、君は式見村人、嘉永三年釋迦降誕日を以て其家に吼々の聲を揚げり、君幼より穎悟郡童に異なり、嬉戲も徒らにせず、長ずるに従ひ、二葉の梅檀は次第に香し、頭腦明敏、爲人高潔なる理想と遠大の抱負を以て夙に志を政治に傾け、國家公共の福利を増進するに渾身の精力を竭し、名聲噴々庶民の輿望を負ふこと、君の如きは蓋し罕れなり、君若冠より公事に奔走し、既往幾多の公職に累選せらる、即ち君が戸長時代より相次ぎて今日に至る、自村々長、明治二十二年町制以來の村會議員、學務員、明治三十年には郡會議員、長崎縣々會議員に當選し、現に縣會議員、縣參事會員たり、其外公私の譽職に

關係を有せざることなし、而して君が侃々諤々の議と懸河の辯とは、長崎縣會花形役者として最も珍とすべく、厚く情生重せられ、衆を伏し、曾て一日も國利民福を忘るゝ事なし、君資性温厚にして博愛仁慈、日露日清の兩戰役に際しては、卒先軍資金獻納又國債募集に應じ、東西奔走して出征軍人の遺族救護に力らめ、或は海軍協會の舉を賛して、義勇艦隊建設基金を醸出す、其他天災地變苟くも事ありて、民人の窮するあれば必ず救濟資金を捐するを例とせり、尙ほ君の家は代々敬神尊佛を以て其名を知らる、君も亦所謂思ひ内にあれば色外に表はるゝと云ふ諺に漏れず、神社佛閣に獻金する事頗る多し、實に特殊の善行と稱すべし、古聖は曰へり、徳不孤必有隣、積善の家には餘慶ありと、夫れ君の家の如き君が篤行の如きを謂ふ乎、而かも齡耳順に近く、尙饒強壯者を凌ぐの觀あり、尊重仰瞻するに吝ならんや。

#### 磯利左衛門君

地方に其名を博しつゝある銘酒いろは、と云へば云はずして之れが醸造家は磯利左衛門君なることを知るに足る、抑も君の家業は嚴父の代、明治五年に創業せられ、君の代に至りて益々其業を擴張し、拮据經營氣血を盡して終に絶代稀有の銘酒いろはを醸造し、世人の賞賛を受く、其賣行大なるに隨て其利潤少々ならず、此の故に銘酒「いろは」は其家を富まし大に家政を張るに至れり、君資性温良篤實に富んで驕誇の風に染ます常身に身は劇務に處するも亦地方公共事に盡瘁せし功勞不尠、現時村會議員、學務員、社寺總代、皆ては漁業組合幹事を務む、君正齡六十九元氣旺盛なり。

#### 八幡神社

(村社) 高濱村字濱添郷に在り、祭社は應神天皇、仲哀天皇、神皇合宮、其外六神を合祀せり、元禄六年癸酉八月廿二日の創建にして、明治七年五月村社に格す、現社掌に三浦丈太郎君あり。

#### 猪股矩一君

村松村の人、明治卅年自村書記に任じ、同四十年助役に進み、大正四年村長に推選せられ、現職に没頭す、村農會長、漁業組合長、村購買販賣信用組合理事を兼任す、君資性率直果斷にして、村治の造詣深く、其抱負少



からず日夜其職に參劄す將來刮目に値す。

**高嶋倉三郎君** 資性堅實にして磊落宏量なり其言行往々龜鑑とすべきもの多し其人に接する温和懇切婦女子無識の者と雖も其言ふ所を盡さしむ其人と交はる親疏を以て輕重せず唯だ理に通ずるものを最も愛し理に通せざるを愛せず其職の爲に事を執るや叮嚀周密毫も假借せず公共の爲めには自己の用務を擲つも之を盡さざれば止まず其爲す處公私の別を明らかにして悉く理に背戻することなし、亦君は嘗に黒瀬村郵便局長としての適材たるのみならず君が一度約束せし事は如何なる事情の存在するも必ず之を履行せずんば止やまざるの美風ありて今や世は輕薄才子に愚俗の徒輩出する現世に於て君の如きの人ある真に砂中に珠玉を拾ひ得たるの感あらしむ。

**泉谷富十君** 君は萬延元年瀬戸村に生る、人となり天資温良思慮緻密而して美く謀り克く斷ず、殊に義氣に富み哀憐の情篤く世の薄命者を憐む厚し、常に郷區長、村會議員等の公職に選ばれ衆民の指導に努め公共の福利を増進することに盡力せり、亦君は平素他力門に入りて信仰熱烈なるものあり念佛勤行怠らず、記者は其信仰が如何に君の精神上に力を副ゆるものあるかを恐ばしむると共に君が家庭に團樂の和風充滿せるを欽羨す、真に模範の人物たり。

**楠本丹次郎君** 君は明治九年十一月三日を以て瀬戸村に生る、幼にして伶俐、長じて家業に精勵し其範を郷黨に垂る、明治三十七年村會議員に推選せられ大正六年末に至る真に十四ヶ年村治に貢獻し近時自村青年會榿の浦支部長として村内子弟の風紀改善に盡し村内信望あり。

**麻生喜四郎君** 天資清秀にして才德兼備技術秀ひて志操堅實にして清淡高潔の士之れを雪ノ浦村の人麻生喜四郎君とす君は志を起死回生に立て學業成るや初めに北海道釧路公立病院に奉し各醫術の蘊奥を極め其道を鍊磨す

る事茲に約十ヶ年、歸縣して東彼岸郡川棚村に聘せられて、醫術を開業し地方名醫として名聲を博し三十八年故山に歸り我が家に開業せり、爾來診を乞ふもの日夜踵を絶たず頗る隆昌を致せり、尙公務に關しては常に地方公職の要路に在り郷黨の尊敬亦以て深し。

**須山廣海君** 君は黒瀬村の出生にして夙に醫學に志し中學を卒へ長崎醫學專門學校に學ぶ、學業成り明治四十二年郷里黒瀬村に開業し大正元年崎戸村現地に開業せり、爾來地方人の信賴厚く熱心其職に執掌す、現に學校醫、警察醫を囑託せらる、君前途頗る多し將來刮目に値す。

**中島甚兵衛君** 明治十二年佐賀縣唐津町に生る、嚴父の代は吳服商を營めり君も亦幼時是れを見習ふ爲人膽大にして豪氣あり冠弱にして暢天の意氣は小事に鯁齷するを潔しとせず慨然出郷して崎戸炭坑の將來發展を看破し君は茲に猛進決行崎戸村に移住す、爾來君は土地開拓を劃策し固執忍耐不撓の勇を揮つて其業に衝り十數星霜の間漸次其歩武を進め近時大成に近づけり、君資性温恭洵に活潑雪の如き資を備へ公共心厚く博愛慈善にして細民を救濟せし事多し、吾人は君を以て崎戸村福利増進の一大恩人として將た又世の好模範として推稱するに躊躇せざるなり。

**小須賀説二君** 想ふに近時俊傑英才を以て稱せらるゝもの皆な初等教育の校門を出でざるなし然れば初等教育の大切なるは今更贅言を要せざるところなるも其職にあるもの須らく人物作製を以て任せざるべからず、於爰其職に任する者の品性如何に俟つもの多きを憶はば範を小須賀君に探る、小須賀説二君は北松浦郡の人、家代々舊平戸藩に任へ地方屈指の門閥なり君は明治四年を以て其家に吼々の聲を擧ぐ、幼にして穎悟其郷校に學ぶや常に成績優等年少にして老成人を壓したり、夙に育英に志し明治二十六年長崎縣立師範學校を卒業するや優に先輩を凌ぎ北



松今福尋常高等小學校に教鞭を執り間もなく南高口ノ津高等小學校長に昇進す、爾來北松志佐高等小學校を経て同四十二年西彼杵郡矢上尋常高等小學校校長兼同村立農業補習學校長として榮轉し現職に在り、君が此の間人物作製てう偉大なる抱負を以て身自から守り兒童の薰陶に努むること茲に二十五ヶ年其功績顯著なり即ち大正六年二月長崎縣知事より選奨せられしも依爰乎、其他賞給せられしこと實に十九回に及びべし想ふに吾人は君が如何に其職に誠實熱心なるかを知ると共に本縣育英界の色彩を以て誇るに足る、君資性温厚沈着人をして欽慕せしむるの性美を存す敬すべし愛すべき哉。

**金子徳治君** 少壯育英家にして色彩ある君は明治二十二年九月一日を以て生れ風に英明の資を抱き明治四十四年長崎師範學校本科第二部を卒業同年四月東彼杵郡早岐尋常高等小學校訓導を拜命大正二年五月西彼杵郡瀬戸尋高に轉任し同年七月松島尋高訓導に任せり君資性温厚聰明にして春秋に富み少壯敏腕の教育家として矚目せらる**勝谷徳市君** 温容最も宏量治財の道に明るく進んで公共に盡瘁するもの君の如きは罕なり君は松島村金之浦の人明治元年六月を以て郷里に生る爲人頭腦明敏村収入役たること二十一年傍村學務員郡會議員として公事に貢獻あり資性博愛仁慈濟生の道に盡し郷黨の尊敬頗る厚し。

**石橋庭藏君** 明治十八年五月四日を以て南高來郡布津村に生る、君幼時より伶俐にして學を好む其郷校に在る常に群童の上にあり以爰自村自方家前川端人、原菊治の二氏に深く愛せられ育英會の選拔を受け長崎縣師範學校に入學す、同四十二年三月業を卒へ直に茂木尋高訓導就任、爾來面高尋高、神の浦尋高等に教鞭を執り大正四年三月川平尋校々長に任じ大正六年西浦上尋常高等小學校校長兼同實業補習學校長として榮轉せり、君資性温厚にして明敏、銳意熱心其職に没頭す、君春秋極めて多し將來功績を顯すや必す。

**榮田清記君** 拮据黽勉二十數星霜教育界に身を委ね功績赫々として衆民其徳を敬慕し風に令名遠近に傳唱せらるるもの浦上山里尋常高等小學校校長榮田清記君なり、抑々君は資性温厚着實明敏態度悠揚人格高尚にして洵に絶好の教育家たり、況んや君明治二十五年長崎縣師範學校を卒業して今日に至るの功績は現に歴として各地に顯如たれり、君が數度に亘り縣當局より表彰せられたる所以なりと云ふべし。

**山崎友市君** 醫は仁術なりと云ふ諺は容易に稱ひ易くして行へ難し心に貪念を懷き表に慈惠を飾つて裏直に陰險の策を施さんとする澆李の世獨り瀬戸村山崎友市君の如きは難得人傑乎、君は地方醫界の明星にして内科眼科を専門とす、醫術は内外科共に長ずる所殊に内科、耳鼻咽喉科、眼科に至りては精熟達練蘊奧を極め其精妙扁鵲の術を得たりと云ふべし而かも患者に接する親切懇到、病根を診する周密巨細、貧者に對する博愛仁慈、公利民福に盡す頗る熱誠、此の故に地方衆民の君が其徳を仰がざるものなし爰を以て大正三年二月終に文部大臣に選奨せらる亦同年長崎縣知事の表彰を受け金百五十拾圓を賜ふ、理に瀬戸小學校醫、同學務員、同村會議員、瀬戸銀行頭取、西彼杵郡電氣株式會社社長として郷黨の欽慕を受く、殊に君が教育の普及、校衛生の改善、就學兒童の奨励、學校基本財産蓄積、青年の指導、村風教の改善等に盡瘁せし美談多きも事繁累に屬するを以て稿を本書次篇に譲る。

**松尾山無量院** 茂木村にあり今を去る二百七八十年の建立にして開山は山輪寶理讚上人と云ひ現住職は第二十世に當り松田大定と云ふ同寺に有名の觀音堂あり風景妙佳觀月佳絶の稱あり。

**森崎兼次郎君** 茂木郵便局長にして前途春秋多く事務的才幹の稱あり、明治二十九年生。

**伊達木憲章君** 茂木尋常高等小學校長にして長崎縣諫早の出生なり大正六年十月天長佳節の日を卜し茂木村より滿二十年に亘る薰陶宜しき功を表彰せられ錫製大花瓶を贈與せられたるが如きは君が平素の一斑を知るに足る



性温厚篤實なり、君明治六年三月十一日生。

**城島元治君** 伊木力尋常高等小學校長にして佐賀市水ヶ江町の出生なり郡内熱心なる教育家として聲望高く學識素養人格を有す、君亦剣道を愛し博覧の稱あり自費を以て剣具を購求し兒童に剣道を課して生徒の心身鍛練に供せり、是れを以て長崎縣郡部各學校を通じ剣道を課するの嚆矢なり。

**淨惠寺** 眞宗大谷派、境地高燥にして清淨の位地に在り現住職は浦瀧智證と云ふ師は本郡七ツ釜西福寺知証の二男にして明治三十二年淨惠寺住職となれり師來住以來寺院の面目革まりたるのみならず師が徹底せる熱烈なる信仰と布教善導とは相俟つて漸次光明の縁に催ふさざるもの多く島内親鸞傳道の目的を達したるの感あり而かも師は人情徳義の半面を解し上求菩薩下化衆生の聖意を體得して其天職を完ふするの外眼中に何物もなく日夜教養に努むると共に自から奉ずること極めて薄く物質的慾求に淡にして平素隱徳を積むに怠らず誠に世の財慾のみに汲々として自己天職を忘れ日夜煩惱の犬に苦められつゝあるものに比し徑底夫れ幾干ぞや吾人は茲に師に向つて大なる尊敬を奉ずるものなり。

**小宮彌一君** 宏量寛大見識卓絶郷黨の尊愛を受け相犯すべからず相親しむべき正容自然の品性と相伴ふて身邊一異彩を放ち常に勤勉力行を以て其分となし多年公私の事に相勞するも毫も倦色あるを見ず積年の勤勉其天職を全ふし聲望隆々たるもの即ち君なり、君は幼時行商人より起り故ありて平島に住し自己の業務を隆昌ならしめたるのみならず平島村(前村長某氏平島村の人時代の)悪政惡風を根底よりの改革に努め現村長(長崎市の人縣會議員にして明識あり)を迎へて大ひに其刷新を圖り公利民福に努めたり、其他學校の新築擴張を謀りて學を督勵する外村漁業組合を組織して村漁業の發達に備へ自から組合長となりて是れが指導者に任じ亦勤儉貯蓄を勵めて不慮の難

に備へしめ或は郡治に參與して其務に盡瘁する等數へ來れば枚擧に遑あらず現に村會議員、學務員、平島郵便局長郡會議員、漁業組合長たり君天資聰明豁達而して機に臨み變に應ずるの才略に富み其一言一行凡て人の意表に出づ此の故に衆庶其徳に感し其明に服し之れを敬し之れを敬すること渴者の水を望むが如し加之君は猶大ひに春秋あり獨り平島村の爲めに盡すに止まらずして將來一大發展を爲すの日あるを記者は疑はざるなり。

**浦喜三郎君** 眞實に苦界を脱し眞實の樂境を望まば先づ心身を勞せざるべからず心身の勞に伴ふ大苦痛大苦惱の一變しては大歡喜となり吾人が大心配大煩悶より來る安神は亦從て大なり苟も空想によりて一時の苦痛を忘るゝは尙酒を藉つて苦を忘るゝが如し、忍耐苦惱は成功の關鍵なりと、宜なる哉浦喜三郎君の經歷に徴して之を見る君は平島の人明治十三年の出生なり家代々農業を營みしも其日の生活をなすに過ぎざるのみ而かも十五才の幼童にして慈父を喪ひ波瀾怒濤は前に迫る、而して此の美少年毫も沈淪するなく奮然家崩榮凋に志し十七才にして家を脱し、人夫、番頭、手代に彷徨しつゝ諸有艱難辛苦を嘗むること數年歸郷して菓子製造兼雜貨商を經營するや君が多年に浮世の怒濤に掉さして辛苦の何たるを知り夙に人生の眞味を了知したるだけ雖乎不拔の信念は精勵努力晝夜兼行の上に築かれ忍耐と勇氣とを以て經營の難を飛び之を屠り盡して歩一步家運隆昌に向へり、近時公共に留意して村會議員に選拔せらるゝ三期、又學務員、村漁業組合幹事を勤む、眞に後進發奮の模範たり、君益々將來大成を期せよ。

**林鐵太郎君** 平島村収入役を勤め多年平島村の爲めに貢獻する所多く村内信仰あり現に村會議員を兼務す又平島村漁業組合監事たり君資性温厚格動頗る進取の氣象に富み事務的才幹を有す亦勤儉貯蓄を實踐行して範を郷黨に示す、君は曾て近隣よりの出火に類焼し家産悉く焼失せしことあり時に君は憂訪する人に答へて、曰く「既に



焼けたる家を如何せん既に焼けたる家に心を憐れんより専心一意に己が職務に心を注がんと云ふ以て平素の君を想望するに足らずや近時村民の信用措かざるもの所以ありと云ふべし。

**林 勝次君** 性温厚篤實にして民衆の愛慕を受けつゝあるは君なり君は郡内崎戸村の人慶應三年の出生なり夙に平島村に移住し農漁に勵み傍ら村公共事に盡瘁す明治三十二年村會議員に推せられ現に其職に在り亦佛教に歸依し運ばれて寺總代を勤む。

**故鳥山文藏君** 氏が在世中村公共の爲め盡したる功績不尠、現に江の島村民融合同内和平にして勤儉貯蓄の美風を存じ納税の義務を理解して滞納者なきが如きは氏が多年村収入役亦は助役としての功績より出づる影洩に外ならず、亦郡會議員、村會議員、江の島郵便局長として常に地方公共の爲めに微軀を投じ公利民福を主張して舊來の弊風を艾除したるが如きは人の悉知する所にして其名望は夙に閩郡に洽博せられたり、誠に氏は後顧の模範を後世に垂れたる人と謂ふべし行年七十四才

**青木謙吉君** 恬淡雪の如き資を備へ夙に郷黨の敬愛淺からざる君は村内屈指の資産家にして醫を以て業とす、嚴父は青木と云ひ郡村政に參與して地方自治の釐革に樂民福の増進に盡したる人なり、君も亦醫業繁務の傍ら自村公共の爲めに盡瘁する所多し、温厚抑遜恭謙にして高風掬すべき好紳士たり。

**大江 寛君** 江島村大江寛君の家は地方屈指の名門にして光輝燦爛夙に民衆の瞻仰する所なり即ち令兄大江保君は日露戰爭中陸戰に於て特筆大書すべき重要な戰闘奉天會戰に於て皇軍第十一師團歩兵第廿二聯隊第三大隊長として馬群丹南方ターファンザ附近の敵に衝り勇奮激戦之れを攻撃し敵をして心膽を寒からしめ終に三月七日敵陣に戦死せり、抑々奉天會戰の戦勝は實に日露戰爭の終局を促進したるものにして全戦線の延長五十里に亘り我軍

は三月一日を以て大活動を開始し九日十日に渡り全軍追撃に移り十日夕刻全く我軍の占領するところとなれり、實に戦線五十里に亘り十有餘日間砲火天に震ひ威聲地を揺がしたる光景は眞に曠古の壯觀を極めたるべく又我が將士の苦戦の態も察して尙餘りあり、君も亦此の戦闘に參加して功あり、後平和克復せられて令兄保君は陸軍歩兵少佐正六位勳四等功四級を賜ひ、君は歩兵曹長功六級を贈與せらるゝ、亦令弟は歩兵大尉として軍務に恪勤せり、君現時平島村助役として村治に盡瘁し功績あり、嗚呼歎すべき哉

**山崎 仙二君** 天資聰明豁達に富んで驕誇の風に染まず人に對して城府を設けず自から謙讓を守り能く人を遇するの途を知り只管村民福の爲めに意を傾倒せる君は現時江の島村収入役を勤む、記者は君が篤行逸歴に對し記すべきもの多々あるを知ると雖も君元來恭謙其の記すべきを厭ふ故に爰に叙するを止む、諒せられよ。

**東 作右衛門君** 性温厚篤實にして能く自業に勵み傍ら村治に留意し盡瘁するところ多く村民の推重不淺常に村幾多の名譽を負ひ徳望遙かに常人の上により眞に江島村模範の一人たり。

**醫師 永田 要君** 慶應元年八月を以て生る明治二十四年第五高等中學校醫學部を卒業し翌年神浦村自宅に開業して今日に至る、夙に地方自治に參與し村會議員、學務員、學校醫、郡會議員等の公職に就き盡瘁して功績尠からず又大正二年郷里神浦村に資本金五十萬圓の殖産株式會社を創設し現に其社長に推され地方經濟界に躍如たり、亦同三年西彼電氣株式會社を發起し其實現せらるゝや同社監査役に推せらるゝ等地方屈指の勢力を有せり。

**平 島 芳 平 君** 生福岡縣の人長く東京に遊學し某醫學專門學校卒業後開業を企劃せしも感ずるところあり更に産科の大家内田醫學博士に従ひ専ら婦人科を修めたり一時長崎に在りて八坂病院に勤めしことあり當時人の勤めに從ひ現所野母村に開業せり性温厚にして村民の信頼最も厚し。



一 瀨眞太郎君 龜岳村の龜浦郵便局長にして敏腕の開へ高く熱心事務を執り上長の信望厚く懇ろに公衆に接し民衆の敬愛深し、亦暫時も憂如たるを得ざる性格なれば餘暇を以て村公事に盡瘁す。  
小佐々道次郎君 龜岳村の篤農家にして現に村會議員たり、君性温良和平にして謙讓の美風を具へ素行端正身を持するに儉素加ふるに慈善心深く公共に厚し。

網 中植松君 黒崎村網中醫院長にして名實共に地方に洽博せらる、君は醫學専門學校を卒業して更に各地の博士學士に就ひて斯學の研究を積むこと久ふし其蘊奥を究はめ其卓越せる伎倆を以て現地に開業し懇切以て患者に接するより今や地方民の信用盛んにして日夜診療に多忙を極む。  
稻松志可太君 式見村の開業醫稻松君は長崎醫學専門學校出身の秀才にして其伎倆は内外科共に郡中刀圭界に卓越せり而かも患者に對する親切なるより患者は安堵して診療を請ふを得と云へり君人に接するに更に軒輊を設けず平凡にして快活才智縦横す、眞に郡中出色の人物たるを失はず。

中島 勘作君 君は村民の信望最も厚く久しく自村役場に奉職す現に長浦村収入役たり常に村利民福を主張して獻身的其職に盡す其功顯著なり、君資性沈着頭腦明快而かも理想の發達せる常識主義の人物にして頗る社交に長じ毫も城府を設けず粉飾の臭なし而して世態人情に通じ下を恤み上を尊ぶ眞に性格良善なり、君が聲望高く世人の尊愛を受くる豈偶然ならず。

佐藤種市君 瀨川村郵便局長にして性着實温厚なり亦頭腦明晰事務的才幹あり通信事務に當る最も適任たり其處理する所未だ曾て滯滞を見たる事なし而かも虚名を博するを思はず局務の傍ら常に心を公共の上に馳せ社會人道に貢獻せしこと尠なしとせず然して氣力頗る旺盛、家庭亦和風の美あり、欽すべし愛すべし。

高 濱 村 本村には現村長に千屋孝行、助役に郡會議員三浦友造、學校長村本小次郎、端島に魚住喜太郎、端島炭坑布教師に山下無門、村會議員梅野房太郎、眞宗寺院金徳寺、神職三浦丈太郎の諸士あり、諸士は何れも自己の職責に沈忠にして共に地方精神界の重鎮たり。

高 島 村 本村々長は三軒家市太、助役に中山石峯、郵便局長前田和佐治、金松眞宗教會所布教師益永覺音氏あり諸氏は何れも村民指導の任に當り誘掖するところ多し、亦横田順一郎、中村忠次郎、中島マヌ、山田熊市の諸氏は家業に熱心にして業務日々繁盛し慈善公共に盡瘁しつゝあり。

神 浦 村 本村に於て常に人の意表に立ち地方公共の爲めに盡瘁淺からざるものを擧ぐれば廣瀬六平、戸川諸平、小畑喜代七、日字爲八、一ノ瀬兼吉、松江豊次、村島喜市、本田隆一、林琢治、宇都宮濱一の諸氏あり諸氏何れも模範人物として推輓するの價値あり。

長 與 村 法明寺住職に丹羽智靜師あり師は布教に熱心なる人にして資性温厚なり檀徒の信賴厚し。  
大 串 村 長澤承德氏は頭腦明敏手腕あり醫術の造詣最も深く地方名醫の稱あり。  
利民福に努む、郡内人物中の屈指なり。

瀨 戸 師 井手元逸氏地方の人に敬せらる、資性温直、態度沈重、醫術の造詣深く素養人格あり。

本丹次郎、肥料商山崎友市、肥料製造業今井定平、荒川嘉太郎、鐘詰製菓業志賀平藏、雜貨商西川好兵衛、醫師鈴木美徳、塚本商店、山口鶴松、平山忠次郎、佐々木忠助、須崎太郎、古賀酒場、中谷平作氏等の諸氏にして業務殷



賑願る信用を博す而して諸氏各々地方公共事に盡瘁する所多く村内有志として重視せらる。

崎戸村及松島村 村内重なる人物を列記せば松島村に郡會議員勝谷徳市、郵便局長岩松秀一、松本勝次郎、醫師岩永庄市、米穀雜貨商淵上米作、吳服商金子徳治、同古賀熊藏、藥種商雪澤金太の諸氏あり、崎戸村には醫師諸富武七、中村嘉四郎、渡木貞次郎、中島甚兵衛、古場商店、木材商樽美寛一、山下萬吉、海産物商松尾伊八郎、藥種魚網系商樽美庄太郎、山下久一郎、瀬口國太郎、肥料商吉本末藏、原口俊一、松尾福治、中村福藏の諸氏あり何れも確實なる信用の上に誠實と熱心を以て奮闘しつゝあり。

雪之浦村 開業醫佐藤寅藏、麻生喜四郎の二氏最も信用を擅にす佐藤君は一般科目の造詣氏淺からずと雖小兒科皮膚梅毒科は其長所とする所にして遠近の患治術を乞ふもの多し。

井手仙太郎君 君は誠直温良の實業家にして亦奮闘の快男子なり、常に躍如たり吾人親しく君に接せんか情交の密なるものあり其高潔なる人格は眞に敬仰に値す、君身を持する儉素而かも素行端正にして博愛慈仁の念厚く亦謙讓の美風を存す、絶好の模範人物と稱すべし。

◎西 松 浦 郡

◎東 松 浦 郡

萬明山圓通寺 臨濟宗南禪寺派にして縣下有數の巨刹なり、牧島村城山の東半腹に在り伊萬里商業學校と相對す、本堂、觀音堂、大師堂、別院、鐘樓等頗る壯嚴なり、至徳元年伊萬里城主源光三世の孫中務太夫源貞初めて當山を開き京都本山南禪寺三世直庵和尚を請して住職とす、元同村脇田にありしを後年今の地に移せり當山には四圍八十八ヶ所の設あり毎年陰曆三月二十一日遠近の信者參詣する者甚だ多し又當山に專門道場あり明治二十七年三

月前住六塔大禪師の開基にかゝる(専門道場は本寺の外九州に三ヶ所あり博多聖福寺久留米梅林寺長崎徳山寺)修業の雲僧常に二十餘名居士の參禪するもの亦四五十名に及ぶ現住職には同宗界出色の人物赤井義勇師あり。

吉富半兵衛君 方今紳士層商と稱するもの直に人物を以て目すべからず凡そ世の紳士層商と稱するもの多くは是れ權門に出入して財貨を貪り或は人の艱苦を奇貨として高利を掠め我欲に網し貧民を泣かしむるもの比々皆然り偶々敏慧奇智の士一朝風雲に會して名を天下に成すもの或は父祖餘慶の恵に浴して徒らに陶翁の富に甘んずるものに外ならざるなり、而かも多くは皆放縱逸情に流がれ祖宗の膏血に成れる貴重の資財を蕩盡し其極終に産を失ひ家を破るにあらずんば則ち鄙吝陋劣極まりなく徒らに祖父の遺田を固守して失はざらん事を務め利用厚生之道を知らず殖産興業の策を立てず一意守銭の賤奴となるに終る慨するに耐ふべけんや、個中西松浦郡伊萬里町の層商吉富半兵衛君地方有數の資産家に生れ堅操能く其遺産を保ち鄙吝に失せず陋劣に流れず儉素自から守り而かも縣下屈指の藥種商として斯學の淵奥を窮め拮据勉勵家運を振興せしむ然り而ふして一方には私財を義捐し公利民福に盡瘁する事尠ならず常に地方の名譽を双肩に荷ひ公共の爲めに盡す精神は毫も之れを厭はず、倦むことなく、怠ることなし、今や郷黨の推尊を受け亦夙に地方醫流界に愛せらる、君資性温順にして至誠信義を重じ人に接する平和懇切行爲言行一致ならざるはなし其崇高なる恰も清空に明月の繋るが如し。

岸川徳一君 伊萬里實業銀行の支配人にして春秋豊に經濟界好望の達腕家として偉名を博する君は唐津町の人なり、抑伊萬里實業銀行は大正五年四月の創業にして資本金五拾萬圓、本店を伊萬里町に支店を小城郡小城町に置き頭取には縣下屈指の富豪たる岸川吉兵衛氏其任に當り本店支配人に達識明智の岸川徳一君其發展に心血を注ぎ確實なる受引を以てせるより業務繁盛信用隆々たり。



前田利道君 醫學士、前田君天資聰明にして識才優ぐれ長上の信愛甚だ厚く友黨の敬慕極めて重く其伎倆を問へば最高學府に斯學の蘊奥を窮はめたる人、其意想を問はば雄略高く世表に出で卓見遙かに常人の上にある、又寛厚の風采優長の威儀一見人をして貴君子と見紛はしむ蓋し君が天然の美質が妙に其慈情を表として漆々將に瀟たらんとするものあるに依る乎、君が伊萬里野田病院長となりて其勁腕を揮ふこと最も熱心に其患者に接すること極めて懇慫に其後進を導くこと甚だ周到なり真に模範的刀圭家として名聲噴々たる所以なしとせず君年齒未だ壯んにして深遠なる學殖と勁大なる手腕を有し殊に内科は君の最も卓越せる所なり斯の如き刀圭家を擁したる伊萬里町人士は夫れ意を強ふして可なり矣。

岩野宣治君 伊萬里町刀圭界の達腕家岩野宣治君は生郡内黒川村の人唐津中學校を卒業し志を立て長崎醫學專門學校に學び明治三十九年卒業す次て斯學研鑽の爲め東京に遊學し當時有名なる大家に就き切磋琢磨日夜研究すること多年茲に於て伊萬里町に開業し斯道に大なる光彩を放つ近時信賴するもの續々として輩出し今や頗る繁盛を極む君が最も特技とするは眼科皮膚科花柳病等なり。

加茂廣治君 君は幼中己に衆童に異なり慧敏を以て稱せられ雄圖上京して學を東京早稻田中學に學び漸次學業進んで熊本醫學專門學校に入り孜々勉勵學す大正二年卒業するや熊本縣立病院に専攻し更に佐賀縣立病院に研鑽すること三ヶ年最新の學術と其練磨せる實驗とを以て歸郷し現伊萬里柳井町に開業す君が開業以來其治療するところ治績尤も著しく地方名醫の評語聞郡に轟き遠近村落の患者續々として治療を乞ふもの多く入院患者絶ゆる事なき盛況なり。

千々岩嘉一郎君 慶應元年十月六日を以て佐賀市西魚町嚴父儀八の長男に生る明治三十八年伊萬里に移住し同

四十一年より貸席業を經營し名づけて三浦屋と稱せり船屋町一流の樓閣にして頗る繁盛を極む現に同業間の取締役たり又君は世の浮薄に染まず博愛仁慈にして性温厚篤實なり而かも常に公共に盡瘁し同業者の模範たり。

立石鶴吉君 君は曾て育英の事に従ひ功績あり亦地方自治に留意し常に村會議員郡會議員として公事に盡力せり遂に庶民の輿望は西山代村長に渴望して止まず現に同村々長たり君が其職に就くや村政の釐革に力め傍ら矯風好學心を高めん事に心慮を凝らし毫も寧日なきものゝ如し、君前途豊富、近き將來地方の爲め一飛躍の舞臺あらんことを信す。

松島正泰君 伊萬里大坪村日蓮宗妙顯寺の住職にして佛敎大學出身の秀才を以て總本山に愛せらる今や自坊に在り専ら讀書に親しみ佛典に涉臘し自律謹嚴大に爲すあらんが爲め潛勢力を養ひつゝあるものゝ如し而かも遁世脱俗主義者に似て世上の毀譽褒貶に惑はざる所真に凡俗を超越せるの感あり師が將來刮目に値す。

廣嚴寺 (曹洞宗) 二里村に在り現住職を三浦惠徹と云ふ師は信仰熱烈なるものあり檀徒の信賴厚く誠心法務に没頭せり性質温厚の人なり。

山口鹿市君 天真爛漫として氣力旺盛地方刀圭家の中に令聞ある君は明治十七年五月十日肥前折尾瀬村に生る幼にして穎悟夙に醫學に志明治二十四年熊本私立醫學學校に入學し螢窓雪案百愆を棄て推戴不撓不屈の勉學をなし大に修得するところあり既に在學中にして學術共に庸衆を抜き内務省醫術開業試験に合格其免状を得同三十七年現地曲川村に山口醫院を開き一般診療に従事するに至る、君開業以來幾何もなく其令聞は地方に喧傳せられ來往診を乞ふもの日増多く頗る隆昌を致せり。

田中善四郎君 本郡大山村に醫術を開業し地方民の信賴厚きは君なり君資性温厚にして謙讓の徳を具へ學深



く術に長ず加ふるに博愛仁厚にして一視同仁患者に對し懇切周到盡さざるなきより院内常に殷盛を致せり、君も異亦數の刀圭と家稱すべし。

### 報 恩 寺

(禪宗)

有田町稗惠古場郷に在り地方稀れに見る古刹にして創建以來幾百星霜を經堂宇荒廢

せるを現住職松藤萬乘師苦辛慘憺堂宇の改築を圖り檀徒の協賛を經て大正六年早春本堂再建の計畫を起し愈々建築に着手するを得大正七年末落成するに至り寺院の面目一新す、境地は山紫水明の風光相伴つて壯嚴を極む、師は原本縣天草の人、資性温順にして内外典籍に造詣深く宗教究極の信仰に達し敵に能く味方に能く佛者の所謂怨親平等なり、來住以來百折不撓能く寺院の面目を革めたるのみならず信仰界亦師の爲めに覺醒せられたるものあるや敢て疑を容れず、想ふに自己の天職を忘れ世の財慾のみに汲々として日夜煩惱の犬に苦められつゝあるもの比し徑底夫れ幾干ぞ、吾人が師を目じて慥かに中興開山の價値ありと云ふ敢て誇稱の言に非らず。

### 西山積助 君

天資温厚郡中屈指の酒造家として赫々たる聲望を博する君は文久三年十月二十四日西松浦郡

有田村西山徳助の長男に生る、嚴父徳助の代此の業を創始せられ君が起つて家督を繼承するや一意専心家業の隆昌に心身を勞し原料精撰苦心研究種々醸造法を改良して顧客の需用に應じて漸次隆昌を期待し明治二十五年鐵道運輸の便を感覺して現地上有田驛通りに移轉す、爾來君が牙籌は其圖に當り倍々隆昌を極め家運振興頗る殷賑を致し今や郡中有數の商業家となり聲望噴々たり君亦常に自職の傍ら地方公共事に盡瘁す現に町會議員たり。

### 西 光 寺

(真宗)

現住職は松山賢護と云ふ師は宗教究極の信仰に達し己今當の往生因果を説き四十八

願の無量無數不可計の妙味を熱心布教し五濁惡世の衆生に光明を與へ況く煩惱衆生を善導して其の使命を完ふじつあるもの、如し。

### 樋渡優策 君

博愛仁術を施し救世済民を以て世に立ち夙に地方民衆の敬愛薄からざる君は嘉永五年十一月

を以て杵島郡朝日村に生る、幼にして醫學に志し暫時醫を佐賀市富永俊腕に學び又同市八戸町儀文也に就き修業す暫時佐賀講成館醫學部に入學明治六年卒業するや更に同醫學部に移り藥學を修む、而して明治九年十一月開業醫たるの資格を得るや初め郷里朝日村に開業せしも明治十五年有田町有志の招備に應じ同年七月現地に開業爾來今日に至る三十八年間の久じきに及び、君天性温厚博愛仁慈にして能く其職に熱中し起死回生の本分を全ふせる郡中刀圭界の元老として斯界の推重を受く現に郡醫師會理事たり、又君は町會議員として町政に參與し盡瘁すること久しく郷黨の敬愛最も深し、嗚呼掬すべき哉。

### 澁川惣三郎 君

歐風一度到りて本邦の美風漸く移り舉世滔々として名利の爭奪を事とせる現世の時代に方り

聳然偉名を醫流界に博し仁術を施し起死回生を以て其職とす聲譽赫々閩郡に喧傳せらるゝもの澁川君の如き實に罕あり、醫は仁術なりと、其言や甚だ易し然れども現代醫術界に於て果して其言ふ處を全ふせるもの幾人かある、又言、醫は文明の先驅者なり、と其の言甚だ尊ぶべし然れども斯界果して斯かる榮冠を戴き得るまでに世道人心に何等かの反響を與へつゝありや、顧みよ我が光輝燦爛たる大日本史中の近世史、を見よ眞に之れ時勢の指導を信じ人生救恤を目的としたる彼等醫界の列星吾人は今にして輕々薄々殊に浮流の中に沈滞しつゝ哀れ昔日の面影なき淺薄街輝兒の多き今日、尙ほも肥前西松浦郡に於て篤實温厚、眞氣和風よく人を親ましめ獻身斯學の研究發達、起死仁厚の術に之れ盡すの士澁川惣三郎君を見るに於て殊に浮華驕奢に陥らんとしつゝある刀圭界の爲めに希有の寶石を見出したるものと云ふべきなり、君が家累代醫界の貢獻者にして既に數代の醫ありと嚴父……先生又能く救民の志厚く多くの子弟を教養す、令兄澁川正雄君西肥前の内下波佐見村に於て起死回生の術を施し地方噴々たる名醫なり



君は明治十五年四月十一日を以て東彼岸郡下波佐見の自邸に吼聲を擧ぐ實に嚴父澁川……先生の二男なり、君は幼少の頃より穎悟才智衆童に過ぐ暫時嚴父に就ひて醫學を教はるところ所謂一を開いて十を知るの才あり然り而して既に早く其術妙技を極はめ嚴父をして瞠若たらしめたり、長するに及び君は家業の重大にして且其責任の重きを推知し當に其開業醫たるの資格を得るのみを以て足れりとなすべき業にあらずと雄躍して東京濟世醫學館に學び優良業を卒ゆるや東京北里傳染病院、三井病院等に斯學の蘊奥を專攻し亦其外、長く東京に遊びて在京各大家に就き各科目に亘り悉く研學せざるなし、即ち學識兼備且實地の研究を積み其術として術を極めざるなく錦衣歸郷し一般科目を以て明治四十一年現地有田村外尾に開業す、果せる哉君が學識技術と經驗を重ねし結果は所謂影の明鏡に映するが如く物を硝中に見るが如く能く其病源を看破し其修得せる治術を施せるが故に其治績著しく今や郡中外の患者續々として君の診療を乞ふもの尠なからず、此の故に院内狹隘を告ぐるに至り大正六年最新式設計法に依り宏壯なる醫院を建築し以て一般患者の入院に便せり、君資性濃厚、患者に對し叮嚀懇篤、貴賤老幼貧富を以て其言行を二三にせず、人に交はる城壘を設けず、行ひに輕飄浮薄の所爲なく事に不信不實の措動なく眞に赤心赤誠言行一致一視同仁なり、又寛厚の風采優良の威義一見人をして貴公子と見紛はしむ、蓋し君が天然の美質が其慈情を表として滾々滴たらんとするものあるに依るなり、是れ即ち君が名聲籍甚たる所以にして吾輩亦君が前途の祝福を祈らざるを得ず。

**正司東次郎君** 郡中達腕の刀圭家にして學術共に豐贍なる君は京都府立醫學專門學校を卒業後京都府立病院産婦人科部助手として同病院に勤務し多年其經驗を重ね更に福岡市立小倉病院醫員となり斯學を研鑽する所あり、明治三十五年現地に開業するや多年の經驗と學殖手腕とを兼備せる君は幾何もなく四隣に令名を博し業務頻繁を極

め厚く民衆に信頼せらるゝに至り有田町學校醫、有田村學校醫、有田町實科補習女學校、有田町壯丁身体検査醫等を囑託せらる、亦明治三十七年歩兵四十六聯隊補充大隊附軍醫として恪勤奉公克く其職を盡し同三十七年奏任官待遇に叙し、同三十七年日露戰役の功尠なからず從軍記章一時金百圓を賜ふ、其他惡疫病防疫、教育の普及、地方衛生の事に力を竭し其功績顯著にして有田町よりは三回の賞典を受け明治四十二年西松浦郡長より木杯壹組、同十四年二月佐賀縣知事は金貳拾五圓を贈りて其功を賞す、君現に日本赤十字社佐賀支部長として國家に奉公し亦有田町會議員として町利民福に努む、君が一地方に峙立し郷黨の敬愛を受け其名噴々入りて業務隆昌す、所以ありと云ふべし。

**中村九郎三郎君** 其名天下に洽博せられたるもの君なり、明治元年五月二十八日長崎縣島原に生れ、幼にして聰明、夙に藥學を學び後醫學に志す、初め佐賀市に開業し大正四年現地有田町に移轉し起死回生を職とせり、回顧するに大正元年君は斯學の研究を懷きて上京し東京濟民病院に奉職する所あり其年九月十三日夜大喪に包まれたる都大路は今しも……明治天皇の御靈柩を青山齋場殿に送り奉り森嚴なる御大喪の儀を營みつゝある時しもあれ、乃木大將夫妻殉死の悲報は更に滿都の人心を駭かしめたり、實にや武士道の權化たる學習院長陸軍大將乃木希典同夫人静子は此の夜八時の御發引を合圖に自刃し果てたるなり、抑々將軍邸は新坂町にして君が奉職せる濟民病院は其近かきに隣りたり、時恰も葬場殿の御大喪儀に、病院長、及副院長は、參列してあらざりしが此の悲報に接したる君は愕然愁惻速に將軍邸に奔せ付け感涙親しく檢案の勞を執れりと云ふ、後に至り將軍家親族惣代玉木正之氏より兼ての縁に報ひてとありて(武教堂部貳教講録孫子評註壹部)乃木將軍の遺物を贈らる、嗚呼この沈忠熾烈の偉人、將軍夫妻の傷徳に介抱し檢案の執りたる中村九郎三郎君ある有田皿山の民、以て大に誇りとして可なり。



齊藤鶴松君 家村内屈指の資産家にして酒造を業とす、君は明治十三年五月四日其家に生る、暫時郷校に學び明治二十五年佐賀縣中學校を卒業し同三十九年早稻田大學校を卒業す、歸來實業に志し雄關滿洲に敏腕を揮ひ大正六年家政を顧み祖父の遺業を繼承して専ら家業に努む、資性敏達衆望を有し小壯實業家として前途汪洋たり。

樋渡忠雄君 君は明治四年正月四日を以て佐賀縣杵島郡若木村に生る、家世酒造を業とし佐賀縣著名の醸造家を以て知られたる嚴父百武茂十氏の四男なり君幼時西松浦郡松浦村の酒造家樋渡政助に養はれ其姓を襲ふ明治三十二年其家督を相續し篤實勤勉克く其業に勵み家政益々隆昌に導く、君が苦心研究の醸出に係る銘酒窓ノ雪の如きは近時大に其名顯はる。

萩野屋 地方信用の的たる店舗にして萬雜貨を商ふ主人公平野勘一郎君奮闘主義の營業振りは則ち一擲千金の舉なく漸次に秩序を追ひ毫も急進蹉跎の行爲なく歩調を定めて行業し其顧客に對する着實正直良品安價多賣世人の意に投するの策を立て而して今日の信用を贏ち商運八ッ當りの繁榮なり然かも君明治二十二年三月生前途豊富の奮闘見なり。

松尾太吉君 近世工業の勃興發展は皆發明發見の力に依らざるは無し同時に農業の進歩も亦農機の發明改良に依らざる可らず殊に農業は國家の大本にして之れが進歩は一日も忽緒に附すべからざるは萬世不易の要素なり茲を以て君は未だ青衿の一黃口兒にして農具の改良を思念し端なる農作者として大平無事なる生活を樂ます即ち君が十五歳の時農具製作者島田善助の弟子となり熱心其事に従ひ數星霜の間辛酸痛苦を嘗め年齒二十二歳獨立自營の策を立て耨摺臼の改良を潛念するや刻苦を忍んで研究に研究を重ね千難萬苦に堪ゆる實に數拾年遂に精巧完全なる耨摺器を案出するを得愈々特許認可の月桂冠を受くるに至れり時に明治四十三年一月二十七日なり、當時君の得意

と歡喜とは果たして幾何なりしぞや、君が發明に係る即ち松尾式耨摺臼は其特色に於て一々爰に列舉するに遑ならずと雖も其最も顯著なる点は使用極めて簡易にして婦女子にても尙能く之を平易に使用し得ること、回轉に時間を節約して多量の耨を摺り出すこと、玄米を損せざること、其他、他の同日に優越の點多きこと等に在り販賣法に就ては近時各方面の需用者著しきを以て各樞要地に特約販賣店を設け亦規模を大にして日夜製作に是れ努めつゝあり嗚呼君の如きは實に農業發展否寧ろ國富に力するものと稱すべし。

中島安藏君 明治十三年十一月九日郷里大川野村に生る同四十三年京都醫學專門學校の出身にして敏腕あり卒業後伊萬病院佐賀市池田病院等に奉職する四ヶ年の此の間斯道の實地を研鑽すること深く大正三年一月郷里に開業以て地方の信頼を集め爾來今日に及べり。

川添昇君 郡中屈指の刀圭家として令聞ある君は明治十年五月十日南波多村に生る、家代々醫を繼承し君を以て川添家三代の名醫なり、君幼より穎才を以て稱せらる風に學を好み勤學數歲造詣する所不淺成童にして頭角を同年輩中に卓出せり、即ち君は明治三十四年長崎醫學專門學校出身の秀才なり、卒業後軍醫を志し志願して大村聯隊に入營し其職に勤む、日露の役には召集せられて出征し同三十八年十二月凱旋するや殊動に依り二等軍醫に進み平和克復後は小倉陸軍病院外科部に奉職し同四十二年郷里自邸に醫術を開業す、同四十三年には君が軍務に忱忠したる功勞實に顯著なるものありとし一等軍醫に叙せられ從七位勳六等の榮位を占む、天性温厚篤實、博愛仁慈にして民療救養を以て自から任じ今や分院を隣郡北波多村に設け起死回生の業に力を盡しつゝあり、嗚呼君の名聲地方に喧傳せられ聲望亦翕然として郡の内外に洽き世人の欽慕を受くる豈偶然ならんや。

天野房太郎君 文久二年十一月十五日東松浦郡唐津に生る年少醫學に志し專門大家の門に學び明治十七年佐



賀縣乙種醫學校を卒業し爾來各地の大家に就き斯道の研究を重ね明治二十五年五月現地波多津村に開業せり君茲に至る二十七年間孜々として仁術を施し老の至るを忘る郷間の尊愛を受くる亦故なきにあらざるなり敬すべし。

**田中英治君** 君は東松浦郡湊村浦田與一翁の三男なり嚴父は公共心厚く常に衆望を有し現に老軀を提げて湊村々長たり、君は故ありて波多津村の素封家田中徳四郎の嗣子となり大正四年其家督を相續す家は世々酒造業を營み亦醬油醸造を業とし傍ら魚問屋兼營す、君が醸造に係る銘酒「祝の友」の名は人の能く知る處なり、君年齒正に三十歳郡中小壯實業家中最も前途多望の人物たり。

**井手猪平太君** 明治十三年二月二十六日を以て生る夙に醫學に志し唐津中學を出で醫を長崎醫學專門學校に學び明治三十五年卒業して直に上京し東京掃雲堂病院に小兒科を研鑽す同三十六年七月歸郷再び肥後人吉病院對馬鶏知病院等に研究を重ねて軍醫を仕官し日露の役に出征三等軍醫たり同三十八年平和成ると共に凱旋するや直に郷里波多津村に開業せり君學殖手腕あり資性温良着實親切を以て衆望高し。

**淨泰寺** (淨土宗) 天延三年亥年寺澤志摩守其祖先の菩提寺として建立せられしに始まり岡山と實連社貞譽上人とす、當時は徳川三代將軍家光公より御朱印領枝去木村の内五十五石を賜ひ維新に至れり、現住職に松木活道師あり熊本縣天草郡大浦の人、夙に同宗界の出藍譽れ高く權大僧都たり、師が碎身粉骨宗務の發展に當れると最善の布教とは世人の渴仰尊崇するところあり。

**岡島奎治君** 唐津町に齒科として雄視せらるゝは岡島奎治君其人なり君は明治十年唐津町に生れ中學卒業後學を東京齒科醫學院に學び明治四十二年唐津日々新聞社東隣の宏壯なる其家に開業し以て今日に至れり資性温厚にして謙讓の徳を見へ技術は蘊奥を研め加ふるに患者に對し懇切周到なり故に信頼するもの多く日々職務殷盛を致せり。

せり。

**古賀立身君** 君は東京齒科醫學專門學校出身にして地方齒科専門醫の敏腕たり而かも常に此の學を研究し斯道に精通す抑も其人たるや篤實温厚にして志操忠誠人格あり亦態度恭謙更に驕態なく人に接するに叮嚀親切なり故に開業幾もなく君の令聞は地方に喧傳せられ來往診を乞ふもの頗る多く日増し隆昌を致す郡内冠たり。

**菅兼次君** 西唐津大島灣は西の港又は唐房灣とも云ふ汽船の發着頻繁にして唐津石炭の輸出港たり住民三千餘人其多くは石炭運搬に従業す菅兼次君は其巨頭にして現に四百餘人の人夫を使役し三菱石炭運搬業に従事せり君は香川縣木田郡林村菅岩藏の三男なり慶應二年十二月六日生資性剛直にして職責を重んじ膽略部下を統率するの氣概は部下數百千に尊重せらるゝに足れり。

**松井彌市君** 君は三井三菱等に信用せられ其運炭業に従事し運炭人夫三百餘人を使役す亦大正七年二月唐津倉庫運輸株式會社を起し唐津驛前に本店を置き支店を西唐津驛前に有し運送業をなせり近時のS商會運輸店是れなり、君業務の發展に力らむ熱誠、身を修むる儉素なり、而かも慈善公共に盡す、大正元年自費三千餘圓を投じて慈善學校建設を企劃し大正二年四月開校せしめ細民兒童を收容す現に生徒三十餘人、地方人民の感謝して止まざる處なり君資性謹嚴にして業務に熱誠常に心膽を練つて不展の精神を養ひ筋骨を鍛つて霜雪の苦勞に堪ふるに備ふ所謂君は富に居て安逸を貪らず盛に在つて難苦を忘れざるの人にして眞に地方青年の龜鑑なり。

**吉田紋次郎君** 抑々君が家系の由る處を釋するに其の祖先は岸嶽の城主波多三河守の家臣にして岸嶽没落後累代大島の風景を稱しつゝ、此の地に農業を營み當代吉田紋次郎君の幼時迄年代三百數十年の久しきに渉る舊家にして嚴然たる地方の豪族たり、君は資性英敏剛毅活潑幼少の時より人後に落るを喜ばず農事を廢して、三井、三菱、



石炭運搬小頭として愛用せられしか君が精勵事に當るの氣力と其部下を統率するの手腕は九州の炭坑王安川氏の認むるところとなり同氏の經營、白山、三原坑の出炭運搬を一手に引受け敏速なる運搬をなし加ふるに三井出炭運搬を請負ひ今や部下數百十を督勵して其事に當り眞に躍如たるものあり、而して君は肥前の名山天山岳に銅鑛區百萬坪、宮崎縣に石炭坑區百萬坪を有せり、君や天資仁俠博愛の念厚く而かも義氣に富む此の故に部下の窮するを見て資財を給し艱難共に其極に至る事ありと云ふ是れ即ち地方人に尊敬せらるゝ所以なりとす、君明治十二年生、前途甚だ深し、將來の大成や期待すべきものあるや必せり、夫れ吾輩世人と共に刮目する處なり。

**山邊忠世君** 歐風一度到り本邦の美風漸く移り舉世滔々として名利の爭奪を事とせる現世の時代に方り登然偉名を醫流界に博し仁術を施し起死回生を以て其職とし救世濟民を以て其分とす聲譽赫々遠近に轟すもの山邊忠世君の如き甚だ罕なり其人夙に聰明穎達にして温厚着實實理を看破するに尤も敏捷なり加ふに博愛仁慈にして力を濟生の道に盡す事他醫の及ぶ處にあらざるなり君は今や佐志村唐房に於て山邊病院を設立し内外科の診療に應じ而かも其手腕たるや熟達蘊奧を究め其精妙扁鵲の術を得たりと云ふ亦患者に接する親切病根を診する周密なり君が此の地に開業以來患者の診察を乞ふもの絡繹其門に絶へず以て君の非凡の技術を有するを証するに足る君性來恭謙口を緘して多く語らずと雖確かに地方刀圭界中鷄群の一鶴と云ふべき可。

**百武光太郎君** 滿島村長百武光太郎君は天保十四年三月三日縣下杵島郡若木村に呱呱の聲を擧げたる人にして明治十年滿島村に住す、天資聰明にして實業に志し専ら地方公同の利益を進めんとことに其意を傾注し才氣超凡企劃概ね人の意表に出づる處あり夙に郷黨の尊愛を受け明治二十二年町村制實施に當り村會議員に推せられ自治政の釐革に携ふに至りて以來實に三十星霜の間、村民福に盡瘁し赫尖たる治蹟をなせり亦君が曩に郡會議員として郡

治及び學事並に實業の發展に盡瘁せる功蹟の燦爛たるは衆望一身に寄集する處となり即ち大正五年十月選ばれて滿島村長に推せらる君老たりと雖鏗鏘として健全、劇甚を以て敢て勞とせず孜孜勉勵公利民福の實を擧げつゝあり、嗚呼敬服の限りならずや。

**河野謙助君** 滿島村の河野君は祖先累代唐津小笠原侯の藩士にして安政元年十月十九日元郡代職河野金兵衛氏の次男に生る、幼より伶俐賢明、學を藩儒山田氏に修め經書の蘊奧を極めたり資性温厚和直にして邊幅を修めず名を避けて陰徳を施し力を致して孝道を盡し曾て父母の命に背きたることなし、長するに及んで思慮深遠先見卓絶即ち君が辣腕の一閃光として見るべきものは彼の松浦橋縣費架橋の爲め東西奔走し遂に今日の便益を計りたるが如きは其の最も赫々たるものにして村民舉つて君の徳を稱せざるものなし、而かも君が郡町村制實施以來常に郡會議員村會議員として地方自治の事に執掌し公利民福の爲めに貢獻する所甚大なり、尙ほ個人の事業としては明治二十七年日清戰の風雲に乗じて石炭運輸會社を創立し自から其任に當り重役となりて萬般の事務を幹旋して其の主要の位地を執掌す、亦滿島倉庫會社重役となること滿十ヶ年勤勉事に力盡し斯界の發展を來したる如き亦尋常一様の辣腕家たるにあらざるを知るに足る、近今自邸に石炭回消費業及び竹材販賣の業を營み傍ら公共に盡すを以て樂みとす、嗚呼世人の金言積善の家には余慶ありと河野家愈々隆運の域に向ふ豈に偶然ならんや。

**山下善太郎君** 堂々たる快男子山下善太郎君の歴は其の半世に於て苦心辛酸の痕跡多し、君は安政二年十二月呱呱の聲を擧ぐるや家豊かならずして幼時實父喜十と共に魚漁に従ひ玄海の波濤に闘ふ長じて鯨肉仲買商となり苦心慘憺百障を排斥して奮闘的生活を續行し稍々産を起すに當り明治十五年十二月二十七日災火の難に罹り有産悉く燒失す茲に於て事意の如くならざるものあり遂に身自から石炭運搬の苦役に服したりしが君が衆を披ぐの精勵と



進退機敏にして強烈なる忍耐力は唐房灣三菱出炭運搬黨長に用ひられ今や數百人の部下を有して其の業をなせり、君年齢耳順を過ぐる五年、而して元氣旺盛、傍ら村治に盡瘁す、現に村會議員たり。

◎ 杵島郡及藤津郡

稻佐神社 (縣社)

祭神に本祠五十猛命、配祠聖王神、女神、阿佐神を祭る當社は三代實錄に依れば文

德天皇仁壽元年正月廿七日正六位上を賜はり、清和天皇貞觀三年八月廿四日從五位下に進め賜ひ、光孝天皇仁和元年三月十日從五位上を賜はり、寛平九年十二月三日正五位下に、朱雀天皇は天慶三年正月六日正五位上を賜ひ佐賀御領中郷村帳貞享四年改元文三年記曰白石宗廟稻佐宮となし賜ふ、明治四年社格調べに際し郷社に列し全四十一神饗幣帛料を指定せられ大正六年五月十八日縣社に昇格す、位置杵島山の東面中央の半腹にあり前面廣漠たる佐賀平野を眺望し有明海を隔て、遠く肥筑の諸山を指點するを得、亦近傍叢樹鬱蒼し境内老樟銀杏等數多の樹木蒼蔚して風景佳なり、殊に舊七月廿九日八月一日の夜有明海不知火の見物は此の地を以て最も佳しとし觀客多し亦納涼に適所たり。

社司 菰田虎市君

天真爛漫にして天性温厚他をして欽慕措く能はざらしむ菰田虎市は慶應元年十月五日を以

て杵島郡錦江村大字田野上に吼々の聲を擧げたる人にして幼より穎悟群童に異なり徒らに嬉戯を事とせず學を好み醫時村山治右工門氏に就き讀書を勵げむ、後學校の設立に依り是れに移り其科程を卒ゆるや父を助けて農事に饑餓せしが胸底竊かに社會の風潮を洞見し農事の傍ら郷土の漢學者名尾武治氏に就て漢籍を夜學す、其專修するところ寒暑寧日なく時には寢食を廢して勉學に勉め或は田邊山林等勞苦の業に従ふ時と雖常に書を放たず勉學自習怠らず其熱心は數星霜の間眞に一日となせり、以て氏が造詣するところを知るに足る、人となり聰明にして思慮あり緻

密を尊び遠慮の見あり、明治三十三年自村役場に奉職するや熱誠村民の福利に力を竭し企劃概ね人の意表に出でたり故に庶民深く其德行に敬服し又尊重する頗る大なり、而して性來氏は敬神にして國家主義を重んじ即ち吾が國、古有の神道家として社會に貢獻せんと明治三十八年遂に志を立て神宮奉齋會長崎本部長川浪眞世氏に就き國學を研究し同三十九年一月神職試験に及第するや直に稻佐神社々掌に任せらる同四十五年一月地方長官の推選に依り東京神職養成部に於て其の講習科を修了し大正六年五月十八日同社が縣社に昇格するに及んで同年八月十六日同社々司に補せらるゝに至る、爾來一向專念神社の振興に意を用ひ只管神命を奉仕して現社會の實際上に及ぼし愛國敬神を以て指導誘掖に努む、是れ即ち氏が地方に於て衆庶の仰敬を受ける所以なりとす豈推稱すべき人なり。

増田喜一君

風采端實資性温厚一道和氣眉目の間に進りて自から人をして懐かしむ其事に處するや最も熱

心最も緻密些毫も不明不知を許さず寸分の曖昧横稜を包まず病根を診する周密巨細水も洩るゝの遺漏無し即ち此の如きを以て地方醫流界に仰敬せられ嶄然頭角を現はし名望赫々たるもの之れを武雄療病院長醫學博士増田喜一君なりとす、君は地方醫界の明星にして天性穎悟夙に醫科大學を卒業し其他大家に研鑽を經、其學同輩を抜き學として修めざるなく術として明らめざるなし、實に内外共に其技倆精熟達練眞に醫術の蘊奧を極む、而かも患者に接する親切懇到殊に度量寛厚にして能く人を容れ更に城壁を築かず尤も友愛の情に富めるの人なり故に一度君に接するものは恰も春面聆蕩の裡にあるの思ひを爲さしむ爰に於てや衆諸其徳に服し交りて結ぶの士甚だ多し、現時武雄驛西一丁の地に最新式宏壯なる醫院を新築し之れに移り多くの患者を收容し起死回生に力を盡せり、夫れ君よ前途猶春秋あり其蘊蓄せる手腕を以て社會萬民の爲め畢生の力を盡し以て益々大成を期せよ、吾人君に敬意を表するの餘り此忠言を奉ずるもの也矣。



新居崎政喜君 明治九年頃初めて我國に寫眞術の輸入せらるゝに當り嚴父新居崎多平氏四國德島に於て此の事を研究し全拾年武雄に開業せしが爾來斯道の先覺者として斯界に重きをなし今日に至れるが現代政喜君亦終始研究相次ぎて其技倆優秀地方に冠たり、而して其術に於て如何に優佳妙美を極むるかは一般寫客の存知する所なり故に地方の寫客擧つて君の長に集る、眞に繁盛なり。

樋口益雄君 明治二十二年十二月三日武雄町に生る嚴父は淳義と云ひ本縣警察界に警察署長として偉名を馳せたる人なり、君は郷校を出で福岡中學に學び後志して柳川野片寫眞館に入り専ら寫眞術を研究せり其他大家良師を撰び福岡市等に於て研鑽する事數年其手腕社會に認知せらるゝに及び朝鮮中清北道忠州に開業せしが直に好評湧くが如く隆昌に向ふ、時偶々嚴父の喪に遇ひ急據歸郷せり而して大正四年六月一日現地武雄松原町に開業す、君開業日尙淺きも其手腕は地方に認められ好評を博す、前途多忙と云ふべし。

御厨佐六君 杵島郡高橋町の中央に宏壯なる呉服店あり是を三歳の兒童も知る御厨屋商店なり其暖簾を繼承すること數代當主御厨佐六君に至る迄數代其家風たる薄利多賣の主義を以て信用を擅になし來れり殊に當主の代に至りては直接東京名古屋米澤京都等各産地に出張し自から嶄新なる流行の意匠を撰びて其仕入れをなすを例とせり、而かも顧客に對す誠意丁寧彼の惡弊たる貴賤尊卑購求の多寡に依て待遇を異にする等の態度を絶対に禁じ店員等に至る迄常に之れを訓戒しつゝあり故に同店に足を入るゝもの毫も惡感を抱くことなし而して君は其惡弊を避くる爲め大正七年六月一日より確實正札村販賣を以てせるが其價格に於ても良品の安價なるは茲に一目瞭然となり益々好評と繁昌を重ねるに至れり。

伊藤喜代太君 郡中達腕の刀圭家にして杵島郡高橋の人、嚴父伊藤了氏の長男にして明治二十五年七月三日

の生誕なり、祖先是鍋島氏の忠臣連池藩に屬し代々人命救済の業に従事す、君又父祖の志を承り中學校を出するや長崎醫學専門學校に入學大正五年卒業直に東京産婦人科東病院に勤務し傍ら中原病院中原博士に就き外科を攻學す大正六年四月錦衣歸郷現地高橋町に開業せり、君が多年經驗と學殖ある手腕は幾何もなく四隣に令望を博し事務類繁頗る隆昌を極む、資性沈着頭腦明晰なり而かも年齒未だ三十を越へず有爲多望の士なり。

松尾意眞太君 明治二十二年一月十二日の出生にして若木村の人なり明治四十年唐津中學校を卒業後醫を長崎醫專に學び大正二年其學を卒るや東京横濱等に遊び斯界の大家に就き攻學するところあり大正四年五月郷里に開業村民の信頼を受け若木村々醫及學校醫を囑托せらる、君の將來亦以て多望なるべし。

百武茂十君 温良恭謙天真爛漫として常に地方民衆に其の範を示し一向専念自己業務の發展に心血を注ぎ年々倍々隆昌を極め夙に肥前酒造界に聲望噴々たる君は文久二年四月五日の誕生なり、家は君に至る五代の酒造業にして其經營は君の代に至り漸次擴張相次ぎ今や縣下有數の釀造家として家運頗る隆昌を致せり尙ほ君が獨特の釀造に係かる銘酒、勢、若木の如きは清酒品評會に出品して金銀賞牌を受くる數次に及す、君人となり温厚篤實富んで驕誇に染まず一意専心家業に努め而も義氣に富み公共慈善心篤く貧民救恤諸公榮神社佛閣等に卒先資を寄捐するもの甚だ多きに達す、亦常に村會議員として地方自治に力を盡したる功勞も亦著しきものあり、茲に曰く積善の家之餘慶ありと、宜なる哉、君今や巨大の富榮を一身に鐘め其の令名遠近に喧傳せらる、記者は君が茲に將來益々頑健ならん事を祈るものなり。

原田喜造君 實業家の梁材にして夙に酒造を營み赫々たる聲望を博する君は杵島郡中通村の人先代儀助の長男なり、明治四年二月十六日を以て孤々の聲を揚げ君幼より伶俐賢明夙に普通學を修め方學凡庸に卓出す、起つ



て家督を繼承するや家業たる酒造の事に心血を勞し原料精撰苦心研究種々釀造法を改良して一般の需要に應せしより業務其圖に當り倍々隆昌を極め家運振興頗る殷賑を致し今や郡内有數の業家となり聲望噴々たり君が吟醸の喜久正宗、大正菊等は芳醇佳味好評あり故に各品評會共進會に出品其都度賞状を受く。

**毛利源三君** 明治十九年九月十八日を以て嚴父愛助の長男に生る家は醫を以て三代を繼承せり其祖先は湖見山の豪族澁江の守より出づ湖見城有馬義直の爲めに滅びて後數代を経武雄柄崎の城主鍋島に仕へ武雄住吉に居住す、君幼より穎悟夙に學を好み鹿島中學を出で熊本醫學專門學校に入學し明治四十五年其業を卒へ更に佐賀縣立病院大倉博士に就き滿二ヶ年の實地攻學をしな大正三年六月郷里自邸に開業せり、君開業以來未だ星霜渺きも其技倆の地方醫流界に卓出せるものあり現に患者來往診を乞ふもの頗る多く令聞遠近に噴々たり、資性温厚春秋豊富、前途多望の好紳士たり。

**稻富虎一君** 肥前酒造界に其人ありと知られたる杵島郡釀造界の重鎮稻富君の家業は明治の初年嚴父善作氏の創業に始り當時業務尙微々として振はざりしが令兄の代に至り漸次釀石高を増し頗る業務に熱心を極め屢々同業者を糾合して縣外輸出を試み或は自費を抛ち攝州灘地方に至り實地釀造法の研究を遂げ歸來器具を改良して業務の革新改良を圖る等百端至らざるなし明治廿三年嚴父逝去後は家事萬係を双肩に負ひ倍々基礎を鞏固ならしめ業務の發展に勉め規模を擴張し以て縣下有數の釀造家として目せらるゝに至る然るに令兄偶々病魔の胃す處となり醫藥盡せりと雖も天命運を藉さず不幸大正二年遂に泉下の客となる、惜むべし、依て現主虎一君其後を襲ひ能く父兄の志に膺り毫も家聲を失墜せしめず層位の隆盛を致し今や斯界の巨星として同業者間に推重せらるゝ豈一朝の故らんや。

**森 靜吉君** 鼠取の妙藥猫イラメの九州支店は佐賀市白山町にあり即ち君の經營なり君は明治十七年九月十六日嚴父謙造の二男に生る、家累代杵島郡六角町に居を構へ嚴父代より藥種商を以て名聲地方に冠たり、大阪藥學校に斯學を學び藥劑師となるや家督を繼承して斯界に其手腕を揮ふ、而も天性カーレーヂに富み其の成すところ健實なり、今や君の活動九州一圓に及び真に刮目に値せり、更に高風愛すべきは居常讀書に親み文藝を嗜好す、窪田空穂氏の門下として短歌も趣味す、繪は亦ミレーガを愛す。

**坂井梅吉君** 博識にして淡泊聰明にして多才敏活にして清淡優に白石平野の一角に將來米穀商界を支配すべきの人として自他共に許す處の坂井君は方今白石平野の米穀商界に於て罕に視るの俊才なり、君明治四年佐賀郡鍋島村に孤々の聲を擧ぐ幼にして出藍の譽あり十七歳にして郷校に教鞭を執り次いで笈を負ひ帝都に遊學し明治法律學校に入學不撓勉學するところありしが中途病氣に襲はれ歸郷す、明治十七年六師團に入營現役を完ふし同二十七年日清の役起るや召集せられて戦闘に參加功を以て全二十八年二等軍曹に昇進勳八等及瑞寶章を賜はる凱旋後は佐賀縣警察界に職を奉じ明治三十三年東京刑事學校に入學し其業を卒ゆるや北陸道一圓の刑事事務視察を命せらる君が刑事として在職中の逸話渺ならず實に其事に處する機敏雷の稱あり、同四十年四月刑事部長に任ず、亦日露の役に功あり青色桐葉章を下賜せられ一等軍曹に進級せらる、君亦官界を辭して野に降るや敏活を以て關鍵とせる米穀商界に活動し現時山口驛前に宏壯なる店舗を張り砂糖乾物穀類を以て殷賑極まれり、由來山口停車場は佐賀平野の中央に位し地方米穀の豊富なる縣下第一位を占む、夫れ君が天稟の明敏と其活動の旺盛とを以てせば日ならずして斯界の驍を抜ぐに至らん、宜なる哉開業以來日未だ淺しと雖名聲噴々業務日々發展しつゝあり、蓋し刮目に値す。



森 徳太郎君 明治三十五年山口郵便局創立せられし以來同郵便局長として其職を執掌し以て今日に至る十七八星霜心血をそそぎ拮据勉勵克く其任を盡す、而も此の間種々の障害を排し電信事務の開始、電話創設の請願等自から其折衝の任に當り即ち公衆利便の曙光に不撓盡瘁せし功勞甚だ多し、亦局務の傍ら常に村會議員として地方自治に盡瘁し多大の貢獻をなしつゝあるは何人も認識する處にして其聲望地方に巍然たり、而して子息勝次君家は鐵道貨物運送業を經營し信用を擅にせり。

池田四太郎君 君は山口驛前南隣に於て米穀商及肥料販賣業を經營す、資性温厚にして能く商業道德を守り人に接して敬遠の氣なく謙讓にして仁俠あり、然り而して事ありて之れに臨むに當つては業務の煩累を避け如何なる艱難も譲らず勇往敢爲其の志を達せずんば即ち止まざるの氣象あり、是れ即ち君が業務の隆昌なる所以にして亦以て衆人の敬重する所たり。

淵上 嘉君 奮闘家にして商才あり寛宏にして業務に着實なり人に接するに其愛情は春風の如くにして暖あり、其の胸襟の潔白なる商人としての模範たり、此の故に君に交りて結ぶもの多く商務殷盛を極む、現に淵上自轉車屋と云へば君が平素の温情を思ひ起さしめ同時に勉強の二字を味ふに足る。

田中時次郎君 最新の學術ある獸醫として地方に信望を博する君は杵島郡山口村の人、明治二十九年の誕生なり、君夙に學を好み小學校の科程を卒ゆるや友を負ふて帝都に至り志して東京獸醫畜産學校に入學し大正四年三月此の業を卒へ更に同校蹄鐵工場に於て蹄鐵學を研究し大に得る處あり大正四年七月農商務省獸醫開業試験に及第其免狀を得て歸郷するや獸醫となり同年八月自宅に開業す、大正五年志願兵として第二十四聯隊に入營専ら蹄鐵に従事する所あり而かも君が其軍務に服する忱忠至誠、其技術優秀にして熱誠、やがて上長の認むる所となり翌年十年會長たり。

光野岩吉君 凡そ人物に尙ぶ所は其の人格にあり人格は人物の生命にして而して其人格は其人物に附隨して如何なる所にも見はれ假令は其業務に見はれ家庭に見はれ態度應對に見はるゝ等決して瘦くする事能はず尙し之れを假りに街ふものありとするも其れは一時的の事にして幾何もなく如斯の人は馬脚を露すべし故に偽善的人格の粉飾虚街は宛も鍍金の其れの如く幾日ならずして地金を露はす混沌たる濁世常に言行一致を缺ぎ偽善的人格輩續出するは實に社會風教の爲め慨歎に堪へざる所なり、光野君は風俗を蟬脱せし異數の人物にして其人格は猶純金の如く常に錆色の憂なきのみならず其風趣自から欽すべき其天真の流露なる處に靄然として掬すべきものと共に入をして轉た敬慕の念を禁せざらしむ、偉なる哉君は杵島郡六角の人、近時繩蒔機織吹商を營み地方實業界に光彩を放つ亦此の業の發達進歩を圖り地方農村の經濟を賑はす、君幼より穎悟才氣人に過ぐ、人となり資性温良而かも豪放磊落なり人に對するに驕誇幅なく快活瀟灑能く語り能く談す、誠に敬愛すべきの人物たり。

徳久三郎君 地方屈指の刀圭家として聲望ある君は杵島郡須古村の生誕なり、君が家累代醫を以て業とす君亦夙に醫學を修め現地に開業するや一片仁俠の氣を負ひ進んで力を救世濟民の事に竭す而も患者に接して親切懇到なり此の故に人心の信望雲の如く蒐り醫業潮の如く盛んにして郷黨の欽仰尊重を受る頗る甚大なり。

光 明 寺 (淨土宗) 白石平野の原頭に巍然として聳立せる大堂宇是れ地方信仰界の源泉たる淨土宗光明寺なり、同寺は天正三年鍋島直茂公の命に依り法譽上人の創建せる名刹にして本尊阿彌陀佛、二菩薩、兩大師等



は運慶の作なりと云ふ、現任職は第廿三世に相當し神隆教師あり、師資性温厚敦朴大事を怖れず、小事を輕んぜず怨親平等の觀に住し而かも人情徳義の半面を解し物質的慾望の念に乏しく上求菩薩下化衆眞に其天職を完ふしつゝ日夜教養に没頭せり今や宗教家の墮落は殆んど其絶頂に達し俗より出で、俗よりも尙俗なる醜態を演出する現時の宗教界に在りては寔に罕得の人物なり師來住以來本堂の改築其他寺院の面目大に革り信仰界亦覺醒せられつゝあり想ふに「ダータサオ」の裡に葬られんとする現時の教界中師の如きは萬緑叢中紅一點の感あり宜なる哉師が地方民衆に歸依渴仰せらるる故やあり。

### 江口 傳 君

柞島郡須古村の人なり曾て教育家として縣下に轟名あり而も勤績三十二ヶ年に及び其獻身的努力は小學内容の充實、青年教育の完成等に實蹟顯著なり、爲めに數次賞與を受けたり、近時教育界を退き地方公共に盡瘁し専ら公利民福に力を注ぐ、大正五年柞島郡々會議長に推せらる、君性率直にして氣概に富み氣骨稜々郷黨に敬慕せらる、

### 藤井 庫 造 君

明治十八年嚴父宗平の長男に生る、夙に中學を卒へ家業に志し精勵の稱あり、又地方繁榮策に留意し品質を撰び價格を安價にし需要者の幸福に鑑み吳服の外雜貨其他の商品を以て國家的に奮闘しつゝあり、性温厚、小壯有爲商業家なり。

### 山下 德 市 君

沈着にして明敏清淡にして寛宏の才あり畧あり亦斷あり將來純粹肥前實業界の色彩たる陶磁器製造業界を背負ふて起つべき人として自他共に許す處の山下德市君は方今の肥前に於て罕に見るの俊才也山下君の家代々柞島郡橋村村崎に住し篤農家として名望あり、君は明治十七年を以て其家に孤々の聲を擧げたり思ふに富裕の家の人となるもの動もすれば小成に流れ風潮に盲動し徒らに放縱逸惰酒色に耽りて立志の途を知らず亦守錢の

賤奴となる者多し嗚呼山下德市君の如き地方富豪の家に生れ能く此の客氣を壓し世の濁流に染まず小壯して明智衆に秀で理想高潔にして常に地方經濟の發達を念とす、殊に君は年齒二十歳の青衿に達するや奮然として起り地方經濟富力の増進を計らんと欲せば先づ地方工業の振興を企圖せざる可からずとし自から卒先して藤津西山に一大陶磁器工場を設け陶磁器製造業を經營す、而かも其欲する所未だ人の着目せざる美を啓く云ふに有りて電氣用器を製出し努力孜孜して心血を競ぎ毅然として其所信に猛進しつゝ茲に十五星霜を過ぎ近時盛んに外國輸出をなし業務日々繁榮販販を極む、由來藤津郡の地陶磁器業繁盛なるも近世的工業の見るべきものに至りては寔に尠なし蓋し近世我が國家としての發展は宜しく先づ工業的發展に基礎を置かざるべからざるは此の度の歐洲戰亂に見らるゝ所なり、君が明察克く此の點に着眼し榮々孜々猛進しつゝあるもの豈に偉なりと云はざるべけんや君が未だ年齒壯なると豊富の資財と慧敏の頭腦に其抱負の遠大なるとは相寄り相俟つて君の前途は實に赫々たる光明に滿てり、記者は君の自重を望む益々切ならざるを得ず乞ふ諒之焉。

### 平野 米 藏 君

空拳を振ふて能く偉大なる成功史傳中の人と爲るものは決して現今惰夫の輩等が希ふが如き僥倖の中に之れを得べきものに非らず、必らずや其非凡の奮闘一方に顯はれ刻苦功積んで以て運命を開拓せずんば能はざるものなり、一微の商人よりして能く今日の成功を見る平野米藏君の如きは實に奮闘兒中の奮闘兒と云はざるべからず、君は藤津郡志田西山の人なり君素と空拳に起り終始一貫陶磁器商を營み霜雪の艱難を嘗め千難排し萬難踏み破りて今日の盛運に達す近時肥前陶磁器製造販賣業界の重鎮を以て目せらる、君常に曰く、固執忍耐の性あつて成功至ると、復言す天國を贏ち得るもの他にあらずして實に不拔の勞役に存すと、宜なる哉、君が今日の盛運に至る幾十星霜百折不撓毫も艱難に屈せず固執忍耐を以て其成を告げ基礎愈々鞏固にし錚々たる令名を博す、君が



此に至るの來歴を詳細に點檢せば青年の惰眠を覺醒するの價値あり。

**宮崎 運吉 君** 温厚の資を備へ人格高尚にして毫も偽善的粉飾の行爲なく眞に純金の夫れの如く其天眞の流露なる處に愛慕の念を禁せざらしむるの宮崎君は藤津郡久間村西山宿の中央に宏壯なる店舗を有し吳服太物及び菟物等を以て其賑盛なる暖簾を經營す而して君は家業に精勵する事品質の精撰、廉價販賣を宮崎式家憲と定め終始一貫此の主義を執れり而かも人に交る着實篤厚にして未だ曾て信義に背かず毫も顧客に對し不信不實の所動なし、此の故に信用大に開け漸次家運隆盛に至る、眞に商業家の模範たり。

**香月 榮太郎 君** 沈重の性温厚の資最も調和に適し且部下を役するに嘗て疾言急喝せず工業家として又商業家として適く所好評ある香月榮太郎君は藤津郡志田西山の人にして陶磁器製造業を營む其家業たるや明治十一年の創業にして性來勤儉力行の令聲ある氏が奮闘的經營に依り今や家運隆昌して遂に居村第一流の製造家となる殊に君が製出する所のものは(内地向)京阪地方に噴々たる好評あり而して大正二年より令息久一君家業に従事するに至り其赫々たる名聲に従ふ販路は遠く北陸道一圓に及び是れ君等父子が朝夕を別たざるの精勵の然らしむる所又宜なりと云ふべきなり。

**外尾 久一 君** 性温良にして經營の才に富み籌算に長ず近時藤津郡久間村に於て陶磁器製造業を營む創業日未だ淺きも日本向朝鮮向等を製出し名聲高し君が精勵庸衆を拔ぎ經營の措置宜しきものあり近き將來に大飛躍を爲すを期待せらる。

**醫 松茂 七 君** 清廉潔白にして信義有情の人なり事に當て熱誠厚厚なり亦事理を撻破するに敏妙なる才識を具有し一徹も漏さざるの人なり此の故に嚴父の遺業たる陶磁器製造業を繼承して愈々隆昌に向はしめ近時數十名の

職工を役して遺算なし、販賣法としては自から其任に當り天稟の才を縱横し朝鮮等に支店を有せり、又長男茂平君卓越の才あり父子相携ひて共に業務の發展に勉め家運の振興に力を盡せり、將來の賑盛刮目に値す。

**杉光和三郎 君** 君は藤津郡鹽田町の人地方屈指の實業家を以て人に知らる資性慧俊伶俐容貌穩幽輝顯く贏利の才と敬仰すべき徳とを兼備して世に處す君既に早く地方實業の不振を慨して確志する所あり郷里鹽田に於て陶磁器製造業を創始し爾來尾張美濃等各城産地を時々視察研究を積み常に斯道の先覺者となり其改良進歩に腐心し此の業の爲めに貢獻せる事甚大なり亦世間贏利界稀れに見る精勵家にして且つ偉大なる成功者なり近時は實業界を退き地方經濟の事に當り金融の圓滿を圖る而かも熱心高潔の理想を以て幾多の公共事に盡瘁しつゝあり宜なり今や鹽田町一帶人心集賴の標的たり。

**丸田 惣一 君** 小壯有爲の實業家として聲望を博する君は幼時より嚴父權九郎氏を助けて陶磁器商に従事し専ら家運の隆昌に没頭し其精勵する所漸次斯界に頭角を顯はし現時に至りては製造業を兼營し其販路内外各地に及び聲望隆々たり亦盛んなる。

**原口 利秀 君** 資性温順にして篤實宏量なり其言行往々人の龜鑑とすべきもの多し其人に接する懇切婦女子無識の者と雖も其言ふ所を盡さしむ其人を愛する親疎を以て輕重せず唯だ理に通ずるものを最も愛し理に違ふもの愛せず其の公共の爲めに事を執るや叮嚀周密毫も假借せず公共の爲めには自己の用務を擲つゝ之れを盡されば止まず其の爲す處公私の別を明かにして悉く理に背戻することなし君が嘗に鹽田郵便局長として既に數十星霜の間克く其の職に盡瘁せるのみならず自村多くの公共事に力を致し貢獻しつゝあるもの即ち地方民衆の敬尊する所なり、夫れ君が一舉一動は地方人の模範とする所、君幸に長へに健在なれ。



### 杉野逸馬君

世人の推重を受け其名遠近に高く超然として一世を高睨し其業を以て確然樹立する者之を醫業家の俊才杉野逸馬君となす、君は藤津郡鹽田町の人、明治八年八月七日を以て郷里鹽田に生る、幼にして穎悟、夙に見る所あり醫業を以て世に立つの意を決し明治二十五年長崎醫學專門學校に笈を負ひ其學を學ぶ同二十八年雪の効空しからず學績優良を以て卒業し現今の地に開業す、日露戦役起るや第十二師團衛生隊附軍醫として出征し平素の手腕を縦横に振ふ、功績顯著なり、凱旋後再び郷里に開業するところありしが感じて臺灣に至り既修の學術を實地に應用し研鑽すること數年頗る造詣する所あり、茲に於て歸郷し三度郷里に開業す爾來其職に執掌力を濟生の道に致す、君が病根を診する周密懇到にして其患者に接する親切丁寧優に地方名醫として患者門に絶へず令聞を流布するに至れり語に曰く三たび腕を折て良醫となると、君の今日ある所以のもの亦偶然にあらざるなり。

### 雪竹健太郎君

君幼にして既に雋才の聞に高く長するに従ひ頻りに泰西文明の燦爛たる光明に憧憬し決然郷里花露ばしき橘村を後にして遠く笈を負ひ先進醫學の泰斗先生の門に入る其勵學する所刻苦勉眞に雪竹の功を積み幾度か現代青年の心膽を寒からしめたり而して君が超凡せるの霸氣と切磋琢磨の勉強は遂に先輩を抜き内務省醫術開業試験の如きは易す其の証を得たり斯くて君が高策勁節は隆々たる仁術者となり其天稟の才と其造詣せる手腕と相俟つて地方醫流界の重望を負ひ現時鹽田町に開業し名聲日に進み月に上る、眞に偉なりと云ふべし。

### 松尾義堂君

誠厚至篤にして博愛仁慈寛容宏量にして謙謙抑遜の士、藤津郡嬉野の醫家松尾義堂君となす君は原籍長崎縣東彼杵郡の人にして明治十五年上波佐見村に生る幼より慧敏夙に醫學に志し熊本醫學校に入學し業を卒へ明治三十九年内務省醫術開業試験に合格、其後長崎縣北松浦郡に開業せしが同四十五年更に研究を志し上海して東京慈善病院、帝國醫科大學校等に攻學し亦東京三井慈善病院に眼科主任として斯道の遺奧を極む、大正二年

歸郷其年五月現地に開業す、即ち嬉野湯町の東面に新築成る醫院あり、宏壯にして美觀を呈す、是ぞ君の經營に係る松尾醫院なり。

### 富永源六君

政治の事業に於ける猶は車の兩輪鳥の双翅に於けるが如く其孰れを偏重し孰れを偏輕すべからざるは本と是れ天下の通論なり而かも世人は徒らに之れを口にし之れを筆にし其理を知つて其實を擧げず能く之を語り能く之れを談するも未だ能く之を實踐躬行するもの稀なり豈國家の爲め浩嘆長息せざるべけんや而かも個中獨り富永君の如きは政治家として善く國家民生の爲め權義を主張し實業家として善く縣下産業の發達を企畫し汝々汲々國民福利の爲めに毫も寧日なきもの、如し偉なる哉君は藤津郡嬉野村の人嚴父清兵衛氏の嫡男にして安政六年二月七日の生誕なり家は家系連綿として君に至る六代、肥前特産の巨粹源六焼を以て名あり君幼より穎悟夙に學を好み勤學數歳造詣する所不淺年少にして老成人を壓し優に先輩を凌ぎたり即ち明治二十二年初めて町村制の實施せらるゝに當り君は郷黨に推されて西嬉野村長となり亦村會議員、郡會議員を経験して同三十二年佐賀縣會議員に當選、同三十四年縣參事會員となる、君が其責務に盡瘁するところ常に國民福利を主張し措置宜しきを失はず此處を以て君其選に當る前後數回而して公平無私縣郡村制の釐革に力めたる功績尠しとせず、又實業方面に在りては斯界の振作發展に身を没頭し殊に肥前特産品たる陶磁器界の爲めには身を忘れて粉骨力盡せし功勞甚だ多し此の故に斯界の敬慕を受け令聞地方に冠たり、吁君の如きは政治家として實業家として共に稀有の士と稱すべし。

### 相川茂吉君

陶磁器製造業にして藤津郡吉田村の人なり、性溫厚にして確實正直を旨とし銳意經營の任に當る、近時重に朝鮮向及び内地向を製出し好評噴々たり、年齒五十歳、元氣旺盛、事務の發展を以て唯一の樂とし日夜精勵其業の向上に是れ努めつゝあり。



石井豊治君 藤津郡吉田郵便局長にして職責の功勞頗る多し、亦村公共の爲め盡瘁して人に敬せらる、資性聲調、穩愜意態閑雅敢て一度と云へども失言怒詆せず叱咤咆哮せず常に非凡の經進的才幹と不斷の努力以て局務一般の事務に處し巧みに敏快輕俊の行動に出で周到緻密遺憾をからしむるに至ては吾人破邪顯正の筆を職とするもの習ひとして往々失言の禮を缺ぐことある者に至つても深く其眞氣和風擊實温厚の君に接しては自から襟を正すを覺わしむるものあり眞に廣き好模範として推稱するに足れり。

大串音松君 豪氣堂々たる快男子は如何なる壓迫の加はると雖尙ほ其の鴻志奮然として貫徹せずんば七度世に生るゝとも素志を遂行して目的の彼岸に達せずんば止まざるの氣魄あり吾人は是れを大串音松君に於て事實に展開せしめられたり、君は幼時より氣鋭能く衆に拔んずる所あり遂に慘憺たる境遇の中より空拳を固めて自己の奮闘心に鞭達し厥然鴻翼を振はせ陶磁器製造業を創始す、爾來苦心經營打ち波寄する四圍の壓迫に奮闘しつゝ固執忍耐能く萬難を突破して今日の盛運に達せり今や數多の工場を建設し幾多の職人を督勵して以て全力のエルギネーを傾注し目醒しき活動をなしつゝあり、君が今日の奮闘は眞に大刀を挿して敵陣に突入する勇士の面影を偲はしむ豈其の隆々たる快ならずや偉ならずや。

早田辰次君 君は熊本縣玉名郡の人、夙に佐賀縣廳に奉職し聰敏の聞あり大正六年十二月藤津郡長となり現職にあり、君資性勇斷果決にして清廉潔白正義の念厚し、君が敏篤なる手腕の經綸に於て郡民意を強うするに足れり。

前山龍三郎君 藥學の先進老練家として聲聞ある君は鹿島町の人、安政五年二月三日の出生なり君幼より學を好み苦心研鑽孜孜として學事に努め志し福岡醫學校に入り藥劑學を學ぶ明治十七年一月其學を卒へ藥劑士となる

爾來藥種商を營み銳意熱誠業務の興隆と斯學の發達に力盡し以て今日に至る、君資性温良和直にして至誠公共を重んず此の故に町民の推重する所町村制實施以來常に町會議員たり、曾ては郡會議員たりし事あり、名聲噴々地方に敬せらる。

光武清作君 君は明治二十五年生、幼にして穎悟、志を醫學に立て研學數歳大正元年内務省醫術開業試験に合格し更に東都に遊び斯學の大家に就き蘊奧を研究するところあり、大正四年歸郷現地南鹿島村に開業せり、爾來醫業に勵み地方に信頼せらる。

淵上左京君 君は鹿島町の人夙に實業に志し金物類、度量衡器、家具、建具其他雜貨品を以て宏壯なる店舗を經營し屋號をかまやと號す、亦傍ら寫眞屋を營み名譽を博す、其技倆の如きは縣下稀有に屬す即ち大正七年五月佐賀市に開催の第二十一回九州寫眞大會に於て二等賞に入選したるが如き如何に優秀なるかを知るべし、君資性温順謙讓にして衆に敬せられ信用頗る厚し。

勝屋弘規君 君は舊鹿島藩士嚴父弘道の長男にして明治元年十二月二十二日を以て生る、其祖先は勝屋弘昌に始り龍造寺隆信に仕へ武威あり、君は其十五代目に當る、君幼時學を好み醫業に志す明治二十四年成醫會講習所を卒業せしが後東土に遊び斯道の大家に就き勉學研究するところあり明治二十九年郷里に開業す、爾來技能信用共に備はり民望を集つめ隆盛に向ふ。

高木 薰君 明治二十五年二月二十六日を以て郡内古枝村に生る、嚴父高之助の長男なり家世々醫を業とす君は鹿島中學を出で醫を東京慈惠會醫學專門學校に學ぶ大正七年卒業して歸郷し嚴父を援けて醫業に勵む、天資温厚小壯の醫術家として人望あり。



田中幹一君 地方醫界の達腕家として其名既に噴々たる君は藤津郡鹿島町の人、明治十六年五月二十六日の生誕なり君幼より穎悟人後に落るを喜ばず其郷校に學ぶや常に學績優良全規定の學科を修了し長崎醫學專門學校に入學雪の學を積み明治四十年同校を卒業して名譽の証を受け更に一年志願兵として身を軍籍に置き陸軍々醫に任せらる退營後は各地の病院に奉職して斯學の研鑽怠らず大正三年日獨戰役起るや青島の役に從軍し勳功を奏して勳六等旭日章を賜はる凱旋後解隊となるや尙醫學の研鑽を志し上京して東京三井慈善病院皮膚科醫員となり傍ら切礎琢磨業を積み大正七年五月歸郷自邸に開業す、君開日未だ淺きも達腕を以て親切懇到患者に接す而かも春秋に富めり君が將來愈々發展濟世救民の術を普及し地方民衆の福祉を増進する期して疑はざる處なり。

久布白兼徳君 起死回生を以て其職とし救世濟民を以て其分とし夙に令名を博する君は鹿島町の醫術家久布白君なり、君が家地方屈指の門閥にして家系最も古く代々醫を以て名あり、君熱心醫業に勵み數種の要職を帯び公私共に精勵努力毫も專處せず資性温良にして篤實博愛仁厚にして德行綿々たり、眞に當代異數の醫家として世人の悦服敬尊する所以なり。

濱の開業醫 藤津郡濱村に醫術を開業し夙に錚聞あるは澁谷正義君、山中秀次君矢川四郎君の三氏とす、山中君は明治十年十月一日五丁田村に生れ明治四十二年日本醫學校を卒業して内務省醫術開業試験に合格し更に東京に於て博士學士に就き研鑽を重ね同四十五年現地に開業せし人なり、矢川君は明治九年十月十三日の出生にして嚴父謙堂の三男なり家代々醫業をなし嚴父も亦醫を以て名聲を博せり君幼時より醫業を見習ひ上京して順天堂日本醫學校及山龍堂等に於て其學を學ぶ後東京濟生堂學舎に入り同三十七年業を卒へ内務省醫術免許狀を受く、同三十八年歸郷家督を相續して醫業に勵む、澁谷君亦學殖豊富、醫術の造詣最も深く現時濱街路の中央に在り、諸氏は共

に人情の眞味を解し能く人を遇するの道を知り醫の天職として最も忌むべき守錢奴の弊に染まず努めて博愛仁術を實行しつゝ其職に精勵努力毫も倦む所なし、故に一般の信頼を受け其名望は地方に洽博せらる。

境 徳太郎君 君は明治十六年四月十五日佐賀市赤松町に生る君幼にして秀才頭角を年輩中に卓出し夙に醫業に志す所あり銳意熱心錐股登雪の苦を積み學績先輩を抜く、明治四十年九月内務省醫術開業試験に際しては學術共に優良を以て其証を受く、爾來佐賀市承天堂病院助手となり實地研鑽五星霜に及び大正二年現地多良村に開業す君人となり聰明穎達温厚着實なり亦患者に接す一視同仁懇切を盡す近時多良村醫及學校醫等を擔任し亦數多の生命保險會社診査醫を囑托せらる、而かも君は平素研究心に富み即ち大正三年には東京醫科大學に於て同四年には東京北里傳染病院研究所に於て研學するところあり是れ地方患者の幸福と醫界の智識向上に貢獻するところ甚大なり眞に良醫と云ふべし。

鹽田 薫君 多良村回生堂療病院經營者にして學術の造詣深不淺資性磊落にして活潑積年研練せる經驗と其敏腕とを以て地方醫流界に偉名を博し院內常に多忙を極む、君人に對して城壁を設けず能く語り能く聞く亦世態人情に通ず而して恭謙直亮近時稀有の人物たり。

野田 愛六君 地方良醫として雄視せらる、君は藤津郡大浦村の人にして長崎醫學專門學校の出身なり君卒業後各地の大家に就き實地研究を積み歸省自邸に開業するや幾もなく君の令聞は地方に喧傳し診を乞ふもの頗る多く日増隆昌を致すと共に諸般の設備整頓今や地方有數の乃圭家として大浦村々醫並に學校醫を囑托せらる、君春秋豊富なり向來其造詣せる學殖に徴し達腕を揮ふあらば地方醫流界の明星を以て仰視せらるゝや必せり。



◎神 郡  
◎佐 賀 郡

清 水 寺

(天台宗)

小城郡小城市の北方山谷の間にあり延暦二十二年桓武天皇の勅を奉して聖命上人の開基す本尊は千手觀世音にして往昔は堂宇三百餘坊を有し九州隨一の大伽藍なりしが兵燹に罹り悉く燒失し久しく廢寺となりしを寛永四年鍋島侯之を再興し山林五十餘町を寄附し今に至る大悲堂は六間四面の銅瓦葺にして其前に銅甃門仁王門石門等あり衆庶參拜の靈にして其名世に高し現任職には倉永圓海師あり、師日々法務に従事し慈眼鐵腹大悟徹底の觀あり、吾人は師を目して法界異數の高僧と尊崇し尙宗教界の爲め師の自愛を祈る益々切なり。

久保明太郎君

君は小城郡晴田村の人、明治二年實父宇兵衛の次男に生る、明治三十三年始めて酒造業を開始し爾來繼續終始一日の如く非常の熱心を以て此の業の研究をなし優良の醸造を得大に世人の高評を博す、今年一年に販路を開き需用者増加して釀造酒に不足を告げんとするの盛況を呈せり、而して君は一種特別の芳醇を醸出す名づけて「明清」と稱せり曾て共進會に於て褒賞を受けたる事多し、君資性活達雄志遠略商才機敏にして厚德博愛なり此の故に地方人に尊重せらる。

福島清次君

地方令聞ある獸醫にして夙に其の學を修め其術を明らかにす而かも亦後進子弟を誘掖教養して斯道の人材を作り又幾多の公聲的獸醫となりて其職に執掌すると共に縣下獸醫組合理事となり斯道の改良發達に貢獻するもの尠ならず是れ方今其の地方に於て斯界の泰斗と仰がれ名聲高き所以なりとす、抑々君の人と爲りや篤實温厚にして博愛仁慈志操忠實にして能く其の德行を修め意度恭謙更に驕態なく人に對する禮あり信あり誠に古の士君子の風を存すると云ふべき乎、嗚呼吾人は愛を以て敬尊客まざる所なり、幸に君長へに健在なれ。

大屋政六君

夙に齒科醫の手腕家として其名遠近に洽博たるもの之れを牛津町の開業醫大屋政六君とす君は斯學の研究に辛酸の積むこと數星霜眞に學術共に其淵奥に互る而して君が地方有力者の觀請を容れ現地牛津町に開業してより以來名聲大に擧が頗る殷盛を致す是れ即ち君が學術豊富にして嶄新の技術と懇切丁寧の然らしむる所なり君資性温恭にして才幹あり前途春秋に富み將來の光明に滿てり眞に刮目に値す。

宮崎嘉八君

砂中に球玉を拾ひ得たるの感あらしむるものは吾人小城郡多久町を訪て現多久郵便局長宮崎嘉八君をして肥前の精華第一編中に數へ得たるの一事なり、宮崎家累代舊多久藩士にして德行を集め救窮賑貧の善を積めるが爲め聲望從て近邑の間にまで響き一族擧つて地方に敬尊せらる、現代嘉八君亦斯かる積善の家に成人し幼より漢籍に修養を積みしと共に漸次學奥の研究に怠りなかりしが爲に智育德育兼備眞に温平として玉の如き人格を造り上ぐるに至りしなり、云ふ良鷹は爪を藏すものなりと君資性聲調穩愜意態閑雅敢て一度と云へども失言怒號せず常に非凡の才幹と不斷の努力とを以て局務萬般の事務に敏快輕俊の行動をとり明治二十年多久郵便局の設置せられて以來君今日に至るの同郵便局長として三十二星霜眞に功勞甚大なり、見よ其他公共事に關はりて地方福利の爲めに奮闘的盡力をなす地方名聲の長者となり大正六年十月十日遂に從七位勳六等に叙せられたり、而して正に五十五の傾齡なる故を以て幾度か退職を求むると雖容れられざる點より見るも如何に君が敏腕事に當り緻密事に處するかの一端を覗ふに難からざると共に三十二年一日の如く局務に盡瘁せるが如き我國郵便局長の數千萬を以て數ふると雖も此の如く長日月をなせるが如きは未だ嘗て多く聞かざる處なり是れ眞に吾人尊敬措く不能る處にして厚く上長に君が信望を受くる所以なり。

銘酒窓乃梅

天下に其名を博する銘酒窓乃梅は佐賀平野の眞唯中佐賀郡久保田村字宇治端より出づ是れが



醸造家は云はすして古賀文一郎君なる事夙に人の知る處なり抑々古賀文一郎君幼より伶俐にして表を見て裏を知るの才あり長するに及んで益々聰敏傳來の家業を繼承して日夜忘らす所謂世の混沌たる風潮を避け政社會に任せず終始奮闘的活劇を以て業務の發展に其歴史を埋め今や九州に於ける酒造界の泰斗として實業家の巨擘として普く世人の欽仰を受く、就中郡中に於ける威信最も大、恰も郡の羅針盤の如く一舉一動靈敏一意地方公共の福利を進め慈善救恤の善行を積む故に村童も路傍に君を迎ひ低頭せざるものなしと云ふ殊に銘酒窓乃梅は絶代稀有の銘酒にして畏くも先帝御買上の最大光榮を荷ひし事數度其外佛國巴里萬國大博覽會名譽銀牌、內國勸業博覽會有効賞、九州沖繩八縣聯合共進會名譽功勞賞并に最高點一等金牌、其他縣郡等に開催の品評會に出品して褒賞を受けたる金銀牌數十個に及び今や規模宏大醸造高優に壹萬石に近く各地に支店を有し其販路全國に普及せざるなきに至る、眞に近代我國酒造界の色彩なり。

**千々岩鐵工場ト堤瓦製造工場** 千々岩鐵工場は千々岩梅太郎君の經營にして久保田驛前にあり堤瓦製造工場は堤善兼君の經營なり兩氏共に業務に熱心にして信用あり取引確實にして注文殷繁頗る隆盛を極む兩氏は責任濃厚にして經營の才あり共に將來刮目に値せり。

**宮崎林三郎君** 君は安政六年四月を以て佐賀市の東兵庫村に生る嚴父榮造氏は農業を業とし兄弟七人の子供を擁して資産富裕と云ふにあらざりき、君幼より伶俐にして群童に異なり父母に孝道を盡す、而して明治十七年壯丁に達し第十二旅團に入營す、時鷄林の急を告げ同地に出征せしが事漸く鎮まるに及び歸朝後滿期退營となり其後は専心商業に従事せり然るに苦心經營の功斯年ならずして萬餘の富を造り一時近郷の羨むところとなる茲に於て思へらく萬餘の富、人に誇るに足らず、富、素より固定のものにあらざれば更に巨萬の富を造り内團樂の家庭を誇り

外國利民福を計るにあらざれば吾れ満足する能はずと是れより規模を大にして其の業の芽籌を過らし銳意熱心是れに當りしか機運未だ熟せざりしか運命の神は必ずしも甘果を齎さずして一敗又起つ能はざる迄に失衰し前きに患ひたる眼症は經過宜しからず遂に全く失明するの不幸に陥りたり、毀譽褒貶は意とするに足らず殊に定見なき人の批評の如きは人格の如何と何等相關する處なきなり、君の家産一朝にして衰ふるや村人陰に之を嘲りて曰く家産既に蕩盡し兩眼亦明を喪ふ其の末路知るべしと、燕雀は黃鴻の志を知る能はざるなり君茲に至つて思へらく我一朝にして富を造りしは其經營宜しきを得て然るにあらず之れ眞の僥倖のみ今又一敗起つ能はざるに至る所以のもの畢竟世事を達觀するの眼識なかりしに因らずんば非らず我れにして海濱に寄する汀波の高低により更に大洋の怒濤を測定するの明ありしなば安んぞ這般の失敗を醸さんや然らば不明の眼は敢て悲しむに足らざるなりと斯くて自から心を勵まし茲に愈々器械の發明に従事し以て世を益し名を擧げんと決心せり此後君が一意専念心血を凝して考案を試みたるは製網器にして其發明に一身を投じてよりは更に釐毫の收入もなく日夜思考を凝し研究を重ねるのみ爲めに今は一日の食にさね窮するの悲境に陥れり然れども天資不屈の君は毅然として有ゆる辛酸に堪へ刻苦を忍んで漸くにして案出し其の特許を出願するの運びに至りしが未だ不備の點尠ならずとして其特典を受くること能はず更に苦辛亦苦辛研究亦研究終には夫人自人まで鐵鎚を振ひ不撓憐憫其製作に身をやつすこと實に十年天は遂に此の發明家に幸福を下して今日見るが如き精巧なる製網機を案出するを得せしめたり時に明治三十八年にして其年十二月特許認可の月桂冠を受くるに至れり當時君の得意と歡喜とは幾何なりしぞや、君が發明に係る製網器の特色は一々爰に列挙するに遑あらずと雖も先づ其使用法極めて簡易にして婦女子にても尙ほ能く輕快に使用し得ること、其製網の優美なること、製繩力大なること、是れ宮崎式繩燃器の特色にして九州沖繩聯合共進會に於て褒賞を受くること數



度に及び販路極めて廣大なり、即ち大阪、住吉、新瀉、京都、岡山、香川、和歌山其他各地に支店を有す、君資性英邁一旦事に志せば不屈不撓千難に堪へ萬難を排して必ず之を貫徹せんば已まざるの大猛心を有す發明家として眞に先天的英資は縣下偉傑と云ふべし、又君は盲目なりと雖も諸事に明かにして職務に恪勤座ながら多くの職工を愛撫督勵す、嗚呼君は夫れ當世罕に見る發明家にして事業家なる歟、欽す可し、敬す可し。

**和田圭城君** 肥前刀圭家多士濟々恰も彼の戰國時代群雄割據せるの觀ありて其優劣輕重を指點し得るもの無しと雖も而かも極天の星の如く天下の聲望翕然として其一家に蒐まる所の者豈神埼郡城田村の和田醫院ならずとせんや、抑々院主は和田圭城君にして其の家系は代々醫を以て地方に知らる嚴父は正之助と云ひ正齡五十七才其の術や蘊奥に亘り殊に眼科の如きは精妙扁鵲の伎倆あり、長兄常雄君も亦大正六年九州醫科大學を卒業し爾後同大學第一科に入り稲田博士に就き全科の研鑽をなし今尙井戸博士の下に内科の研究中なるも毎日曜日歸院し内科の診療に従ふ現院主和田圭城君長崎醫學專門學校を卒業し直に九州醫科大學第一教室に入り一般外科に就き三宅博士の指導を受くること三ヶ年更に同大學耳鼻咽喉科並に皮膚科の研究を卒へ大正七年四月歸郷嚴父の業を繼承して院主となる、嗚呼此の如き精熟達練の良醫を以て一家擧げて起死回生の業に當る而も患者に接する親切懇到、病根を診する周密巨細、や地名城田を呼ぶに、人、圭城と唱へ令聞噴々たり、現時醫院新築宏壯を極むると雖も尙狹隘を告ぐるの盛況たり、眞に世人が肥前東部刀圭界の柱石として尊仰する和田家に對し記者萬腔の敬意を表して以て君等の健在を冀望して止まず爾々。

**松永甚六君** 夙に神埼町に齒科醫を開業し地方斯界のオーソリチーとして名望噴々庶民の信頼を一身に鍾めつゝあるは君なり、君は明治二十一年を以て生れ幼より才氣人に過ぐ其郷校を出づるや志を醫學に立て東京齒科

醫學校に入學し困苦勉學するところありしが家情君をして永く遠隔せしむるを許さず止むなく中途退學す歸來郷土に於て初志の貫徹に努め百慾を棄て螢窓雪案不屈の勉學をなし大に修得する所あり、大正四年九月齒科醫開業試験に合格す、茲に於て其初心を貫き更に奮起して各地斯界の大家を訪ね切磋琢磨の研學をなす事三歳、大正六年十一月現地神埼町に開業す、爾來其職に勵み近時斯界の達腕家として頭角を顯す、偉なる哉。

**野副主一君** 博愛仁術を施し救世濟民を以て世に立ち聲望隆々たる君は神埼郡蓮池に於ける有数の刀圭家にして安政四年十月二十八日を以て嚴父正定の長男に生る家は舊蓮池藩士にして地方門閥たり君幼にして穎悟才氣群童に勝る藩校成章館を出で、醫學に志す爾來營々孜々斯學を修め明治八年醫學開業試験に合格し更に上京して北里博士の指導を受け實地研鑽實に數星霜、明治二十九年歸省直に佐賀縣立病院に職を奉じ斯道の淵奥を探る事茲に十二年、明治四十二年郷里蓮池町に開業す爾來今日に及ぶ、君全科に通ずと雖も就中外科婦人科の如きは其特技とするところ眞に精練熟達蘊奥を極め精妙扁鵲の術を得たりと云ふ爲人資性濃厚獻身的力を濟世救民に盡す亦敬す可し。

**廣木七郎君** 汎く地方の便宜を計り公共の利益を謀るもの所謂一見識あるの士と稱すべし獨り自己の營利に汲々として資財を得るもの何ぞや之れを名士と云ふ事を得んや人を利し己れを利して而して後始めて名士とも紳士とも英傑とも云ふべし茲に廣木七郎君其人ありと云ふべし、君は佐賀郡東川副村の人明治十年三月八日を以て生る家累代醫を業とし名醫を出す、君亦地方名醫として其名噴々たるのみならず意度高潔にして地方公利民福に盡すの念熾烈なり常に村會議員、郡會議員として地方治政に貢獻す、其外帆船株式會社を創立せしめて取締役となり明治四十一年には郡産業組合の組織に盡瘁して同組合長に推され現に其職に在りて民利公益に努む亦醫流界に在



りては郡醫師會評議員、諸富警察醫、諸富セメント工場囑托醫、其他生命保險株式會社數社の囑托醫を兼ね斯界多大の貢獻者たるは何人も認識する處にして其聲望郡内に巍然たり、因に記す大正三年佐賀縣知事より君が平素の誠意は終に表賞せらる、是れ定に得易すからざるの一事なり今や漸々人心の輕佻に流れ浮薄なる澆季の世君の如きは眞に愛國厚生の傑士千古罕見の刀圭家を以て待つべきなり偉なる哉。

江口淺次郎君 君は慶應三年十二月を以て生る嚴父辰右工門の次男かり家郡内屈指の門閥にして先代辰右工門氏の如きは達識勤王にして多年公共事に盡瘁功績顯著なるものあり、君人となり商才經營の才あり初め土木請負業に従事し明治三十五年製材業を創始す爾來以新嘗膽の勞を積み千險萬難を踏破して以て今日の盛運に至る今や一大工場を設置し設備整頓多くの職工を督勵して愈々大發展の機運に達せり、將來刮目に値す、君性資温良不撓果斷の奮闘兒なり吾人溢美の贊辭を奉す。

角田利吉君 君は神埼郡千歳村の出生なり近時東川副村諸富に於て貸席業を經營す御幸樓と云ふ粹界第一の樓廊を以て稱せらる君天資豪邁にして一種義侠心に富み強者を制し弱者を援くるを好む此の故に難を人の爲めに累すること屢々なりしが今は自的一心家業に務む信用あり現に同業組合取締役たり君正齡四十九元氣旺盛なり。

#### ◎佐世保市

中道厚君 沈重の性温厚の資最も調和に適し且部下を使役するにも嘗て疾言急喝せず人に接して惡感を抱かしめず官吏として實業家として適く所好評ある中道厚君は慶應二年正月廿八日を以て生る幼より穎悟才氣人に過ぐ明治廿一年文官試験に合格して海軍屬に任せられ會計官吏となり日清北清及日露の三役に従ひ國家の爲め其責務に盡瘁し功績頗る顯著なり同四十一年退官して佐世保水交社に入り物品部を擔當し傍ら實業に従事せり其後海軍

糧食用達を業とし機敏以て其職を完ふし海軍部内の愛用兒となり以て漸次に業務を擴張し近時大阪住友伸綱所其他三四の製品代理店となり佐世保上町廿七番地に堂々門戸を張り而して以て聲望隆々世の好評を受く。

内田壽君 佐世保市に於ける内科耳鼻咽喉科のオーソプシーを人間は、必ず指を醫學士内田壽君に屈せん實に君は佐世保市刀圭界の巨星として市民の仰慕敬視は一身に蒐まる其技能を問は、巧妙熟達にして懇切患者に接しては一視同仁博愛仁慈を以て自己の分とし民衆救養を以て其業とす爲めに來往診を乞ふもの頗る多く日夜其難を絶たずと云ふ偉たる哉君は明治二十四年十二月一日を以て福岡縣宗像郡東郷村に生る君年少にして言動凡を超へ嫩葉早く香を放てり長するに及んで學を好み東筑中學を出で熊本第五高等中學校に入學し螢雪の功を積み大正元年成績校友を抜き卒業するや志を醫學に立て直に福岡醫科大學の門に入り切磋琢磨の勉暑常に怠らず大正五年優良の席を以て同校を卒業し更に一ヶ年間同大學に於て耳鼻咽喉科に研學する所あり歸郷直に佐世保市を選びて同市濱田町に開業せるが忽ちにして君が超凡の手腕と卓絶の智識は四隣に響應し斯道大家として治を乞ふ者門前織るが如く従つて醫院狹隘を告げ大正七年七月現地本島町に移轉し専ら起死回生の業に當る、君性來温厚篤實所謂温良謙讓の君子的醫家にして才識最も圓滿態度極めて親切其人に接するや一脈の春風融々として對者の面を吹も覺へず敬愛の念を生せしむ而かも春秋豊富にして醫家の通癖無し、復た以て其前途を祝し其人物をトすべし。

河原徳馬君 君は佐賀縣杵島郡須古村の出生にして現時佐世保市福石町に住し醫術を開業し内科専門を以て鳴る君自から奉ずる寡慾儉素にして華奢安逸を欲せず其志す所は國を愛し民を恤み醫業を振作するに在り此の故に拮据經營孜孜として努め汲々として怠ることなく一意専心業務の普及を圖り誠心誠意患者に親切に叮嚀懇篤唯其治術の及ばざらん事を恐る而して君常に謂はく醫は仁術なりと世人の疾患苦痛を救助するにあるなり安くんぞ遊樂



安逸を以て其職を忽緒に附するを得んやと晝夜を厭はず其職に執掌す茲を以て世人の大に信頼し君の治療を乞ふもの續々として今や我國西門樞要の大市なる佐世保市に在て堂々其名を恣にす毫も異むに足らざるなり君明治十一年十二月五日を以て生る其郷校に學ぶの時より才智人を抜き學績優良にして同級の尊敬を受けたり漸次進みて長崎醫學專門學校に入學し明治四十年十一月學術共に優良を以て同校を卒業し同年十一月佐世保市醫に任ず同四十一年十一月長崎縣疫疫委員に任命せられ同四十二年四月佐世保中學校醫を囑托せらる而して同年五月佐世保市醫を辭職し現地福石町に開業し幾多の公醫を兼ね佐世保醫師會理事又は評議員に推され地方醫流界の爲め盡瘁す而して其聲望は大正三年六月佐世保市會議員に當選する所とあり公利民福に盡せる甚大なり抑々君の人と爲りを論ずれば品格高潔にして資性快活然も才氣流露し俊測として眉宇に現はる猶春秋若く平生各種の雜誌書籍を耽讀し未だ會て修養を惜らずと云真に君の如きは現流刀圭界の一異彩と謂ふべし。

#### 丸田 治助 君

君は明治八年九月十日を以て東彼杵郡日宇村に生る同二十八年十二月海軍兵を志願して北清及日露の兩戰役に參加し勳功に依り勳七等青色桐葉章並に功七級金鷄勳章を下賜せらる累進一等兵曹に進み同四十四一年豫備に編入せらる翌年二月日宇郵便局長を拜命し以て今日に至る十一星霜の間會て欠勤なく其の職に勵む亦傍ら地方公共の爲め直接間接盡瘁する所多し君資性温良寛雅にして行操卓越なり殊に不信不實の措動なく人に交はる城壘を設けず肅然として猛からず而して氣稟明敏博聞強記なり是れ君が天稟自然の風采なり此の風采は正しく君の性行を描寫して誤たず故に君を一見するや直に愛慕の念敬慕の心生するなり而かも君が今日迄の經歷は其一斑を見るに過ぎざるのみ尙ほ記すべきもの多々あると雖性來恭謙口を緘して語らず故に記者は唯其梗概を叙するに止む諒せよ焉。

#### 迎 文 太 郎 君

君は市外福石町の資産家にして明治二年五月二十八日の出誕なり君堅操能く其豊産を保ち放縱逸情に流れず鄙者に失せず儉素自から守り拮据勉勵して家運を隆昌ならしめ一方には私財を擲ちて公利民福を冀圖するに汲々たり此の故に夙に郷黨の推重を受け現に郡會議員たり、君資性温和にして磊落居常偏幅を飾らず毫も虚禮の風なく人を偶するの道を知り座談を好み能く語る而かも亦として犯すべからざるの威風ありて不知不識の間に對者をして敬慕の念を起さしむ、亦敬愛すべき哉。

#### 熊谷彌次郎君

氣力旺盛志操堅實の間へ高く學力豊富先見卓識の明を有し嶄然佐世保軍港用達商界中に卓出せる君は山口縣長府町の人明治十二年十二月十日の出生なり君幼より穎悟夙に學を好み才識共に庸衆を抜ぐ其專修する處機械學にして其造詣する所最も深きに至る初め吳海軍工廠技手となり研鑽修養怠らず夫れより戸畑鑄物株式會社の聘に應じて入社、是れ君が社會的活動の第一歩にして君が天稟の英才と豊富なる學殖とは日ならずして儕輩を抜き社に居ること僅々にして一躍佐世保支店長の榮職に拔擢せらる、由來佐世保は我國四軍港の内最も重要な地歩を占め機械給用の第一位にして同社支店亦出張所中極めて重視せらるゝの地位を占む君茲に其の榮位に就き智略と果斷とを以て運籌畫策能く機宜の措置を誤らず益々發展の氣運に嚮はしめ在勤すること數年、一朝大に感ずるや斷然同社を辭し自から佐世保市濱田町に於て熊谷商行なるものを起し機械器具其他材料品の海軍用途をなし又同時に長崎市馬町に出張所を設け海陸機械設計製作及機械工具鐵材等其販賣業に躍如たり又近くは支那福建省鐵山古鐵内地一手販賣人たることを契約して歸朝し機敏熱誠其事に當る、君大正六年十二月の開業にして日未だ淺きと雖名聲噴々業務日に發展しつゝあり而して年齒今や四十一氣力旺盛前途極めて春秋に富む將來の飛躍蓋し大に刮目に値するものあるべきを信す。



### 花田寅吉君

夙に少壯の熱心家として炭坑社會に頭角を顯す君は佐世保市小佐世保免川鈎炭坑の經營者にして福岡縣宗像郡河東村大字山田の人なり明治七年七月十二日其郷に生る君幼年時代より弱氣に富み礦業事業を好み常に此の事に留意するところあり故に炭坑界には豊富なる經驗を有し福岡縣鞍手郡木屋瀬炭坑の礦務課長として辣腕を揮ひし事あり君平素思へらく將來立脚の地を定むるには自己獨立の事業を開くに如かずと依て寸暇あれば各地を奔走し適地の搜索をなして止まざりしが偶々前記川鈎炭坑の事を耳にし之を買収して採掘事業を始むる事とせり由來川鈎炭坑は其所在さへ判然せざるの觀ありて殆んど社會に之を認められたる事なく今日に至れるが大正五年十一月君が着炭するに及び理想的運搬機關として架空索道路を新設する等事業の擴張發展は漸次隆盛に向ひ其頭角を地方礦業界に赫出するに至れり抑々君の人と爲りや豪懷落落殊に義俠に富み部下を愛するの清情に富む爲めに義の爲めには萬金散じ盡すも尙惜まざるの概あり而も堅剛の腦力を蓄へ周到なる常識を具へ毅然たる態度不屈なる所信容易に狂ぐ可からず漫りに奪ふ可らざるものあり嗚呼それ此の如き坑主ある川鈎炭坑の將來刮目して待つべきなり好漢幸に健在なれ。

### 森 吉三君

君は年齢春秋に富んで理想に深く學殖豐富義膽秀で瀟灑如胸宇廣闊能く人を容る其氣才を問はゞ烟眼遠く未然を察し其意想を問へば雄略高く世表に出で、現代町子の上に在り又寛厚の風采優良の威儀一見人をして貴公子と見紛はしむ蓋し君が天然の美質が妙に其温情を表として滾々將に滴たらんとする者あるに依る乎又天眞の爛熳が優に其の麗貌に顯はれ霽々時に他をして欽慕措く能はざらしむるに依る乎何んぞ其姿態の毅富にして裕優なる君は佐世保市濱田町の人家富市屈指の藥舖にして森藥舖と云へば誰れ知らざるものなき迄に宏壯繁榮を極む君其家に育てられ幼にして穎悟夙に學を好み中學を出で、長崎醫學專門學校に入學し明治四十一年同校藥學科

を卒業して直に藥劑師となり志願軍務に服し同四十三年陸軍藥劑官となる而し退官後自邸に開局するや店務倍々昌榮發展に向ふ所となり斯界の人は君が明敏達識と寛宏温篤なる人材に憧憬敬慕して止まず切に乞ふて佐世保市藥業會副會長、大日本藥劑師會、長崎縣代議員呼君は明治二十年九月九日の生誕にして其春秋豊富なる非凡超越の才智とは來るべき新時代に於て雄飛活躍すべきは刮目して期待すべきものあり噫君の前途や慶すべし自重を望むや切ならざるを得ず。

### 米倉喜太郎君

方今世の所謂紳商と稱するもの多くは敏捷の才子、卒然就て語れ奇智湧出して快辯懸河の如し而も契行之を久ふするや紐狎漸く加はり心事陋劣時に随つて現はる、其一時を過過し富を精神に列するもの蓋し僥倖のみ、獨り米倉喜太郎君剛毅果敢不撓の資性を以て能く潮勢の表に聳立し勉旃數々壤虧の狂瀾を排し奮闘續行既類の商勢を挽回し競争惡弊を歴し模範を商界に示し之れ要するに才、理財に富んで氣果斷に決するの眞正の紳商吾輩唯米倉喜太郎君に於て之を見る、君は佐世保水産界の人明治二十年七月の出生なり君幼より穎悟夙に家業に志し佐世保水産界の發展に努め、君は大正二年佐世保市人口の膨脹著しきものあるに鑑み大々の魚市場新設の必要を認め有志者と相謀奔走大に力むる所あり遂に其效を奏して魚市場の設置成る、現今の資本金十萬圓株式會社佐世保魚市場即ち是れなり、君衆に推されて之れが監査役となり爾來不撓不屈の精神を以て拮据經營其措置悉く機宜に適し今や九州に於ける有數の大魚市場を現出するに至れり、又自己の業務としては魚問屋を營み本店を佐世保市萬津町一番地に置き支店を同市湊町、又神戸市魚市場内に置く、豈に且つ偉ならずや君元來一意専念實業の發展に維れ努め他に虚名を博する慾せず資性重厚にして沈毅温健眞に需々として春風霽蕩の觀あり將來の譽榮極まれりと云ふべく現代青年の龜鑑と云ふべし。



### 宮地金吉君

佐世保市島ノ瀬川の清流に沈める宮地石鹼製造所は明治廿三年五月の創業にして工場總坪六百六十餘坪資本拾貳萬圓を有し佐世保産業界の覇者たると共に九州最大の石鹼工場たること論を俟たず而して工場創業以來各種石鹼及リノリウム塗劑の製造を専業とし漸次發展し業務を擴張して昨年来倍々需用増加せしを以て工場を増設し現今に於ては電動機を利用するの盛況に在り、内部を製造部、研究部、營業部に分ち製造部を洗濯石鹼工場、化粧石鹼工場、製造仕上工場及貯藏場、乾燥場とし各場とも熟練なる専任技術者指揮の下に従業員を督勵し註文品の製造に日も猶足らざるの繁劇を極む、研究部には應用化學の専門家を主任として自他製品を分拆對照して製造部員を指導し原料の化學的試験及新原料の研究製品の改良等に没頭し營業部は納入品係、地方係、市内係會計係、庶務係等に區分し各自擔任の事務に忙殺され製造部と相呼應して業務の發展を圖りつゝあり、工産中海水石鹼及リノリウム塗劑は當店の専賣品にして二種共海軍工廠及各艦艇に指名納入の特權を有し其効力顯著なりこの好評を博し従つて各方面に需用増加しつゝあり、斯くの如くにして當所は多年の經驗と新進の學理とを應用し原料を精撰し品質を改良して以て新時代の要求に應じ需用者の満足を満たすに汲々たり爰を以て其名聲は地方人士の賞と共に天下に洽博せらる。

洗濯石鹼：化粧石鹼：海水石鹼：絹練石鹼：粉末石鹼

#### 製造種目

炭坑石鹼：加里石鹼：浮石鹼：リノリウム塗劑：各種

### 山口秀松君

天の將に斯人を成さんとするや先づ與ふるに艱難を以てし其心膽を練つて不屈の精神を養ひ筋骨を鍛つて霜雪の苦勞に堪へしむ富貴は辛酸に生れ利達は萬艱に成る非常の苦地を踏すして功名を一簣に俛伴せんと欲するものは蓋し投機者の事のみ假令一時を龍收し得たりとするも其榮や必ず長からざるべし見よ人生の有す

る格言は艱難汝を玉にするの語のみ、吾輩今山口秀松君に於て之れを見る、君は佐賀縣杵島郡中通村の出身にして明治十九年の生誕なり、近時佐世保市福石町に宏壯なる居を構へ鍼灸學士として無分流の蘊奥を極め其信用を擅するところなるが君が初めて其業に志すや危険なる青年期をして世の浮薄なる風潮に因はれず立身の一路を辿りて晝夜を厭はず辛苦攻學す然れども一度志を決したる君は百難前に塞がり萬難後へに従ふも毫も屈せず其目的を達せざれば止まずと、遂に端緒を開き私立西海鍼灸學院に入學を宗ふし爾來益霜雪夙夜匪懈の功積んで大正元年三月成績優良を以て同學院を卒業し其年九月佐賀縣にて執行の内務省鍼灸術開業試験に合格其免狀を下附せらる、而して翌年二月無分流相傳宇和川義瑞氏の塾に入り更に其流義を研究し七月修業と共に奥義皆傳を受け九月無分流相傳佐賀支部長を囑托され三年八月東京日本鍼灸學院へ入學四年七月修業の上五年九月日本鍼灸師會長崎縣支部長を命ぜられ更に十一月同會佐賀支部長を命ぜられしが大正六年十月鍼灸學得業士の稱號を得東旭流鍼灸術傳授所に入り東旭流の奥義を皆傳され十一月本縣愛野村宇和川鍼灸療病院副長となり大正七年五月東京帝國大學に論文を提出し六月鍼灸學士の稱號を認許され大正七年十一月宇和川鍼灸療病院副長を辭し同時に無分流相傳本部長崎縣支部長を命ぜられ十二月一日より現地福石町福石觀音東隣の勝地をトし新築醫院を開設して其豊富なる學術と蘊蓄せる經驗とを以て患者に接し既に名聲遠近に喧傳せり、尙ほ助主江副春雄氏あり、以下門生若松精一、山口辰市、里崎角次其他數名共に叮嚀懇篤患者に接す、抑々山口秀松君の資性を論ずれば、英敏にして自立忍耐の精神に富む恭謙抑遜にして能く人に交はり而して鴻志奮然として目的の彼岸に達せずんば止まざるの氣魄あり、是れ即ち君が今日の聲譽を致す所以にして艱難汝を玉にするの事實を君に於て展開せしめられたるの感あり、嗚呼君は眞に斯界の俊傑と云ふべし。



### 瀬野喜五郎君

昔者歐洲大陸に覇業を稱したる「グロリス」に二強國あり、一つは慧敏伶俐勇斷果決の風を尊べる進取國「アゼン」にして一つは蠻俠凌絶豪放下覇勁節義の高によりて不撓勇邁するの「スバルタ」なり吾人は今我が日本に於ける四國九州の二洲を見るに如何により兩洲風の彼の「アゼン、スバルタ」に酷似せるかを見る而して是等犯すべからざるの精神的洲風は遂に兩洲間に於ける特殊の人物を産めるに於て尙一層の快哉を叫ばずんば非ざるなり、見よ佐世保市花園町の人瀬野喜五郎君の人性を眞に之れ伊豫の高嶺石槌山の下に生れ氣魄逸逸熱心奮闘なる確にスバルタとしての伊豫根情より出でたる一個の萬全なる典型と云ふべきなり、君明治三年一月廿五日を以て呱呱の聲を擧げ長するに及び君の豪放勇邁の志は担々たる小事に齷齪する不能遂に其勇壯たる氣魄は奮然として郷里を出づ是れ實に明治三十七年日露の風雲一變し鋒を執つて立てるの時なり當時佐世保軍港に於ては帝國海軍の策源地として乃至軍需品の供給地として鼎の湧くが如き觀を呈し雜聞般賑の狀言語に絶したり、此の時に當り君は當軍港に現はれ空拳を振て能く中原の鹿を捕へ以て國家に貢獻せんと海軍用達商となり大に盡す所あり爾來戦ひ終局を告ぐるも尙且つ其職に努め現に海軍用達商として名聲を博す然り而して内には家庭の和風を樂しむ模範柑橘園を開設し漸次擴張相次ぎ約八段歩を栽培す亦傍ら木材商を營み太田町百二十七番地に於ては家具製調の専門家井上信次郎氏を聘して斯道に當らしめ旭日隆々の盛況たり是れ實に氣魄逸逸なる伊豫根情より生れたる典型にして實に君が平素の奮闘を思ふの時今の繁榮と其成功は確かに之れ偶然に非らざるを知るに足るものあり亦偉なりとすべし。

### 佐藤秀春君

本邦泰西文明の濫觴は天文十九年平戸に起り西洋醫術の發祥地は依然長崎縣たりし所にして明治維新後も長崎縣は醫學上隱然の重鎮を占すと雖も他面藥劑法の之れに伴ふにあらずんば如何ぞ能く其の名を完ふするを得んや君の慧眼なる夙に藥劑法の研鑽に致し刻苦勵精遂に斯界の明星として縣下佐世保市に於て赫々たる

聲望を博するに至れり、偉なる哉君は明治二十五年二月六日を以て生れ年少中學の科程を卒ゆるや將來藥劑師となりて救世濟民の實を擧げんと斯道に邁進すること數年愈々藥劑法の濟世救民に偉大の効あるを認知するや直に九州藥學專門學校に入學し銳意勤學するところあり明治四十三年十月優等を以て其業を卒ゆ、爾來斯學の蘊奧を窮はめんと欲し大分縣立病院に奉職し夙夜勤勉斯道を實地に研究すること實に五星霜、更に進んで鑛山分拆及一般分拆學を學ぶ事星霜二半に及ぶ、爰に於て其蘊奧を極め大正六年十二月市内榮町に開局して熱心此の業に執筆し斯界稀有の藥劑師として名聲を博す、而して店務常に殷賑を極め殊に君が特賣の寫真材料の如きは九州全土に販路汎く亦佛國及スペイン産各種純良葡萄酒セレーヌ商會代理店として名あり君為人聰明豁達儉素質朴毫も驕奢の風なく人に接して城府を設けず温和懇切婦女子無識の者と雖其言ふ所を盡さしむ其人を愛する親疎を以て輕重せず殊に小兒は君の愛するところ身業務の繁劇に處するも常に愛兒を懷抱して放たず是れ君の天質慈情の然らしむの所ならんか嗚呼舉世滔々名利の爭奪を事となし輕薄の徒輩比々多き現世君の如きは異數の模範を以て稱揚すべきあり。

### 佐藤時夫君

春秋富んで重厚着實空論を避け實行を旨とする佐藤時夫君は現時佐世保市上京町に於ける藥種商にして明治二十八年三月五日佐賀縣小城郡牛津町に呱呱の聲を擧げたる人なり、嚴父の代より藥種商を營み明治三十八年七月佐世保に來住す、君幼より伶俐重孝にして能く其業に勉め嚴父逝去後に於ても先考の遺業として益々隆昌ならしむるに努め大正七年三月廿日を以て業務擴張を劃り現地の場所に移轉し更に全年十月十四日長崎縣藥種商試験に於ては數多授驗者の中に優を抜き次いで靈藥胃腸病藥製ナヲースを劑發賣して其奇効に世人を驚嘆敬服せしむる等着々功を奏しつゝあり、君性清廉潔白、悍に機略あり前途の春秋遠遠にして多望なり、未だ以て君が將來を上下する時に非ずと雖も君能く今日の奮闘止むなくは將來の大成期して俟つものあり夫れ君自重せよ。



### 小柳八郎君

佐世保市に於て夙に齒科醫として達腕の稱遠近に洽博たるもの之れを齒科醫學士小柳八郎君とす君は佐賀縣杵島郡福富村の人明治二十七年四月十日を以て其の郷に生る夙に着眼慧敏、君思へらく齒科醫の將來大に有望なるを看取し志して日本齒科醫學專門學校に入學し精勵勤學する所あり大正五年同校を卒業し次いで東京に於ける斯界大家の門に實地の研究を積む事年餘、大正六年歸郷するや其年九月佐世保市宮地町に開業せり爾來其業に執掌す、君爲人温順にして恭謙重厚にして篤實毫も信義に反せず然も豊富なる學殖と俊敏なる靈腕とは斯界噴々たる聲望あり今や患者君が診療を乞ふもの陸續として業務日に發展す、豈偶然ならんや亦盛んなり。

### 安部彌八君

温厚篤實の性を具し其の處するところ嘗て實業道徳に反せざるもの安部彌八君の如きは罕なり明治元年十一月二十日舊佐世保村に生る家代々農業を營み來りしを以て君も亦前半世の歴史は殆んど農業を以て埋めたりしが、明治十九年軍港開設の事あるや舊佐世保を葬り大都會を迎ふる事となりしを以て爰に雄圖勃々として起り悠々として農に安んずる不能遂に身を實業に投せり而して明治四十二年海軍用達商となり帝國海軍用達商の霸王吉村氏の信任を受け株式會社吉村商會佐世保代理店長となり電氣諸機械其外綿類等の海軍用達を専務せり、尙君は帝國著名の株式會社代理店を兼務す即ち東京共立電氣電線株式會社代理店、東京廣瀬商會代理店、東京入江製藥所代理店、大津三菱製菓株式會社代理店、滋賀縣三菱製菓株式會社代理店、大阪北村鐵工所代理店、大阪太田螺旋合資會社代理店、若松江口合名會社鐵工所代理店其他二三の大社會代理店を兼ね其事務所を俵町三〇一に置き其職に繁忙せられ聲望隆々用達商會に毅然たり。

### 小林梅吉君

君は佐世保市埴濱町に造船所を開設して其業に従事し信用を博す、君廣島縣御調郡中島村の人なり明治二十七年市外赤崎免に於て從業せしが要塞地帯の故を以て川下免に轉じ明治三十九年現地埴濱町に小林

### 大曲勳君

着實にして温厚聰明にして明敏なる藥劑師大曲勳君、夙に勤勉窮行の範を示し毫も驕誇の風に染まず帝に一意専心自己の業務に勵み其天職を完ふするもの萬緑叢中紅一點の感なき能はず其來歴の叙すべきもの多々有るを知ると雖君元來恭謙叙するを厭ふ依て編者は其意を體し擲筆す。

### 伊源熊君

君は鹿兒島縣奄美大島の出生にして現時佐世保市島ノ瀬町に救命堂を開設し日本主要の都市及滿鮮地方遠く歐米諸國に特約店代理店を設け滋養強壯萬病藥蘇鐵實細末を盛んに發賣しつゝあるが胃腸病神經衰弱皮膚病淋疾等に効顯著しく全治者よりの禮狀は事實同家店頭に堆積され枚舉するに遑あらず殊に蘇鐵細末大正膏は小供の疥癬水虫等には使用後數時間にて卓効顯はれ數十年病みし胃腸病等も二三袋にて根治せりとの禮狀もあり前福地當鎮守府人事部長の如きは妙藥蘇鐵實細末の奇効聞取概要覺書と題せるもの數千言を列ねて印刷し部下軍隊に配付し文中柴師團長令息三年に亘れる皮膚病森機關大尉令息十年以來の同病が蘇鐵實大正膏にて根治し中村大尉の胃腸の健全になりし其事實なる効力を推奨し試用を勧誘されし事ある程なるが海軍のみならず陸軍に於ても非常に本劑を愛用賞嘆し衛生講話等を試み盛んに軍隊に使用を勧つゝありて角長崎要塞司令官は本劑を服用し効頭を得と且つ使用携帶便宜價格低廉に付軍人家族方に之を勧誘すとの紹介狀を寄せられし程にて亦北松浦郡吉井村鴨川某の如き數年苦吟もし瀕死の状態にありし難症の胃腸病全癒し安村當署長母堂及久留島電燈會社支店長も服用の結果健全になられし由にて今や滋養強壯料は眞正蘇鐵實細末に限るとして一般家庭名醫大家の好評噴々然かも陸海軍隊御用品として納入しつゝありて佐世保要塞司令官武富將軍東京陸軍大學教授昇直隆氏其他貴賢名士を初めとして自愛



の資料となし平素同細末を愛用せらるゝと此處を以て見るも同細末が如何に世人の好評を博しつゝあるかを知らんと共に之を危篤の病人に施せば瘞人も蘇甦り漸次健康體に復して身體鐵の様に丈夫になり全治する云ふので蘇鐵實細末と名付しとは實に故ありと云ふべし因に記す發見者伊源熊氏は豫備役海軍一等機關兵曹勳七等の肩書を有し嘗て日露戰役に際し勳功ある人資性温厚同情心に富み博愛の心深く人に接して親切丁寧人をして其行爲に満足せしむ余は切望す世人の爲め同細末を以て益々君が發展を祈る。

### 藤田鑛業所

#### の經過經營の炭坑

肥前鑛業界に於ける大小幾多の採炭及販賣事業は歐洲戰亂の大影響に促進せられ今や實地に抜き肥前鑛業界に於て縦横の手腕を振ひ穩健着實譽譽兩つながら喧傳せられ九州鑛業界の色彩なりとの稱ある藤田與一郎氏は北松浦郡大野に二坑、同郡柚木村に一坑、都合三坑を有し居れる外、熊本縣天草郡に二坑及大東鑛業所坑長として將た九州石炭合資會社取締役として噴々の敏腕を振ひ着々事業の發達を實現しつゝあり而して其理想の高大勢力の絶倫なる又商機を見るの敏なる巧く現在に立脚し將來を遠觀するの智識手腕の非凡なるは蓋し鑛業界稀れに見るの達人なり、而して我が帝國が戰後世界の經濟戰に處するに其主要を以てすべき我が鑛業界に藤田與一郎氏の如き一大人物あるは吾人が意を強くする所にして而も肥前鑛業界に其人物を得たるは吾人幸福とする所なり、君が肥前鑛業界に在りて將來一大飛躍を畫し以て大々の活動を開始せんとするの地方鑛業家に取り絶大の刺激たると同時に北松浦郡の炭坑界をして益々發達せしむる動機となり延びて其基礎を固むるの機會たらしめ亦之れが實現を促進せしむる上に於て多大の効果あるべきなり、現在に於ける藤田鑛業所經營北松浦郡三炭坑の内

### 中越炭坑

は北松浦郡大野村に在り東彼杵郡佐世村山の田に隣接し海軍水源地の上方に當り居れるが坑

區廿萬坪を有し吉原梅吉氏は監督經營し居れり吉原君は少年時代より嚴父と共に石炭の採掘販賣事業に従事し既往三十有餘の長歲月の間忍耐不拔の精神を以て之に従事せる豊富なる智識經驗を有する達腕の人物にして藤田鑛業所の重鎮を以て目せられ居れり現在の藤田鑛業所經營の、迎山、大野の三炭坑は嘗て君が獨力經營の目的を以て之れを起業せんとしたるを時代の趨勢に鑑み迎山、大野兩炭坑は藤田氏に譲り中越炭坑のみ君之れを監督經營し居れる者なるが該炭坑は六坑區を有し既に二坑口は掘盡し現在は四坑を採炭し居れり、一ヶ月採炭量は塊炭三百萬斤弱にして事務員十餘名、坑夫二百數十名を使用し採炭及運搬上能く之れを督勵し着々として發展しつゝあり尙將來の發展計畫の一ツとして現在の本坑より東部に新坑を開鑿し以て採炭高の増加を計り其實現を期する豫定計畫の由なるが大正八年末頃軌道布設の曉に到りおば運搬法の完成と相呼應して大々の隆盛を期するは衆人の期待する所なり君資性輕快淡泊にして活達頗る果斷に富む其運籌畫策能く時運に添へり而も春秋豊富なり君が將來大成あるは吾人信じて疑はず。

### 迎山炭坑

藤田鑛業所の經營に屬し北松浦郡柚木村に礦區三十萬坪を有する迎山炭坑は大正五年十月起工し翌六年四月着炭したるが坑主藤田君之れを經營するに至りたる動機は現礦區三十萬坪の下層炭田五尺炭を試錐着炭すべきを豫測し其豫測を以て着炭するに至らば排水機を設置して大々の擴張する目的に出でたるものなり而して一ヶ月採炭高は三百萬斤を計上し居れり現在に於ては中越炭坑と同様運搬上不充分なる所あるも輕鐵完成の曉には運炭機關の充實と同時に一ヶ月五百萬斤以上を採炭する豫定計畫を策し居れるを以て着炭後未だ二星霜に足らざる迎山炭坑の將來は最も光明に滿ち前途の有望なる發言を要せざる所況んや經營當事者藤田與一郎君の敏腕達識を以てするに於てをや、同坑支配人は坑主藤田與一郎氏の女婿たる内藤佐次郎君にして氏は東京出身なるが齡春秋



に富み温厚篤實然も沈着の資性は好く部下事務員及坑夫一同を統御し着々成功しつゝあり因に現下の坑夫使用人員は二百五十餘名なるが將來は四百名内外の坑夫を使役し以て益々發展せん計畫なりと眞に刮目に値せり。

### 大野炭坑

北松浦郡大野に在り坑區二十五万坪を有し大正七年二月より新坑を開鑿し今や軌道を布設して盛んに採炭しつゝあり而して將來は第一第二の新坑に次ぐに第三第四の新坑を開鑿して地方礦業界に覇を抜ぐの發展は既に計畫せられつゝありて其實現は近かきにあるや必せり而も同坑支配人には坑主藤田氏の女婿たる伊集院兼吉君あり君は鹿兒島縣肝屬郡出身にして斯業に多くの智識と經驗を有す、君性慇懃謙遜、資、温厚篤實富んで驕誇の風なく上を敬し下を愛するの情に富めるの人なり爰に於て衆人に愛せられ部下其徳に服す、嗚呼夫れ藤田氏の配下、吉原氏の敏腕堅實なる經驗家あり、沈重着實の内藤氏、慇懃謙遜なる伊集院氏あり、實に事業と人物と完全に合致せる藤田礦業所の前途は恰も旭日昇天の概あり誠に礦業界の幸福と云ふべく國家の爲め祝福に堪へず、夫れ諸君幸に自重せよ余等君等の健康を祈るや切也。

### 中村京太郎君

靈峰と雖も雪を呼ばずんば尊からず大海と雖も怒濤蓋天の氣を吐かずんば恐るゝに足らず人の天下に業を成す又然り如何に回天の偉業と雖も鞏固なる基礎の上に非凡の事を成す然れども吾人決して其れを崇しとせず嗚呼中村京太郎君の今日を爲す吾輩世人と共に衷心贊嘆の辭を捧げんと欲するものなり君敢て恒産あるに非ず然かも何人の後援をも有せず若冠より斷起し炯眼能く時運の趨勢を達觀し非凡の稟才と驚異奮闘とを以て常に空拳を掲げて覇者の業を成す眞に之れ男子の本懐之れに過ぐるものあらんや「スマイル」曰く「天は自から助くる者を助くと、宜なる哉君能く獨往不羈顯赫卓識確信に伴ふに堅忍不拔の勇を振つて自から信するの道を邁進す絶倫の

勇の前何物か又成らざるものあらんや、君即ち終始一貫其守る所を失はず幾度か嶮路激濤の中に闘ひ平然として百折不撓尙ほ萬難も辭せざるの精神を抱養し度々襲ひ來る千難を排し努力奮闘以て自己の運命を開拓し遂に悠々今日の偉大なる事業を成し地方礦業界霸王の威をなせるを吾人畏敬措く能はざる處、又快漢の睨睥、一日と雖も青雲の氣を失はず而かも百萬の大敵中に大刀を挿して突入健闘するの概あらしむ氣魄の前に重ねて絶大の欽慕を捧ぐるものなり嗚呼君は北松浦郡江迎村の人、幼より天地崇高なる靈峰巨然として聳立せる白岳山の氣を享く青嶺豪放にして常に不撓不屈の精神は燦として群衆を風靡し殊に義俠に富み其乾分の爲めには萬金散じ盡して尙惜まざるの概あり、豪懷落落堅剛の能力を著へ周到なる常識を具へ早くより郷閭の中に頭角あり、斯の獨創力あつて斯の業成る、今や礦業界第一位の成功者として幸運日に加はり有望廣大なる礦區を所有經營し炭質優良斯界の好評を擅にし一面にはコークス原料として盛んに輸出をなせり而して近時徐々として公共慈善に盡し一層の色彩を添つ眞に當代罕れに見るの偉傑なり。

### 金子利吉君

天真爛熳氣力旺盛剛毅決沈一言をも贅言を弄せず其の赤銅色に焼ける筋骨の強壯に發達せる一見如何にも心身の健全なるを直覺せしむ而かも其健全なる心身の前如何に不撓不屈の勇あるかを忍ばしむ君は即ち小佐々村の坑區瀬五郎炭坑と共に既往二十年間方圓馳勉し以て今日の精華を來せし人なり、尙ほ鹿町村大串免に坑區八十萬坪を有し既に試錐を終り着炭せるが將來有望に嗚せり是れ殖産界の爲め一大慶事と云ふべきなり、又健息健女多々あり其長息は下士の肩書を有し青島戦に功あり又一男は軍務に服し尉官の榮職に在り而も長息の如きは帝國在郷軍人として範を四隣に垂れ兄弟和合志を水産業に立て肥料製造其他水産製造界に躍如たり。

### 内山多十郎君

君は佐々村鴨川炭坑の經營者にして明治二年十月十五日の誕生なり抑々鴨川炭坑は大正六年



三月の着炭にして位地は同村鴨川に在り、鴨川炭坑の名稱故に始まる、而して鴨川炭坑より採炭する粉炭は其七分をコークス原料炭に其三分は切込炭として鹽田用に販賣せらるゝものなり而も其炭質はコークス原料として縣下粉炭中の霸王と稱せらる、坑主内山君は斯業多年の經驗を有し從來幾多の苦辛慘憺を嘗め波瀾重疊有ゆる艱難を踏破して遂に前途の曙光を認むるに至り即ち昨年此の有望なる鴨川炭坑に着炭し爾來絶大の健闘を續け以て愈々好況に向ひ二十四萬坪の礦區をして五十五萬餘坪に擴張し設備整然而も八幡製鐵所に納入し其他註文に應じ能はざるの大盛況に向へり君人とあり着實清爽且つ活潑にして寛弘量滿の徳を有せり又子福長者にして九人の子實あり兄弟融合家庭和風に滿つ、將來の富榮推して知るべし、吁又盛んなり。

### 醫王山東光寺

佐々村中央に在り永享年間松浦二十二世天翁豊久公の代松蔭禪師の開山あり是より先き英殿

漢雄大和尚諸國行化の際佐々中山虎頭岩に於て日夜行せし時偶々山頭の松樹に日輪の降臨し玉ふを感じ正に靈地なりと確信し草庵を結び平生護持せる藥師如來の畫像を本尊とし醫王山東光寺と稱し二六時中念佛三昧に安住せる時松浦肥前守天翁公師の徳を慕ひ土地を撰擇して新に堂宇を建立し禮を厚して師を請して開祖となし併せて寺號を移されたり本尊藥師如來の畫像は豊太閤朝鮮征伐の時松浦二十三世覺翁弘定公守護佛として戰場に奉持し其代價として別に木佛藥師如來の像を刻みて安置せられたり、爾來幾百星霜を経て現代二十六世谷口虎山師に至る、師は明治廿四年六月三日福井縣に生る幼にして伶俐穎悟志を佛に立て十二歳の頃山本祖學の弟子となる、爾來登雪窓案の學を積み夙に博學庸衆を抜ぐ、大正五年東京曹洞宗大學を卒業するや帝國公道會各府縣巡回講師に拔擢せらる、次で六年三月東京市澁谷發昌寺住職に任じ全年十二月東光寺住職となり佐世保駐在軍人布教師を命ぜらる、資性温情能く上下に交はり自から人をして敬服せしむるの品性を具へ信仰熱烈宗界傑出せる人なり。

### 壽 福 寺 (眞言宗)

正親町天皇の御宇松浦家第二十五世道可隆信公の代天正十一年の創建に係り元早

岐廣田に在り長福寺と號せしを寛永十二年松浦家第二十六世法印鎮信公の祈願寺として現所に移轉せられし郡内著名の古刹にして江迎町中央の丘陵四境閑雅樹木鬱の間に在り、境内地藏尊を安置せり、又深江將監自及の墳墓此の山内に在り現住松園明毅師は久しく中里東漸寺住職たりしが明治三十四年現住に轉じ以て今日に及べり師慶應三年七月十二日生資性濃厚敦朴、信仰熱烈にして上求菩薩下化衆生、常に怨親平等の觀に住し物質的慾求の念に乏しく人情徳義の半面を解し唯其天職を完ふするに汲々たり而も師が現時混沌たる思想の外に超越し古びたる法衣を着流して平然たる精神は明光霽月も其清きを失ふの慨あり、殊に行ひ不信不實の措動なく眞に赤心赤誠言行一致の人なり、敬すべし。

### 中倉謙吾君

砂中に球玉を拾ひ得たるの感あらしむるもの是れを佐々郵便局長中倉謙吾君とあす其行ひ輕

飄浮薄の行爲なく身を持す儉素質朴毫も驕奢の風なく資性朴直にして其言行往々龜鑑とすべきもの多し眞に後進者をして模範たらしむ亦君が愛する所親疎を以て輕重せず唯だ理に通ずるを最も愛し理に違ふものを愛せず、其公共職を執るや叮嚀周密毫厘も假借せず其職の爲めには如何なる劇務に處しても之れを盡し終はらざれば止まず、其一を例せば近時礦業界の物興につれ局務頼みに加はり處理繁雜を極め従つて配達の如き往々遲延する事あり、爰に於て逓信事務の如何に大切なるを知る君は之れを憂ふる事甚だしく自から門戸をたゞひて配達をなすこと屢々あり此の如きは普通人のなし得て能はざる所君に於て初めて是れを見る故に人皆其徳澤に潤ひ其誠實を尊ぶ、君が地方衆庶の尊敬を受く寔に所以ある哉。

### 富村權平君

地方屈指の素封家として將た實業家として赫尖たる聲望を博する君は嘉永二年八月十一日を



以て山口村相浦に生る家郡中屈指の舊閑たり而して君に至る五代を繼承して醬油醸造業を營む又傍ら石炭仲買販賣を經營し佐世保相生町に支店を有せり資性賢明にして温篤各種の村公共事に盡瘁不淺而かも理財の道に明るく佐世保銀行監査役として地方金融界を圓滑ならしむるに努む。

**内山六衛門君** 銘酒惠美須、千代ノ松、白山の名と共に廣く其名高きもの山口村相浦の醸造家内山六衛門君なりとす家世々門閥として夙に郷黨の推重を受く君爲人温厚にして純清公明正義を理想とし數代繼承の古き暖簾をして益々隆運ならしむ宜なり其醸造酒の如き屢々褒賞を受領し販路頗る廣大なり、近時君は社會の滔々たる名利の爭奪を避け悠々自適の道を講じ賢息謙三君をして其業に衝らしむ、謙三君亦堅實重、謙讓の美風を存じ君か高亮の人格と家道とを發揮して遺憾なからしむ。

**中村 覺君** 地方醫流界達腕の稱ある君は中里村の人明治四十四年長崎醫學專門學校の出身なり君卒業後各地大家の門に研鑽を積み大正四年頃村郷里中里に開業す、爾來荏苒するに従ひ嶄然偉名を醫流界に博す、年齒三十三、尙は向來多年の經驗に徴し其達腕を揮ふあらば地方斯界の明星を以て仰視せらるゝや必せり。

**稻田左藏君** 其人物や和平其性格や温厚にして常に地方公共事に盡瘁しつゝ其職を完ふするもの之れを大野郵便局長稻田左藏君となす君選ばれて明治三十九年四月大野郵便局長となり爾來今日に至れるが其間電信電話の設置局舎の新築等通信機關の設備に君が盡瘁の甚大なるは地方民の其徳を仰敬する所にして而かも世の風塵を避け守錢奴の弊に染まず常に公利民益に力む而して其職を執る誠意熱心庶民に親切なり眞に敬慕値せり。

**長崎 鼎君** 長崎縣平戸は往古西洋文明輸入の根源地たりし所にして泰西文明の流れが始めて此關門を叩きしと共に所謂南蠻醫若くは蘭法醫なるものは最も先き此沿岸に傳來し然る後本邦各地に弘布せり従つて長崎の地

は夙に醫學校の設けあり本邦醫學校中最も古きに屬し大小の國手濟々として輩出せるが醫學士長崎君の如きは長崎醫界の產物にして而して最新式の醫術を社會に供給する點に於て特殊の光彩ある最新の刀圭家也、君は明治十九年七月六日縣下上波佐見村に生れ長崎醫學專門學校卒業後帝國九州福岡醫科大學校に入學し大正三年を以て卒業、爾來引續き同大學校に技術を實地に磨き斯學の妙理を究はめ其術精妙に越きたるを以て平戸町に私立松浦病院を開院し同院長となる、而して君が其蘊蓄せる手腕と温和の性格とは忽ち地方人の注目に上り暮年ならずして患者群集門前市を成すの盛況を呈す。

**吉川啓一郎君** 那參事會員として郡政に與かり學殖豐富才徳兼備の活火は能く時運變遷の微を照らし又刀圭家として蘊蓄せる神靈の敏手は能く地方醫界の進運を圖るべき卓見明識を有せり嗚呼此の卓見明識の士北松浦郡醫師會長の要職を負ふ所以ありと云ふべし君が現地平戸に開業して以來志を世局に傾け自己の職分のみ汲々たるを潔しとせず進んで地方公共の福利を進めん事に意を用ふ其功勞實に顯著なりとす呼名利の爭奪を事とする澆季の世君の如きは愛國厚生の刀圭家を以て待つべきなり。

**富 永 權三君** 平戸町齒科醫の名醫として地方に雄視せらるゝ君は夙に醫學に志し明治卅一年上京淺草向柳原町松浦伯爵邸内寄宿舎に入り東京慈惠醫院に醫學を學ぶ事二年、其課程を卒ゆるや今の東京齒科醫學專門學校の前身たる東京齒科醫學校に入學し勤學數歲、其全科を通じ優良卒業せしが尙ほ足れりとせず更に志して在京齒科醫大家の門を叩き大に研鑽するところあり爰に於て遂に斯道の奧妙を極め業成り家に歸りて明治三十七年平戸町中央宮ノ町上勝尾岳の東麓に開業す、爾來荏苒今日に至る君資性温厚篤實、佛教を信心し精神の修養を怠らず忠誠なる品格を有す。



鴨川松太郎君 前途有望なる少壯醫家として地方の信頼を一身に集つむるもの南田平村の醫家鴨川松太郎君なりとす君幼にして俊雋夙に學を好む中學を卒へ志を醫學に立て長崎醫學專門學校に入學し大正四年同校を卒業し次いで實地の研究を志し門司浦野病院に内科を、同原田病院に外科を實地に研究し更に神戸攝津病院博士桂田富五郎先生の指導を受け既修の學術を磨き大正六年七月歸郷現地に開業せり、爾來氏が性來の沈着周密は患者の信頼する所となり資性の淡泊は地方民の愛慕する所なり今や學校醫の囑托となり又大同、日華、中央等の大生命保險會社地方診査醫を兼務し名聲噴々たり。

石田源藏君 醫は仁術なりと云ふも方今眞に仁術たる所以を解して實際に處するものに至つては極めて罕なり舉世滔々として黄色の爲めに没頭しつゝある間に於て兄弟相携へて醫の本領を發揮しつゝあるものは南田平村萩田の刀圭家石田源藏君兄弟是れなり、石田源藏君は大正三年長崎醫學專門學校出身の醫學士にして其秀弟は熊本醫專出身の醫學士なり、院長石田君夙に内外科又皮膚病梅毒等其術精練熟達を極め常に世の風塵を避け民衆救養を以て其天分とあし其業を完ふするの他に嗜好通辯無し、而も患者に對し温和懇切を以てし資性沈着寡言にして温容あり其一脈の春風は對者の面を吹き覺へず敬愛の念を生せしむ、蓋し衷心深く養ふ所ありて然るべし正齡三十二將來好望の新人物たり。

出口鹿太郎君 君は醫界敏腕の名を以て既に噴々たる名聲あり君日露の戰役に軍醫として從軍し偉功あり凱旋後久留米に開業せしが歸郷家督を相續し嚴父の遺業を繼承して郷里自邸に開業せしが過敷村中央の縣道側に宏壯なる醫院を新築し是れに移り世の信頼を博す。

最 教 寺 (眞言宗) 現住職玉川光倫師は明治三十二年眞言宗大學の出身にして同宗界傑物を以て稱せ

られ今一休と練せらる、宜なり師は夢幻泡沫の如き浮世に戀々たるものにあらず常に身の榮達を犠牲に供し古びたる麻衣を着流して平然とし外塵に動かされるが如き事なし、或時は自から鎌を執り或時は耕す又興到れば奇言奇語而かも皮肉に事象の窮所を刺し缺陷あれば是れを衝く其言行又脱俗的の物多く而かも此の間往々惰民を覺醒感化せしむるものあり兎角宗界出色の人物たり。

誓 願 寺 誓願寺は天正十一年松浦家第二十七世泰嶽久信公の代三蓮社實譽上人本阿覺玄了祐大和尚の開山にして累代四十二世本郡内淨土宗界の巨刹なり舊藩中は數十ヶ寺の末寺ありしが今は八ヶ寺を留む、現住職權僧正藤井眞隆師は攝津國川邊郡伊丹町の人、大正四年誓願寺住職に任ず、師温厚篤實態度謹嚴人をして襟を正ふせしむ常に讀書に親み佛典に涉臘し學殖豊富人格崇高同宗界出色の人物たり、師現に攝陽所長、報恩傳導支部長、淨土宗長崎縣布教團副會長、長崎教區平戸組長の榮職に在り、嗚呼尊敬すべき哉。

友廣伊之助君ト川淵徳三郎君 温厚篤實の實業家友廣伊之助君は平戸薄香の人なり夙に教育界より身を實業に投じ地方水産界一方の霸王たるに至る君日夜業務に勉勵し常に信義は志を成すの本体たるを認識して未だ曾て信義に背かず誠實を以て其業を營む。川淵徳三郎君亦水産界一方の重鎮にして着實篤厚能く其業に勵み進んで國利民福を興さんことを慮り海産物製造業を盛にす、又近時澱粉製造業を創始して所謂世を益し自己を益するの策を講ず而かも近時水産界最も好評ある煮干の如きは君が苦辛慘憺の研究に依り其製法を發見せるものあるが今や流布せられて水産界其德澤に漂ふ、君が地方水産界に敬仰せらるゝ眞に所以ありと云ふべし。

益富要一郎君 地方屈指の舊家にして夙に郷黨の推重を受けつゝある君は明治八年八月廿四日を以て生月村に生る、家代々水産業を營み初代益富又左衛門時代享保年間の頃は肥前各浦々に漁場を有し捕鯨を營み一ヶ年捕獲



高優に二百頭に上り雇員三千人に餘り船舶二百隻の多きに達し九州水産界の覇權を掌握し富又時の大名を凌ぐの概あり當時藩廳に貸上金と稱し獻納せる金額實に十五萬二千二百二十餘兩然も其他獻金砂からず又鯨油を發明して公益を起す茲に於て藩主は祿百七十五石を嘉し鮪網代五ヶ所を賜ふ又黒田、細川兩公の御用を努め黒田公より祿五十石を賜はる等其勢力隆々一世を風靡せり然るに弘化嘉永の頃より捕鯨振はず藩廳又是れを憂ひて保護を與へらるも捕獲數漸次減退し遂に支ふる能はず安政年間之れを廢業し維新に至る、爾來波瀾曲折非運相重なり漸く凋落す、吁人生は鶩翁が馬の如しと、譬へ一城の王冠を戴く者と雖も終に榮枯盛衰の理は漏れずと、夫れ益富家の祖先嘗て時運の先覺者として一世に偉名を轟し哀はれ時世の逆運に處しては非運の極を見るに至りしなり然れども天は自ら助くるものを助くとは眞理なり現代益富要一郎君其名門の熱血を受け其家に呱呱の聲を擧ぐるや常に自家の興亡史に發憤し母堂久子の教養、仁徳、正事温情、常に處する所正義を忘れず切に自家再興の念を抱きし爲め家には常に水産業を營み誠意熱心地方殖産民福の爲めに當るを以て其衆望は絶へず村會議員たらしめ次ひて郡會議員に選ばる、又生月鐘詰組合長生月村捕鯨業組合理事等の譽職を負ふ而も三十二星霜の間生月郵便局長として局務に盡瘁し功勞頗る顯著あるものあり大正二年正八位に、大正三年勳八等を、大正六年從七位に叙せらる、今や君の令名と其勢力は恰も地方の羅針盤の如く威信最も大なり、眞に君の如きは家を興し國を富すの人と云ふべし。

#### 大川鉄藏君ト尾崎良作君

地方人士の敬慕を受け卓然一地方に於て勢力を占め名聲噴々たるもの大川鉄藏君尾崎良作君の二氏なり兩君は終始一貫水産業を營み自己業務を興隆ならしむるのみならず能く地方水産を振起し公益を増進するの純然たる實業家なり大川君はアグリ網の元祖にして資性温厚博愛仁慈にして公共心深く多年公私の譽職に任じ人の意表に出づ現に生月酒造株式會社取締役生月鐘詰所組合員たり而も村會議員としては町村制以來其

職に盡瘁せり又信仰心篤くして慈善行爲をあす事不尠永光寺總代を勤む、尾崎君は家に汽船會社を經營し數種の信用ある保險會社代理店を兼ね出でば水産界の牛耳を執り上操網、鮪立網、鮪大敷、捕鯨等其活動躍如たり又居常劇務に任じ敢て勞とせず村公共事に盡す事大なり即ち村青年會支部長、村鮪立網株式會社取締役、村鐘詰所組合員たり君正齡三十五歳春秋若く地方に敬愛重視せらる。

#### 那須直治君

君は明治二十八年嚴父那須直治の長男に生る幼にして穎悟奇骨峻々達識の士たりしは普く近隣の傳ふる處なり其長するや營業を繼ぎて醫たるべく危険なる青年期を奮闘と努力とに全意識を傾倒し毫も浮薄危険の風潮に囚はれず酷苦勉勵して中學を卒へ更に進んで長崎醫學專門學校に入學し多くの苦痛と辛酸を凌ぎ夜々勉其業を修め大正五年學術優良を以て卒業し直に郷里生月村一部に開業せり尙賢弟は熊本醫學專門學校に次弟は平戸中學校に在學中にして一家擧げて奮闘的勉學を續行し以て現代青年の刺戟劑たれり。

#### 渡瀬左傳君

生月村舖浦の開業醫にして家世々醫を業とし君を以て六代を繼承せり君は明治三十八年長崎醫學專門學校の出身なり資性温厚にして學術共に他醫を凌駕す。

#### 森壽太郎君

君は生月村水産業界の巨頭にして氣宇豁達一箇強健の精神を以て職分の道程に奮闘し膽略以て事に當り機敏以て乘すべきの時を誤らず唯能く自己の業を隆昌ならしむるのみならず地方殖産業界に盡瘁しつゝあり現時株式會社平戸海産商行監査役生月酒造株式會社取締役たり君明治二十二年生青年實業家として敬稱噴々地方實業奮闘の魁鑑なり。

#### 富山榮三郎君

混沌たる濁世常に言行一致を缺き偽善的紛飾の徒輩續出する今の世富山君の如きは言行一致にして其人格は猶純金の如く常に錆且つ變色の憂ひなき耳ならず其風趣自から欽すべき其天真の流露なる處に靄然



として掬すべきものあり君は明治十年平戸に生る幼より穎敏夙に平戸猶興館卒業後水産業に志す所ありしが明治三十五年生月村書記となり同三十九年生月漁業組合収入役となる同四十年更に村書記を奉職し大正二年其職を退き同年七月生月村耕地整理組合事務員となり専ら之れに盡瘁する所あり爾來志を實業に轉じ吳服太物及荒物其他諸式を以て店舗を開設し熱心其業を勵み漸次隆運に向ふ大正七年新築して宏壯なる店舗となせり又君は常に清廉潔白の意思を以て郷黨の瞻望を受け生月酒造株式會社取締役其他の要職を完ふす。

**豐永惣平君ト濱崎多十郎君** 不斷的不屈の精神に贏ち意氣旺盛にして地方水産界に活躍しつゝ信用を博するもの豐永濱崎の両君なり濱崎君は海産物仲買商を營み又鱈大敷を経営し終始一貫獅子奮進の奮闘を續行し近時生月水産界に頭角を顯はし家勢日々隆盛に趨かしむ豐永君は大正二年長崎縣遠洋漁業團に従ひ朝鮮巨濟島に於て鱈金着網を経営し大に斯業を鍛練する所あり大正六年三月歸郷現地生月に於て鱈金着網を経営せり又海産物仲買商を營む資性温厚能く其業に勵み家運日々進む、共に地方水産界の模範たり。

**法 善 寺** (淨土宗) 生月村館浦に在り元禪宗龍向庵常樂寺の末寺なりしが切支丹宗の傳播に依り寺院荒廢せしを以て慶長年間外教鎮制の爲め平戸淨土宗管願寺より智本源譽上人來りて之れを復興し淨土宗法善寺と改め上人を以て開山とす爾來累代の住職藩命を受け切支丹宗の鎮壓に努めたり明治四年常樂寺を此寺に併合し次で修善寺を合併せり現代三十九世を地田竟瑞師とす、師は大分縣大分郡松岡村龍泉寺より明治三十九年北松浦郡紐差村法樹寺に轉じ當時荒廢名狀すべからざる者ある法樹寺をして其の復興を圖り苦辛慘愴の間東西奔走して此の偉業を完ふし其中興開山に仰がる明治四十四年大島長徳寺となり大正六年三月法善寺檀徒の懇請に應じ現寺に入る、而して師は明治四十五年以來淨土宗長崎縣教區擔任布教師の要職を捧じ専ら布教に席を暖めず、師正齡三十八、資性忠

純舉止端正一片の丹心自から人の心胸に薫するの効あり而も内は一家に和平し外は衆生に順應し以て宗教界の面目を發揮せり、嗚呼欽すべき哉。

**松永十四郎君** 明治二十二年六月廿九日を以て生月村に生る明治四十年五月生月郵便局事務員を奉職して爾來其職に勉勵するところあり大正七年十二月村館郵便局長を拜命せり君資性温良にして沈着なり而も事務的才幹あり一般に信頼せらる。

**山田長三郎君** 温厚着實にして能く勉め業を起し衆を恤み名望地方に高きもの蓋し山田長三郎君其人なり君は明治十四年五月十四日先代文三郎の長男に生る家は大島村屈指の富豪なり其家代々水産業を營み慈善大家の稱あり君天性温良にして豁達燭眼能く世運の趨向を攪破し地方公私の福利を進めん事に意を用ひ君主唱者となりて同志を糾合し自から數万萬金を出資し大嶋金着網組合を組織す其創設に際しては同組合長に推され以て現時に及べるが其指導堅實にして一片の私慾なく關係者をして懸念なからしめ能く民人福利の實を擧げつゝあり眞に敬すべき人なり。

**平松彌五右衛門君** 大嶋村屈指の素封にして水産界の重鎮平松彌五右衛門君は慶應三年十二月十八日を以て呱呱の聲を擧ぐ家君に至る七代繼承の舊家なり君幼にして聰明長じて厚德慈善の志厚く先考の意志を繼ぎ地方公利公益を興すに留意し自ら財を抛ち地方の爲めに盡し又世の薄命者を憐み博愛慈善をなす僅少ならず此の故に表彰せられて其筋より賞賜賞状を受くる屢々なり又君が荷負へる名譽職としては常に村會議員、都會議員、郡水産組合議員又大正六年には所得税調査委員、大島漁業組合創立以來同組合長、大島村漁類賣買所管理人、大島村消防組頭其外枚擧に煩はしき程なり以て君が如何に地方に重きををせるかは何人も推知し得ると共に君が一擧一投足恰も一村



の羅針盤たるの觀あり而も今や水産界花々敷腕を揮ひ幾種の大敷網に或は製造業に躍如たり而して大正六年鰯飼付網を研究し良好なるを確知するや鰯飼付業組合を組織して盛んに之れを爲せり眞に肥前水産界の傑物を以て目せらる。

**大島 湊君** 資性沈着些の驕氣なく品行方正にして品格高潔なり殊に幼時より學を好み漢籍の素養怠らず常に地方民心の教導に心身を勢し庶民の仰敬を負ひ夙に其名高きもの大島湊君なり、君は大島村的山村社本山村社平戸村度島村社度島神社の社掌にして身を神道に委じ又大島郵便局長として明治二十五年より大正七年に至る滿二十六星霜の間其職務に盡瘁し功績顯著なり茲を以て賞勳局よりは大正二年正八位に大正三年勳八等に叙せらる而して大正七年同局長を辭し専必社務に勤焼し社會人道に盡す所大なり。

**大島村開業醫** 古へ即ち稱す醫は仁術也、今或は曰ふ醫は貧術也、噫醫の本領抑々何れにありや然れども醫を仁術と云ふは精神上の事なり之れに反し醫は貧術と云ふは醫外形上の事也一は餘りに内に束縛せられ他は餘りに外に拘泥せるの言也、又曰く上醫は國を治し下醫は病を治すと、是れ亦職業の高下を認めたる舊式の思想のみ夫れ醫と雖も均しく人也、衣食欠く可らず生活避く可からず醫豈獨り單純に慈善事業たるを得んや若し夫れ政治を貴しとし學問技藝を賤しとする觀念の如きは殆んど一瞥するの値もなし彼のジュンナー氏の天然痘免疫法やコッポ博士の血精療法や其惠澤廣大其功業燦爛誰れか之を彼のビスマークの事業ゴルチャコフの功名に比し劣れりと云ふ者ぞ噫醫業の神聖知るべく醫學の尊貴察すべし近世有爲の學徒争ふて身を醫界に投せんとするの流風ある豈亦宜べならずや爰に三士あり即ち怒濤流れる大島村の開業其吉原揖二君、沖利爲君、見明純男君、の三君なり三君共に弱冠より醫業に志し堅定の志意あり困苦勉勵して其職分の道程を探り勇毅なる行爲を顯して萬難を排し養窓雲業の勳

學をなして遂に醫術として術を究はめざるなく醫學として學を修めざるなく内外科共精練熟達其蘊奧を究め精妙扁鵲の術を得たりと云ふ而して病根を診する周密巨細親切懇到醫家の本分を盡すに於て毫末の遺漏なしと稱せらる、豈大島村の幸福と云ふべし。

**大浦長作君** 獨立は立志の階梯にして忍耐は成業の反影なり獨立の思想ありて宏遠の志氣茲に立ち忍耐の精神ありて偉大の事業爰に成ると宜なる哉大浦長作君内尊外卑の時代に生れ微賤の身を起して來世氣運の趨勢を觀破し百折不撓の勇を揮ひ困苦に屈せず益々膽略と機敏とを以て業務に衝り漸次家運を昌隆からしめ國力伸張の實を揚ぐ近時醬油醸造を本業とし傍ら銘酢を醸出して其名近郷に洽く。

**太田次郎君** 君は明治九年六月一日東彼杵郡川棚村に生る青衿秀雋の譽を以て同地小學中學の科程を卒へ後醫學に志し上京して斯道大家の門に入る明治三十六年東京濟生醫學舎を優等の席を以て卒業し更に東京順天堂及三龍堂に研究を重ね同三十七年現地北松浦郡御厨村に開業す大正三年北里傳染病研究所に入り梅毒科を同四年には殺菌學を研究して歸郷し是等の新智識を實地に活用し以て患者の幸福と醫界の智識向上に努力して倦む事なし又大正五年十二月酒造業を創始し妻君をして是れに衝らしむ而して妻君理財の道に明るく能く此の業を隆昌ならしむ。

**内野義則君** 地方實業の舊聞兒内野君聰明豁達奮闘的生活の中に儉素能く家政を理め毫も祖先の遺算をして失墜せしめず幼童以て村民の上に臨む固之れ祖先の餘慶に由ると雖も抑々才徳多とすに足るものあるおや内野君の如き實に星鹿村の一素封家に生れ奮闘的の業は實に驚くべきものあり君幼より穎悟才氣人に過ぐ郷校を出で、平戸中學に學びしか嚴父勢重の死するや家督を繼承して身を實業に沈頭し漸次擴張して近時木材販賣及製材業並に金貸附業を營み拮据經營遺算なく家運隆昌し地方第一流の實業家を以て稱せらる、又星鹿共同販賣所管人



として材木産業の振起を圖り民衆に敬愛せらる。

今西忠知君 一度び筆を呵すれば千語萬語忽ちに成り行文流麗修理整然人をして一讀三嘆殆んど恍惚たらしむ君は夫れ鎮西に於ける文壇の雄を以て數ふべき人なり、君資性温厚篤實謙讓克く人に下る。著書其叙記すべきを乞ふに當り口を緘して多く語らずと雖も其性行來歴の一斑を見るに君は明治十五年三月を以て北松浦郡星鹿村に生る夙に出藍の譽れ高く學を平戸縣立中學猶興館に修め後笈を負ふて帝都に至り早稻田大學校に入り明治三十七年同專門學校を卒ゆ、歸郷するや直に西肥文化の啓發に任じ九州日ノ出新聞記者として之れに貢獻するところあり爾來其偉名を四海に馳す、眞に學殖豊富にして明智明文衆に過ぎたり、而も春秋豊に抱負遠大なり明治四十年同社を辭し同年長崎商業會議所に奉職して長崎繁榮の爲めに馳驅する事滿三ヶ年同四十二年歸郷星鹿共濟會社を創設し専ら地方金融を圓滑ならしむるに努め又細民救濟の策を立つ、而して近時身を實業に置きライジングサン石油會社代理店、日本石油會社代理店、日本製氷會社代理店として西松浦郡に一手販賣特權を掌握して石油發動船を運送の便に使用し拮据經營取引確實を以て業務賑振を極む、君年齡今や正に三十八、其豊富なる前途君が豊富の資財と慧敏の頭腦と三者相依り相俟つて君が將來は實に赫々たる光明に滿てり、吾輩君の自重を望む益々切ならざるを得ず乞ふ諒之焉。

田中登喜次君 君は明治十九年七月十五日筑後柳川町に生る夙に醫學に志し明治四十三年長崎醫學專門學校を卒業し直に縣立長崎病院醫員となり産婦人科及外科を専攻す勤績四年大正三年十一月兵庫縣高砂町鐘紡高砂病院長として赴任し大正七年六月現地志佐村に於て私立田中病院を經營す、君資性温厚にして沈着醫院新築にして美觀を呈す

太田重俊君 誠厚至篤謙抑遜博愛仁慈の士之れを志佐村の醫家太田重俊君とす君は長崎醫學學校最先の卒業にして明治二十三年現地志佐村に開業せし以來一視同仁病患に接し懇切能く起死回生の業に従ひ以て今日に至れり近時内外往診を養嗣子甚三郎君に委し君は悠々自適恰も世の風塵と關する處なく常に趣味恬淡雪の如き資を備へ能く客を引見して毫も怠態なからしむ吁夫れ君の如き高潔の士果して幾人かある。

志佐鳳洲君 師は北松浦郡志佐村臨濟宗妙寺の住職にして學殖豊富、然かも健全哲學士の肩書を有し信仰熱烈、宇宙の真理に徹底せる、布施愛語、利行同事の機僧をり師資性淡泊にして忠誠、至篤にして謙謙、仁慈博愛にして寛容、名利に淡にして財慾に泊すく一意専心斯界の向上進歩を念んじて席温まるに暇なく恰かも其一身は斯界の天使なるかの感あらしむ、吁々今や宗教界の墮落絶頂に達し名利財慾の爭奪に汲々として飽食暖衣月に花に其慾念を貪るの間に立ち獨り昂然として顔を背け此の如きの事なきのみならず常に佛智無量の智徳に仕隨して樂は貴賤強弱智愚貧富之れ等しかるべき成佛得脱の本裏を成就せんと自己天職を縱横無礙に發揮しつゝあり、敬すべき人傑哉

前田元眞君 君は郡中に於ける達腕の刀圭家にして祖父の代より醫を以て業とし元眞に至る既に三代の名醫なりと、明治十年十一月廿五日北松浦郡福島村に生る君幼より伶俐賢明にして嚴父の志を繼ぎ中學を出でて元第五高等學校醫學部に入學し明治三十一年同校を卒業す、明治三十七年四月日露戰役起るや應召軍務に服し同年七月陸軍三等軍醫に昇進正八位を賜はり同三十八年十月陸軍二等軍醫に進み從七位に叙せらる、同三十九年勳六等單光旭日章を賜ふ凱旋後は自邸に於て一意専念醫學に勵み力を救世濟民の道に竭す君資性温厚にして眞摯人に對して圭角を露さず患者に親切にして蕙蓄せる伎術能く功を奏し地方民衆の信頼を荷なひ第一第二の出張所を設け頗る隆昌



を致せり

田中 修君 明治十五年四月五日の出生なり君幼より穎悟尋常兒童と異なり徒らに嬉戯を事とせず夙に見る處あり君業を以て世に立つの意を決し爾來熱心斯道に勵勉し螢窓雪案の學積んで遂に醫道の蘊奥を極め優良を以て明治四十五年醫術開業試験に及第し初め志佐村に開業せしが君感ずる所あり大正六年四月上京して三井慈善病院及杏雲堂病院に於て實地研習を重ね業成り歸省し大正七年六月現地田平村に開業せり、君手腕卓出、理想高潔、感情清廉、春秋豐富、而も風采の貴公子的なる英膽豪氣なる今や郡中刀圭家中有數の名醫を以て目せらる

間宮 滿夫君 地方達腕刀圭家として夙に世に知られたる間宮滿夫君は北松浦郡世知原村の開業醫にして同郡御厨村の出生なり家系は士族にして醫を業とする君に至る四代の名醫ありと而して君に至り益々其業隆盛を致す嗚呼偉なる哉君は明治十八年五月十五日を以て其家に生る君幼少の頃より才智衆童に過ぐ所謂一を聞ひて十を知るの才あり長ずるに及びて家業の重大にして且其責任の重きを推知し曾に開業醫たるの資格を有するを以て足れりとなすべきの業にあらず苟も此の業を爲さんとするには學識技術を兼備し且經驗を重ねざるべからずとなし唐津養生院或は久留米病院亦是福岡病院其外名醫大家の門に奉職し螢雪雜般の勤學と其研究を重ね終に儕輩を凌ぐの伎倆となり茲に見る處あり大正二年五月現地世知原村中央に開業せり爾來其業に努め所謂物を確中に見るが如く能く其病源を看破し其修得せる治術を施せるが故に地方の信賴著しく揚り追日業務隆盛なるを見る而かもデアアルミ科光線科を特設しあるが如きは郡内君の醫院に在るを見るのみ也

毛利 好一君 博愛仁術を施し救世濟民を以て世に立ち聲望隆々たる君は肥前有數の刀圭家にして一門悉く醫術を業とせり君北松浦郡志佐村の出生にして現時世知原村に開業し醫名隆々たり

林 一太郎君 君は北松浦郡吉井村に醫術を開業し地方醫流界に聲望あり家業隆昌を致せり

品川 徳藏君 君は長崎縣壹岐香椎村勝本の入明治四年八月十日の生誕なり青衿青雲に志し玄海の波濤を厭つて朝鮮釜山に至り米穀行商を營み酷苦勉勵苦心辛慘能く霜雪の勞苦に堪へ運籌畫策能く其機を誤らず駁々として發展し遂に朝鮮に於ける斯界の巨匠たるに至れり近時米穀商として盛運隆々亦精米所を創設して誠意熱心其業に衝り而も多くの公共事に盡瘁しつゝ偉名内外に喧傳せり

久原 嘉十郎君 君は長崎縣壹岐郡石田村の人なり明治四年八月十五日を以て生る君幼より大志剛健著しく衆童に超越す長ずるに從ひて鴻志勃々禁する能はず怒濤中の小天地壹岐の地に鯤鯨天命を待ちて朽ちる之れ快男子の本懐とする處に在らずと君即ち出でて亞細亞大陸の咽喉朝鮮釜山の地に健闘勇奮自己の進路を開拓し當に愛國的精神を以て土木の業に事り夙に朝鮮總督府指定に從ひ鉄道工事に従事して天下國家の啓發に天稟非凡の手腕を揮ひ幾多の難工事に遭遇し邦家の爲め裨益したる處偉績赫然たり君資性温良にして剛氣横溢今や上下の信用と世人の嚮望を一身に蒐め着々として向上し實業道德の道を脱せざる眞に之れ當時異數の人物なり

山崎 貞太郎君 君は肥前杵臼郡武雄町の人なり氏既に早く朝鮮釜山に於て一大飛躍を試み進んで實業界に投じ充分自己の辣腕を振ひ多くの實業を操縦して覇を亞細亞の中原に争ふ君爲人鋭敏豪豁性情能く人を服せしむ在釜山小壯實業家の重鎮として名實列び譽る釜山府池ノ町兩列の家屋は殆んど君の所有にして恰も山崎貞太郎町の概あり又同町朝日商會は君の本店なり

名出 音一君 釜山大廳町二丁目宏壯なる銃砲店あり東亞銃砲火藥店と云ひ名出音一君の經營なり氏は誠意熱心自己商務の發展に努め家道隆盛を極むるのみならず能く信義道德を守り慈善公共に盡瘁淺からざるものあり眞



に敬愛すべき人物なり。

**江口兵作君** 君は對馬嚴原の實業家江口卯吉氏の令息にして明治十三年の出生かり本店嚴原に於ては嚴父卯吉氏家政を擔當して醬油醸造業を營み業務殷盛頗る隆昌を致せり而も嚴父は活動的人潔にして諸種の公共事に關連し盡瘁貢獻しつゝあり、君亦資性溫直にして達觀の眼は宇内の大勢を看破して夙に殖産興業の隆盛を企圖し國利民福を計るは須からく新領土に着眼すべしと揚言し天下雲擾の間に處して能く實業界の機微を察し滔々たる風潮の外に立ち超然別に一乾坤を開き遠く朝鮮馬山に至り明治四十年以來同地に醬油醸造業を經營し不撓不屈汝々汲々其發展に努め業務繁盛斯界に重きを致せり君資性溫和業務に忠實而も高潔なる思想と進取向上の氣象とは能く不磨の天地を開發すべく其前途に益々多幸を語るもの、如し、幸に健在なれ。

**山口稻右工門君** 來世氣運の趨向を看破し天秤棒に身を起し焦心苦慮巧みに商界の風雲を叱咤して碎勵努力着々功を奏し稀代の成功を遂げ其名を當世に喧傳せらるゝもの即ち山口稻右工門君の如きは稀れなり君は肥前杵島郡橘村の人現任朝鮮大邱府本町一丁目なり、君は眞に朝鮮陶磁器卸商界の霸王にして店舗宏壯業務の殷盛を極む而も今や身邊大に衆望の着する所となり數多榮譽の職を負ひ公共事に盡瘁し世人の仰敬を受く亦賢息珠一君俊才を以て稱せられ重孝にして儉素質朴地方青年の模範たり。

**青木孫三郎君** 地方の重鎮として衆民に敬仰せらるゝ君は吉井村の人家には宏壯なる吳服店を經營し賢弟末十君をして其實務に當らしむ賢弟末十君商才あり敏腕にして毫も遺算なからしむ君は夙に地方公共の爲め微軀を盡瘁し汎く庶民の便益を圖り國家の實益を振興して致々勤勉毫も懈怠なし偉なる哉君常に志を時勢の趨向に傾け地方經濟界の不振を慨して勤儉貯金の思想を鼓吹し明治三十九年四月主唱者となり壹發財金組合を起して餘旋盡力する

所あり終に君が盡力奮瘁の功空しからず明治四十五年四月吉井村株式會社の出現を見、大正七年貳萬六千六百四拾四圓の同社總資産となる、同年三月三十一日貯金拂込満了を關し島田長崎縣知事の貴臨を辱ふして盛大なる祝賀會を舉行せり是れ實に徹々たる壹錢貯金の賜にして縣下貯金會社の白眉たり而して君は現に同社專務取締役として其隆盛に力を致す眞に功勞盡大なり尙君は吉井村米券倉庫長たり吉井村信用組合長も然り亦曰はく福井郵便局長其他勤農殖林に至る迄先盡瘁せる功積なり

**中山友太郎君** 多年一日の如く地方自治の釐革に勉め社會公共の福利を増進し郷閭の信望を一身に鐘めて地方民衆の敬愛淺からざる君は元治元年四月八日の生誕なり君明治三十五年皆瀬村長となり各種の公職公事に力盡し治蹟顯著、任期満了毎に重選せられて實に今日に至る、君資性快活、毅骨流動人に接して和氣霽々胸裡を披瀝して快談多事淋漓として大に興趣を喚起せしむ、殊に氣力旺盛實質素にして謙讓の美德を具へ以て地方人心を收斂せる高潔の士なり

**青井伊吉君** 藥學の達腕家として其名既に噴々たる藥劑士青井君は山紫水明の地、山口村相ノ浦の人、明治二十年正月五日を以て生る、君幼より學を好み六歳にして郷校に入學し其學ぶや學績群童を抜たり、進んで縣立平戸中學校に入り秀才頭角を學僚中に卓出す、明治卅五年志を藥學に立て長崎醫學專門學校に學び同三十八年卒業す爾來斯學の研究と既修の學術を研鑽すること數年其間熊本醫專藥學部に或は笈を東部に負ひ在京大家の門を叩く等切磋琢磨の研究をなし其學として學ばざるものなく其道として研究せざるものなし而して君が發明の染料數多名藥ツールの如きは現天下に轟名たり君人となり聰明達事現を看破するに最も敏捷なり此の故に郷黨の敬愛淺さからず地方福利の爲め盡力し企畫概ね人の意表となすべきもの多し加之春秋豊富にして素行端正、人格高潔なり夫れ好漢



よ未だ以て君が生涯を上下するの時にあらずと雖も君が能く今日の公共心と加ふるに發奮、努力、の精神を持って尚變る事なくば君が將來に其名を成すは期して疑はざる處なり、幸に自重せよ

江島定雲 師は北松浦郡筈吹村(浄土宗)阿彌陀寺の住職にして學識深遠道徳堅固信仰熱烈にして人格亦崇高なり曾て大學を卒業し歸來只管佛典の研究に心を潜め常に讀書に親しみ其徹底せる熱烈の信仰は能く人心を感化せしむるに足る真に同宗界出色の人物たり。

### 最新肥前之精華

(第二篇)

終

## 祝發刊

株式會社 日本製鋼所出張所

佐世保市濱田町  
電話特長四三番

### 祝發刊

九州電燈鐵道株式會社

佐世保支店  
佐世保市戸ノ尾町八十番地

### 祝發刊

佐世保市松浦町

日之出商會株式會社

電話特長六〇九番

### 祝發刊

土木鑛山測量工事設計製圖

川副工務所

佐世保市濱田町三三番

自動車  
自轉車  
蓄音器  
部分品

佐世保市濱田町

電話一六四

永石商店

永石伍三

土木建築請負業

藤永勝一

佐世保市泉町

### 祝發刊

久

竹田商店

佐世保市上町三五

電話五二〇番

産婦人科 小兒科 皮膚科 院長 主 久神 瀧 祖 八

佐世保市京坪町

回生療院



佐賀縣杵島郡橘村片白

内外一般科

成松醫院

院長 成松幾次郎

杵島郡橘村上野

内科 外科

坂井醫院

坂井良作

肥前北松浦郡  
世知原村

合資會社

松浦炭坑

祝發刊  
秋月晴

内外科一般

渡邊醫院

東彼杵郡松原



どこ迄も實用本位の

タフト 万年筆

書よくて

丈夫で頗る安い

佐世保市島瀬町

憲兵隊前 ハタサキ支店

は萬年の専門店

専門店は良き品を

安く提供す

値段デ賣ラズ品質ヲ

弊店ノ主意賣ル商略デ賣ラズ

信用ヲ賣ル

最新式ノ品澤山荷着

ドンナ修理モ即時ニ出來マス

祝發刊

香蘭社

深川榮左衛門

有田町

祝發刊

龍源寺

黒瀨道隆

祝發刊

高取伊好

武雄蓬來町

貸座敷業

山口善次郎

祝發刊

醫學士

森田松兵衛

祝發刊

武雄町

銘酒 菊白露

田代元一

佐世保市京坪町

味噌桃製造所

山口熊次

電話七〇三番

佐世保市天満町

小間物問屋 新免支店

專賣特許

宮崎式製繩機  
製造販賣所

宮崎林三郎

佐賀市唐人町

相知村

七福座

場主宮田徳市

骨整醫院

副島虎之助

和洋紙文具商

大石岩吉

佐世保市榮町

血ノ道良藥

天學湯

毒氣妙藥

七福湯

有田町

田代藥局

田代作市

石炭仲買商

吉田欣太郎

唐津町

栗山造船所

栗山半次郎

西唐津港



大村町  
高木齒科醫院  
院主 高木 緋

折尾瀬村  
株式會社  
廣川種市

佐世保銀行頭取  
須藤直方  
米穀仲買商  
早岐町  
峯房商店

伊万里町  
池永合名會社  
池永榮助

海產物問屋  
村村又太郎  
肥前彼杵港

折尾瀬村  
陶磁器製造業  
山口馬之助

醬油釀造業  
一ノ瀬兵吉  
早岐町

伊万里町  
蠟屋吳服店

海產物業  
川尻謙吉  
彼杵港

折尾瀬村三河内  
陶磁器  
仲買商  
金氏嘉吉

早岐町  
松鶴樓  
一流貸席

伊萬里  
黑木鐵工所  
場主 黒木 清

佐世保市戸尾町九〇  
渡邊電氣商會  
佐世保出張所  
責任者 古賀儀作

神浦村  
松江豊太  
林琢治  
宇都宮濱一

梅毒痲病請合藥  
上京町八十八  
田下ラツク商會  
志茂多八

下京町  
藥種商  
高田茂左工門  
樋口孝三商店  
電話四二三

佐世保市塩濱町  
川口俊壽

大串村長  
高月徳治  
朝川傳一  
行履正大

佐世保市宮田町  
醬油釀造元  
卸商 梯政吉

上京町 家具店  
祝發刊  
佐世保紙會社  
市内榮町 電話一六〇

祝發刊  
古賀松之助

大串村  
局長 朝川傳一  
行履正大

井手牛屋

祝發刊  
齊藤源一

祝發刊  
富田愿之助

塩元賣捌  
米穀受問屋  
一ノ瀬シヲ  
早岐町

德富醫院

祝發刊  
齊藤源一

祝發刊  
丸善醬油釀造所

神浦村  
戸川諸平  
小畑喜代七  
日宇爲八  
一ノ瀬兼吉

市內島瀬町一四  
三島醫院

長崎監獄製販賣所  
アセチリン酸素瓦斯  
銻接並ニ切斷所  
谷郷町 松田秀太郎

梅毒痲病請合藥  
田下ラツク商會  
佐世保市下京町  
山豊彦

全  
全  
全  
神浦村  
戸川諸平  
小畑喜代七  
日宇爲八  
一ノ瀬兼吉

石橋回漕店

原豊夫



祝發刊

佐世保市

田中丸商店

一子相傳藥

收血丸

元祖毛利家

神職毛利龍一

山口村相ノ浦港

工業用火藥商

川野平八郎

祝發刊

福井炭坑

七腕炭坑

三岳炭坑

小川内炭坑

江迎村

坑主麓政太郎

石炭仲買商

中島嘉則

佐世保市戸ノ尾町

祝發刊

森永泰兵衛

辯護士

野中猪三郎

祝發刊

八幡神社

岡澤磐門

木場田町鹿毛醫院

鹿毛醫院

海軍病院御用達

橋本牛乳搾取場

福石町 電話 壹貳七番

佐野病院

院長 佐野利章  
部長 產婦人科專門 醫學士 小島三郎  
內科小兒科專門

祝發刊

佐世保市港町

電話長四八番

大倉商事株式會社

佐世保出張所

貸席業 武雄町

中山嘉太郎

貸席業 武雄町

森勝太郎

祝發刊

鹿島銀行

鹿島町

吉田和八

祝發刊

森田判助

迎眼科醫院

濱野株式會社

醫師

朝長一郎

內科外科

醫師 尾崎卯一

杵島郡橋村

潮見感應院靈藥

收血丸

本杵島郡橋村潮見山 元 感應院池上製

久間村 田崎茂一

淨土宗 本應寺

田崎與一

副島合資會社

材木商 一瀬丑太郎

吳服商 宮崎遲吉

葎劔紙切製造 建築材料卸商

白川八十八

肥前藤津郡西山

小城市 井上眼科醫院

小城市 祇園川溫泉

小城市 福田寺

小城市 圓明寺

小城市 原田芳太郎

小城市 煙草元賣捌所

小城市 池田泰三

小城市 江口秀吉

小城市 高原安太郎

小城市 空閑儀三

小城市 堤瓦製造所

小城市 久本昌耀堂

三井物産株式會社

住江出張員

賣藥商 堤ヤツ

外科花柳病 菅劉營醫院

真宗 光樂寺

旅人宿 古川熊吉

德川養毅

內科小兒科眼科 東松浦郡嚴木村 江口敦

相知 田崎醫院

相知 進藤酒造場

相知 福島喜代太

獸醫 山下診療院

武雄町 小林ラム木造所

武雄町 森天真堂

小田町 橫町商店



朝鮮大邱府東本町

### 山中商會

主任 山中通博  
營業 土木建築請負  
製材販賣

記者附言ス君ハ既ニ早ク内地各鐵道或ハ台灣鐵道又朝鮮京釜京義線其他水力電氣水路工事等ニ巨腕ヲ振ヒ世人ヲ驚嘆セシメタル斯界異數ノ人也近時大邱東本町山中商會ヲ設立シ斯業ニ靈腕ヲ揮ヒ傍ラ朝鮮農業株式會社資本金六十萬圓ノ取締役又京城萬生社長ヲ兼ネ名聲錚々タリ

朝鮮釜山府

### 鐵工所

店主 岩井庄治  
同所ハ大正元年ノ創設ナリ今ヤ朝鮮唯一ノ鐵工所トナリ設備完全逐次業運旺盛ニ向フ

朝鮮釜山府

古地金仲買商

### 杉浦又次郎

君ハ靜岡縣出生也大正三年渡鮮大正七年十萬圓ヲ投ジ富士商會ヲ創立シ京城ニ支店ヲ置ク

製紙原料及古鐵商

### 谷口半三郎

君滋賀縣ノ人明治四十四年渡鮮釜山ニ於テ家運隆昌日月進ム

釜山府

### 山口陶器店

店主 原光次郎  
君肥前西松浦郡ノ人近時商運隆昌ナリ

朝鮮釜山港南濱町

金物商

### 山本商店

電話七六六番

古銅古鐵商

### 松尾梅藏

君ハ業務ニ熱心結果信用ヲ贏チ業務隆々タリ

### 釜山市六競賣所

主任 川村清三郎  
記者曰君肥前高來郡ノ人資性濃厚業務熱心

朝鮮釜山大廳町三

### 大隅善助

記者云フ君ハ青嶺ヨリ青雲ニ志シ明治四十五年渡鮮空鐵仲買ニ力關シ漸次隆昌傍ラ豆粕肥料商ヲ營ミ近時更ニ鑛業ニ活躍シ成功途上ニアリ

古鐵古銅製紙原料商

### 三上柳助

君ハ誠實熱心ヲ唯一ノ利器トシテ商戰ニ力關シ近時商運向上隆盛ナリ

硝子製造業

### 古賀九一郎

君ハ福岡縣出生也明治三十七年官吏トシテ渡鮮シ大正二年雄圖實業ニ志シ硝子製造業ヲ創始ス歐洲戰亂勃發後大ニ業務擴張近時其信用旭日隆々タリ

朝鮮釜山鎮

製紙原料古銅鐵商

### 安田榮吉

君ハ岐阜縣ノ人明治十七年九月ノ出生ナリ大正元年渡鮮苦心慘憺其間ニ奮闘シ大正二年層屋ヲ營業シ堅實能ク勤勉シ漸次隆昌ニ向ヒ近時ハ古銅鐵商トシテ名聲アリ

古鐵及鑄機械商

### 中島竹次郎

釜山本町

土木請負業

### 木下元次郎

朝鮮釜山 電話六三七  
記者曰ハ君ハ岡山縣ノ人明治九年生同三十九年渡鮮朝鮮總督府指定ニ從ヒ土木請負ニ從事シ傍ラ公共ニ盡ス現ニ釜山商工會議所議員タリ

齒科醫院

### 深江尙弟

朝鮮釜山

日本齒科醫學士

### 福井鳴人

釜山草梁

### 田中筆吉

朝鮮釜山草梁  
君愛國的精神ヲ以テ土木請負業ニ從事シ朝鮮發展ニ盡ス事甚ダ多シ又平素君力不撓不屈ノ精神ハ信用ヲ贏チ家運大ニ進ム

祝發刊

### 北野雄三郎

朝鮮統營港

朝鮮統營港

### 御崎忠吉

祝發刊

### 河内一宗

朝鮮統營港

石油空運新古鐵商

### 福永商店

朝鮮統營港

朝鮮統營港

### 池田藥店

電話二一〇番

建築請負業

### 中島丈次郎

釜山高砂町二  
電話三八〇番

洋燈硝子器製造卸商

### 小佐釜山支店

小佐助一郎  
(釜山幸町) 電話四二二三番

船舶貨物取扱

### 釜山共回漕店

電話七〇一番  
主任 小川實藏  
富永孫三郎

船舶取扱海陸貨物運送業 (電話八六五)

### 回漕部

釜山府佐露町一〇

土木請負業

### 和田周太郎

朝鮮釜山池ノ町  
記者曰ハ君斯界異數ニシテ常ニ業務ノ發展ヲ圖リ歲月ト共ニ家業隆盛ニ向フ君資性濃厚人ニ敬セラレ

代書事務取扱

### 荒木龜太郎

君ハ長崎縣南松浦郡ノ人性濃厚頭腦明敏ナル人

朝鮮統營港

### 富永源助

君ハ肥前壹岐郡ノ人統營水産界ノ重鎮タリ

祝發刊

### 米山熊吉

肥前南松浦郡福江町出生現時朝鮮統營港在公共心厚キ人也

### 安部製帽店

朝鮮釜山辨天町

材木薪炭商

### 田口彌惣支店

主任 田口愛治  
釜山幸町 電話九二〇  
君ハ長崎縣ノ人志操堅實業ニ忠誠商勢近時著シク隆昌ニ向フ



古須 水堂安福寺

日獨製藥株式會社

大町村支部 坂井

精米業 稻富新平

山口驛南

乾物鑲詰和洋酒荒物

山口驛西 水頭サト

陶器商 大渡熊次

獸醫 石橋辰之助

獸醫 大野榮三

平戸町 吉田幸吉

內外科 森下幸吉

大野村 尾崎醫學院

醫師 大坪秀造

佐世保 宮田勝次

北松浦郡大野村

西蓮寺住職 茨木

時計各種眼鏡式  
金屬類指輪製作

山口村相浦

山榮堂時計店

酒造業 中里村

川下龜重

支店 佐世保常盤町

眼科專門

笹山安行

北松浦郡佐々村

齒科專門

宮崎邦雄

北松浦郡志佐村

志佐酒造

株式會社

齒科專門

川上英繼

北松浦郡江迎町

第二小樽尋常小學校

校長 武次繁松

肥後八代町千佛角

松島回送本店

電話特長五番

松島喜平

炭平九郎

荒物酒類米穀乾物砂糖糖漬  
煙草其他卸小賣  
肥後八代町

齒科醫學士 増田熙

肥後八代町字中島

八代郡 宮原町 井芹銀行

內科小兒科專門

吉村剛

朝鮮大邱大和町

記者附記ス

君ハ青森縣出生明治四十二年  
九州醫科大學ヲ卒業大正二年  
以來大邱慈惠醫院副院長タル  
事五星霜大正六年現地ニ開業  
ス同地醫界中達腕家トシテ  
界明星ト評ホラル

齒科醫 朝鮮大邱

金子英志

君ハ高知縣出生東京齒科專門  
學校ノ出身ナリ

齒科醫 朝鮮大邱

伴力

君ハ多年練磨經驗セル學術ヲ  
以テ名聲籍甚タリ

大浦精米所

朝鮮大邱府市場

株式會社 殖産銀行

男爵 大村武純

少將 武藤信義

大村中學校長 澁江

高島村 中島マヌ

署長 原口四郎吉

青木友三郎

松尾澱粉所

長郡 小野七五三藏

今道澱粉所

中尾守助

永田熊作

中尾又作

澤田秋次

吉川雄次

共同株式會社

酒造 森源治

渡邊北一

醫師 岩永銳二

福田彌八

朝永丈吉

本尾圓次郎

力武旅館

高島村 横田順一郎

全 中村忠次郎

全 山田熊市

教育 森崎桂市

醫師 牧野永太郎

原口五一

香燒村 圓福寺

脇岬村 吉田醫院

野母村 淨福寺

教育家 岩永醫院

福村田 猪股見藏

伊木力 郵方便局

式見尋常高等小學校 緒方便太郎

局長 佐藤雄太郎

村長 原禮二郎

教育家 吉田莊次郎

志波原三郎

小ヶ倉 西田醫院

小ヶ倉 了願寺

神之浦 洲加本六四郎

黒瀬村 佐藤勇八

村長 朝長鶴市

醫師 田崎友市

大串 相川正一

黒崎村 山口達右衛門

蚊燒村 橋本宗信

村長 岩永富士松

校長 近藤久喜

醫師 鐘江松治

樺島村 高島誘化院

樺島村 森喜三郎

神ノ浦 一瀬久太郎

肥前松原村鹿の島 島原惣平

郵便局長 安藤鯛助

松島 岩松秀一

古賀熊藏



長崎市外浦上 天主堂

川棚村酒造業  
松尾啓一郎

上波佐見村長  
小川寅治

内科産婦人科  
坂口慶一

天草電氣株式會社  
常務取締役  
福田梅吉

帆船造船業  
池崎芳太郎  
天草郡鬼の池

天草本渡町  
合名會社  
中村藥局

天草本渡町  
綠屋本店

天草本渡町  
渡邊延

天草郡本戶村  
曹洞宗明德寺  
住職 神田祥雲

西彼杵郡平島村  
旅館  
林田儀助  
各等歡迎新築落成

伊万里  
堀田庫三

東山代村  
内山病院

秋元  
伊万里炭礦

有田町  
久米眼科院

有田町  
南里齒科院

松浦長  
松永七藏

祝發刊

增富清太郎  
有田町

古賀藥店

有田町  
久富製磁所

高島村  
三軒家市太

助役  
中山石峯

局長  
前田和佐治

教師  
益永覺音

主治  
驅毒散  
微毒癩病 橫根 疥瘡 下疳 胎毒 妙藥  
有田郡西十五丁

唐津町  
株式會社  
相互銀行

祝發刊  
吉田兼藏

大河内正夫  
唐津滿島村

北波多村酒造業  
前田勇吉

湊村長  
浦田與一

武雄町  
宮原齒科醫院

武雄松原町  
嶋田自車轉商會

武雄町  
窓の梅酒店

藥種商  
雪澤金太

醫師  
諸富武七

中村嘉四郎

教育家  
柴田清記

浦上山里聖瑪理學院  
森與重

浦上山里村宣教師  
青木義雄

浦上山里村  
牟田千万人

醫師  
岩永榮太郎

酒造  
片岡酒場

長崎浦上山里村  
宣教師  
山下甚五郎

蠟油製造業  
松本莊助  
長崎市外浦上山里

日見浦  
福崎健太郎

漁業  
松竹鐵三郎

酒商  
松田駒三郎

日見村  
沖津秀作

漁業  
林田義夫

矢上村  
千綿幸三

本田伊之助

崎戶村  
中島甚兵衛

吳服商  
古場商店

坑木材木  
樽美寬一

蠟浦  
山下幾藏

海陸物產商  
松尾伊八郎  
崎戶村

藥種商  
樽美藥店  
崎戶村

水産業及酒類雜貨  
山口久一郎  
崎戶村

崎戶  
瀨口國太郎

肥料商  
吉本末藏

肥料商  
原口俊一

崎戶村水産肥料  
原口又玄

米穀酒類肥料  
崎戶村  
松尾福治

雪の浦村  
醫師  
佐藤寅藏

雪ノ浦小學校  
古川助太郎

長崎員鉦川棚支店  
株式會社  
中村福藏

松尾甚四郎

學校長  
辻淺太郎

醫師  
河野醫院



500  
54

高濱村 村長 千屋孝行 助役 三浦友造 校長 梅野房太郎	長崎貝卸株式會社 長浦第一第二第三 分工場主任 鶴羽金一	產科 平島芳平 小兒科 野母村 平島沃度化學工業所 所長 平島芳平	水業產 森喜三郎 樺島村	長崎市西濱町 內外石輪卸問屋 化粧品卸問屋 吉井商店
肺病特效藥天光 小ケケ倉 本願寺說教所	長崎 小林回漕店 藥品貿易商 鈴田三光堂 長崎市藥町 電話五〇八番	長崎陶器株式會社工場 技師長 竹腰直次郎 痲病微毒藥 効力請合 無効返金 長崎市浦五島町四四 阪大 ドラック商會	長崎市玉江町二丁目七 諸機械附屬品 塗料帆具電氣修繕 田尾商店 電長一三六九	
長崎市大波止棧橋前 小林回漕店 電話四五三番	西彼電氣株式會社 取締役 須崎太郎 內科小兒科 醫師 鈴木美德	瀨戶村 塚本商店 質屋 山口鶴松	瀨戶旅館 平山忠次郎 高濱村 山下無門 眞寺院 金福寺 神職 三浦丈太郎 魚住喜太郎	
肥料雜貨商 西川好兵衛 瀨戶村	吳服太物商 佐々木忠助	水產業 瀨戶 今井定平	海產物商 板ノ浦 荒川嘉太郎	米穀酒類肥料商 中谷半作
	古賀酒店	志賀罐詰所	肥料製造 松島 松本藤太郎	松島 淵上商店

大正十年一月十三日印刷  
大正十年一月十五日發行

最新肥前精華  
定價壹圓五拾錢

佐賀縣杵島郡橘村五千九百四拾五番地  
當時佐世保市太田町百五拾五番地

佐世保市太田町百五拾五番地

佐世保市松浦町五拾壹番地

井上一

改報社

印刷人 熊澤武二



終

